

履修の手引き

令和6年度（2024年度）入学生用

理工学部

この手引きには、学習の計画を立てるため、そして卒業するために必要な情報がたくさん書かれています。

【 内 容 】

- I 科目履修に当たって知っておくべきこと
- II 教養教育について（農学部共同獣医学科を除く）
- V 専門教育について【理工学部】
- VIII 教育職員免許状・各種資格の取得方法
- IX 国際教育科目について

※この手引きを読んで、わからないことがあったら
学生センターA棟1F窓口にご相談に来てください。
※この手引きは卒業まで大切に保管してください。



国立大学法人

岩手大学

IWATE UNIVERSITY

令和6年度（2024年度）行事日程

前期	4月	別途掲示		定期健康診断（学部の令和6年4月入学生以外）	
		3日（水）		外国人留学生オリエンテーション	
		4日（木）		学部新入生学生証等配付	
		5日（金）		入学式 編入生オリエンテーション	
		8日（月）		学部新入生オリエンテーション 新入生交流会（新入生歓迎実行委員会主催）	
		9日（火）～10日（水）		定期健康診断（学部の令和6年4月入学生）	
		9日（火）～11日（木）	前期履修申告		
		15日（月）	授業開始【前期・クォーター（Ⅰ）】		
		15日（月）～21日（日）	履修申告訂正		
		30日（火）	月曜授業の日		
	5月	1日（水）	金曜授業の日		
		7日（火）～13日（月）	履修申告取消期間		
		20日（月）		前期授業料口座引落日	
		18日（土）		盛岡・つなぎ間ロードレース大会	
	6月	1日（土）		開学記念日	
		6日（木）	クォーター（Ⅰ）補講日		
		7日（金）	授業開始【クォーター（Ⅱ）】		
		21日（金）～27日（木）	クォーター（Ⅱ）科目履修申告取消期間		
	7月	19日（金）	月曜授業の日		
		29日（月）～8月2日（金）	前期・クォーター（Ⅱ）補講日		
		下旬		前期授業料免除結果通知	
	8月	7月29日（月）～2日（金）	前期・クォーター（Ⅱ）補講日		
		5日（月）～9月30日（月）	夏季休業		
		6日（火）		オープンキャンパス	
		9日（金）～16日（金）		全学一斉休業（閉庁）	
	9月	8月5日（月）～30日（月）	夏季休業		
		25日（水）		9月卒業式	
		30日（月）	前期成績発表		
		30日（月）～2日（水）	後期履修申告		
	後期	10月	9月30日（月）～2日（水）	後期履修申告	
			1日（火）		10月入学式
			4日（金）	授業開始【後期・クォーター（Ⅲ）】	
			4日（金）～10日（木）	履修申告訂正	
			18日（金）	全学休講（午後）	
			19日（土）～20日（日）		大学祭
		11月	22日（火）～28日（月）	履修申告取消期間	
7日（木）			月曜授業の日		
19日（火）			全学休講（午後）		
20日（水）			全学休講	【入試】学校推薦型選抜 後期授業料口座引落日	
12月	29日（金）	クォーター（Ⅲ）補講日			
	2日（月）	授業開始【クォーター（Ⅳ）】			
	中旬		後期授業料免除結果通知		
	16日（月）～20日（金）	クォーター（Ⅳ）科目履修申告取消期間			
	23日（月）	木曜授業の日			
	24日（火）	金曜授業の日			
	25日（水）～1月5日（日）	冬季休業			
1月	28日（土）～1月3日（金）		全学一斉休業（年末年始休業）		
	12月25日（水）～5日（日）	冬季休業			
	12月28日（土）～3日（金）		全学一斉休業（年末年始休業）		
	16日（木）～17日（金）	全学休講			
2月	18日（土）～19日（日）		大学入学共通テスト		
	4日（火）～10日（月）	後期・クォーター（Ⅳ）補講日			
	20日（木）～21日（金）		入試準備日		
3月	25日（火）～26日（水）		【入試】一般選抜（前期）		
	10日（月）～11日（火）		入試準備日		
	12日（水）		【入試】一般選抜（後期）		
	24日（月）		卒業式		
	25日（火）～31日（月）	春季休業			
	31日（月）	後期成績発表			

※ 上記の日程は変更になる場合があります。日程の変更及び令和7年度以降の日程は、アイアシスタントでお知らせします。

※ 試験期間は特に設けませんので、試験については授業担当教員の指示に従ってください。

※ 以下の日は、事務窓口が開いていないため事務手続き等（証明書自動発行含む）は行えません。

土曜日、日曜日、祝日（授業実施日含む）、全学一斉休業日及び入試等により入構できない日

目次

令和6年度（2024年度）行事日程

I 科目履修に当たって知っておくべきこと

1 教育理念・教育目標	I-1
2 学期区分	I-1
3 本学の履修科目及び履修時期	I-2
4 授業科目の単位	I-3
5 成績評価	I-4
6 授業時間	I-4
7 時間割表の見方	I-4
8 総合学修支援システム	I-5
9 履修の申告	I-5
10 履修科目登録単位の上限	I-6
11 他学部開講科目の履修	I-6
12 他大学の授業科目履修における単位認定	I-7
13 放送大学の授業科目履修における単位認定	I-8
14 資格試験等による単位認定	I-9
15 ボランティア活動による単位認定	I-10
16 試験	I-10
17 成績評価に異議がある場合の問い合わせ	I-11
18 成績優秀者	I-11
19 卒業時に授与される学位	I-12
20 3年以上4年未満での卒業（早期卒業）	I-12
21 長期履修学生制度	I-12
22 転学部制度	I-12
23 転学科・転課程制度	I-13
24 学部3年次修了者の本学大学院への入学	I-13
25 その他	I-13
参考 学生の修得すべき単位数	I-14
学籍番号	I-14
用語集	I-15
I ⁿ Assistant2.0 & WebClass & I ⁿ Folio	I-16

II 教養教育について（農学部共同獣医学科を除く）

1 教養教育の理念	II-1
2 教養教育の教育目的と修得すべき能力	II-1
3 履修方法及び開設授業科目	II-6
4 選択について	II-10
参考 開設授業科目要件区分／標準履修学年・時期早見表	II-11
5 各学部の履修単位数及び履修方法	
人文社会科学部	II-13
教育学部	II-15
理工学部	II-17
農学部（共同獣医学科を除く）	II-19

※履修の手引きの訂正等は、アイアシスタントや掲示版でお知らせします。

Ⅲ 専門教育について【人文社会科学部】

1 人文社会科学部の理念・目的	Ⅲ-1
2 卒業認定・学位授与の方針，教育課程編成・実施の方針	Ⅲ-2
3 人文社会科学部教育課程規則	Ⅲ-2 6
4 人文社会科学部教育課程履修細則	Ⅲ-2 7
5 卒業に必要な単位数および主・副専修プログラム等について	Ⅲ-2 9
6 人間文化課程 科目等一覧	Ⅲ-3 7
7 地域政策課程 科目等一覧	Ⅲ-5 8
8 課程横断型プログラムおよび課外科目一覧	Ⅲ-6 9
9 取得可能な資格等について	Ⅲ-7 2

Ⅳ 専門教育について【教育学部】

1 教育学部の理念と目的，学位授与の方針，教育課程規則，課程等の紹介	Ⅳ-1
2 教育学部の専門教育科目卒業要件	Ⅳ-8
3 授業科目及び履修年次	Ⅳ-2 2
4 副免及びその他の教員免許の取り方について	Ⅳ-4 2
5 日本語教育副専攻科目について	Ⅳ-6 6

Ⅴ 専門教育について【理工学部】

理念と目標，教育目的，修得すべき能力	Ⅴ-1
理工学部及び各コースの学位授与の方針，教育課程編成・実施の方針	Ⅴ-2
1 岩手大学理工学部教育課程規則	Ⅴ-1 4
2 理工学部専門教育課程	Ⅴ-1 6

Ⅵ 専門教育について【農学部（共同獣医学科を除く）】

農学部の理念と目標，教育目的	Ⅵ-1
各学科等の教育目的，学位授与の方針，教育課程編成・実施の方針	Ⅵ-1
1 岩手大学農学部教育課程規則	Ⅵ-1 2
2 学生が修得すべき単位数	Ⅵ-1 3
3 農学部専門教育科目履修表	Ⅵ-1 4
※各学科カリキュラムマップ	

Ⅶ 農学部共同獣医学科について

1 共通教育について	Ⅶ-1
2 専門教育について	Ⅶ-6
※カリキュラムマップ	Ⅶ-1 1

Ⅷ 教育職員免許状・各種資格の取得方法

1 教育職員免許状の取得に当たって	Ⅷ-1
人文社会科学部	Ⅷ-2
理工学部	Ⅷ-1 1
農学部	Ⅷ-2 3
2 その他各種資格の取得に当たって	Ⅷ-2 5

Ⅸ 国際教育科目について

1 国際教育科目の理念と教育目標	Ⅸ-1
2 履修方法および開設授業科目	Ⅸ-3

X 関係法規等

1 岩手大学諸規則	
2 関係法令	

I

科目履修に当たって 知っておくべきこと

I 科目履修に当たって知っておくべきこと

1 教育理念・教育目標

本学は、「教育理念」として次のことを掲げています。

真理を探究する教育研究の場として、学術文化を創造しつつ、幅広く深い教養と高い専門性を備えた人材を育成することを旨とするとともに、地域社会に開かれた大学として、その教育研究の成果をもとに地域社会の文化の向上と国際社会の発展に貢献することを旨とする。

また、本学では教養教育と専門教育の調和を基本として、次のような資質・能力を兼ね備えた人材の育成を「教育目標」としてしています。

- (1) 幅広く深い教養と総合的な判断力を合わせ持つ豊かな人間性
- (2) 基礎的な学問的素養に裏打ちされた専門的能力
- (3) 環境問題をはじめとする複合的な人類的諸課題に対する基礎的な理解力
- (4) 地域に対する理解とグローバル化に見合う国際理解力
- (5) 柔軟な課題探求能力と高い倫理性

本学の学生の皆さんは、大学の教育理念・目標に基づき、それぞれ人文社会科学部、教育学部、理工学部、農学部に入學し、卒業するまでの4年間（農学部共同獣医学科は6年間）に教養教育科目（農学部共同獣医学科は共通教育科目）及び専門教育科目を履修し所定の単位を修得しなければなりません。

卒業に要する最低修得単位数は、教養教育科目が27～43単位、共通教育科目が44単位、専門教育科目が82～158単位です。

また、教育学部の学校教育教員養成課程以外の学科・課程の学生が教育職員免許状を取得しようとする場合は、更に教職教育科目を履修する必要があります。※農学部共同獣医学科では教育職員免許状を取得することはできません。

なお、履修は全て単位制をとり、履修すべき授業科目については大幅に選択制がとられています。したがって、履修科目は、同じ学部・学科・課程であっても各人により異なる部分があります。

この複雑な科目履修制度をできるだけ早く理解し、所期の目的が達せられる計画を立ててください。

ただし、本書の中では一般的な説明が主であるため、細部については担任教員や教務委員などの指導を受けながら学修内容の全体をよく研究し、学修計画を立てるようにしてください。

2 学期区分

1年間を前期、後期の2期に分け、**前期は4月1日～9月30日、後期は10月1日～3月31日**となっています。（学則第32条）

3 本学の履修科目及び履修時期

本学の履修科目は、大別すると次のとおりです。

- ・ **教養教育科目**（実践知科目，技法知科目，学問知科目）

教養教育科目は1年次に多く開設しており，2年次，3年次と学年が進むにつれて減少します。

科目等の詳細については「II 教養教育について」を参照してください。

- ・ **共通教育科目**

共通教育科目は農学部共同獣医学科のみ開設しています。

科目等の詳細については「VII 農学部共同獣医学科について」を参照してください。

- ・ **専門教育科目**

専門教育科目は各学部で開設しており，1年次には少なく，2年次，3年次と学年が進むにつれて増加します。科目等の詳細については各学部の項を参照してください。

※農学部共同獣医学科については「VII 農学部共同獣医学科について」を参照してください。

- ・ **教職教育科目**

各学部で開設しており1～4年次で履修します。

履修方法は「VIII 教育職員免許状・各種資格の取得方法」を参照してください。

- ・ **国際教育科目**

国際教育科目は，外国人留学生を対象に英語で授業を行う科目ですが，日本人学生も受講することができます。詳細は「IX 国際教育科目について」を参照してください。

4 授業科目の単位

大学では、授業と、授業時間外における学習（以下、授業外学修※）を所定の時間満たすことで単位が認定されます。

※端的には、高等学校では授業時間＝単位でしたが、大学では授業＋授業時間外の学習＝単位となります。この授業時間外の単位認定に関わる学習のことを授業外学修と言います。

各科目の単位と必要な学修時間は、授業の種別によって以下の通り定められています。

	種別	授業 (分)	回数	単位	授業外学修 (時間)
教養教育科目 共通教育科目 (農学部共同 獣医学科)	基礎ゼミナール 外国語 健康・スポーツ 実習, 演習	100	14	1	15
	実験	150	14	1	0
	上記以外	100	14	2	60
専門教育科目 教職教育科目	実験, 実習, 実技など	100	14	1	15
		150	14	1	0
		150	28	2	0
		150	42	3	0
		300	7	1	0
	演習	100	7	1	30
		100	14	1	15
		100	14	2	60
専門教育科目 教職教育科目	講義 (グループワークなどが行 われることもあります)	100	7	1	30
		100	14	2	60
農学部 共同獣医学科 専門教育科目	実習	135	15	1	0
		135	45	3	0
	講義 (グループワークなどが 行われることもあります)	45	15	1	30
		90	15	2	60

《解説》

例えば、教養教育科目の「基礎ゼミナール」は100分の授業が14回で1単位となり、授業以外に計15時間の授業外学修（予習や復習、課題への取り組みなど）が必要になります。また、講義で14回2単位の科目は、授業以外に60時間の授業外学修が必要になります。

《授業外学修時間の算出》

大学設置基準第21条第2項により45時間の学修で1単位と規定されていることから、単位に応じて授業で不足する時間により授業外学修時間が得られます。本学では授業45分を1単位時間として計算し、標準的な90分（2単位時間）×15回＝1350分（30単位時間）を、100分×14回＝1400分で30単位時間と見なします。2単位科目は90時間の学修を必要としますので、授業時間の30単位時間を引いた残り60時間が授業外学修時間となります。

なお、農学部共同獣医学科は90分（2単位時間）×15回で30単位時間と見なします。

5 成績評価

成績の評価方法は、試験、報告書、論文及び平常の成績（授業への参加度等）によって行われます。（学則第40条第2項）

成績の評価は、次のとおりです。

評 価		評 点
合格	秀	100点～90点
	優	89点～80点
	良	79点～70点
	可	69点～60点
不合格	不可	59点～0点

なお、各科目の具体的な成績の評価方法及び基準はシラバス（講義要目）に掲載されています。

6 授業時間

時限	1	2	3	4	5	6
時間	8:35～10:15	10:30～12:10	13:00～14:40	14:55～16:35	16:50～18:30	18:40～20:20

【農学部共同獣医学科専門教育科目】

校時	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10	11・12
時間	8:40～10:10 (8:45～10:15) *	10:30～12:00	13:00～14:30	14:45～16:15	16:30～18:00	18:10～19:40

注（）*の時間は遠隔講義の時のみ

7 時間割表の見方

（1）教養教育科目

教養教育科目の授業時間割表を熟読し、履修してください。

1・2年次においては、所属学部学科及び課程毎に履修できる授業科目が指定されていますので、必ずその枠内で履修してください。指定された枠組で履修すれば2年間で教養教育科目の履修すべき単位数を修得できるよう計画されています。

「文化科目」，「社会科目」，「自然&科学技術科目」，「環境科目」，「地域科目」は、授業時間割表の下段の選択科目欄に授業科目名が記載されているのでその中から選択してください。

履修申告者が多い場合は、履修を制限する場合があります。

授業時間割表の見方並びに履修について不明な点がある場合は、学生センターA棟②番窓口にお問い合わせください。

（2）共同獣医学科共通教育科目

農学部共同獣医学科の授業時間割表を熟読し、履修してください。

授業時間割表の見方並びに履修について不明な点がある場合は、学生センターA棟④番窓口にお問い合わせください。

（3）専門教育科目

所属学部毎に異なりますので、各学部の授業時間割表を熟読し、履修してください。

授業時間割表の見方並びに履修について不明な点がある場合は、学生センターA棟③番窓口または④番窓口にお問い合わせください。

8 総合学修支援システム

本学では、大学での学修を支援するため、ポータル・シラバス・LMS等のさまざまなシステムを利用しています。

詳細は「Iⁿ Assistant2.0 & WebClass & Iⁿ Folio (アイアシスタント2.0 & ウェブクラス&アイフォリオ)」を参照してください。

9 履修の申告

学期の初めには、必ず**履修申告期間内に履修申告（授業科目の登録）をしなければなりません**。申告をしないと授業を受けることができず、単位の取得もできません。忘れずに、必ず履修申告をしてください。

また、集中講義科目の中には、学期の途中に履修申告期間を設定する場合があります。その場合、履修申告の日時等は掲示でお知らせします。

なお、前期は5月中旬、後期は10月下旬（学年暦参照）に履修申告をした科目を取り消すことができます。（ただし、集中講義科目は開講日の2週間前まで）詳細は掲示でお知らせしますが、**あくまでも取り消すだけで、他の科目へ変更することはできません**。

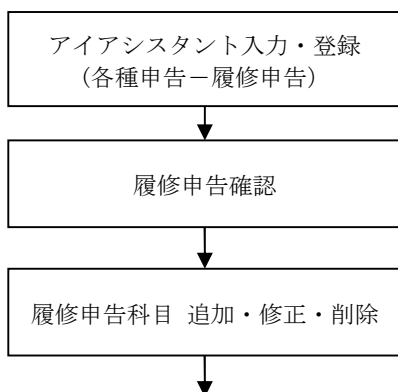
（1）履修申告する際の注意事項

- ・「授業時間割」、「シラバス（講義要目）」、「履修の手引き」により、履修したい授業科目が自分の学部・学科（課程）・学年の受講対象となっているかよく確認してください。
- ・履修申告する際は、「授業時間割」に記載されている時間割コード（アルファベットと数字の4桁）を、正しく入力しているかよく確認してください。
- ・同じ授業科目でも、担当する教員によって時間割コードが異なります。担当教員名を確認してください。
- ・同一時間に複数の授業科目を重複申告することはできません。
- ・履修登録できる単位数に上限があります。上限は、1学期につき24単位（編入学生及び成績優秀者は28単位）までです。詳細は、「10 履修科目登録単位の上限（CAP制）」を参照してください。

（2）履修申告方法

- ・履修申告は、アイアシスタントから行ってください。
- ・集中講義は開講の都度、履修申告を行います。申告方法は掲示でお知らせします。

アイアシスタントから履修申告（集中講義の申告はできません。）

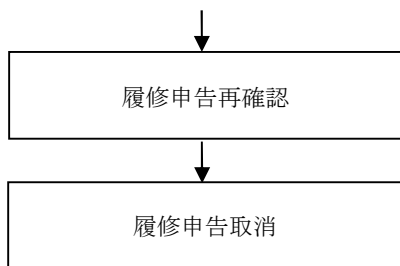


授業時間割表に基づいて、各自で履修計画を立て、**上限単位数を超えないように、履修する全科目をアイアシスタントにある各種申告の履修申告から入力**してください。

履修申告結果は、指定された日に**アイアシスタントのMy時間割に表示**されます。

各自で「**時限（校時）・科目名・時間割コード**」などが**正確に登録されているか**を必ず確認してください。

履修申告エラーがあった場合、または科目を追加・修正・削除したい場合には、指定された日までに、再度アイアシスタントにより、履修申告を訂正してください。



指定された日以降は、訂正できません。
 なお、履修申告の取消しは後述のとおりです。
 履修申告結果をアイアシスタントで必ず確認してください。

学修上の理由で履修申告を取消したい場合、指定された履修取消期間に限りアイアシスタントより履修申告を取り消すことができます。

10 履修科目登録単位の上限（CAP制）

授業科目は、1単位当たり45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする（学則第38条）とされています。

そのため、授業のみならず授業外学修（予習や復習、課題への取り組みなど）の時間も加味した、無理のない学修計画を立てる必要があります。

本学では、学生が1学期間に履修登録できる単位数を次のとおり定めています。

（X 関係法規等「岩手大学における授業科目の履修登録単位数の上限に関する規則」参照）

- ・履修登録単位数の上限は、**1学期につき24単位**までとする。
- ・履修登録単位数の上限の対象科目は、「卒業要件科目」とする。
 ただし、卒業要件科目のうち、「集中講義の授業科目」、「教育実習」、「卒業・特別研究」、「いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換科目」、「放送大学における単位互換科目」は対象から除外する。
- ・**教育学部学生**の履修登録単位数の上限は、**1学期につき28単位**までになる場合がある。（IV-21ページを参照）
- ・**成績優秀者及び編入学生**の履修登録単位数は、**1学期につき28単位**を上限とする。（成績優秀者については「18 成績優秀者」を参照）
- ・教育職員免許取得希望者（教育学部学生を除く）が履修する教職に関する科目、教科の指導法に関する科目（VIII参照）の登録単位数の上限は、「卒業要件科目」と合わせて1学期につき28単位までとする。ただしこの場合でも、「卒業要件科目」の登録単位数の上限は1学期につき24単位までとする。

11 他学部開講科目の履修

本学では、自分の所属する学部の専門教育科目だけでなく、他学部の専門教育科目についても、一定の条件のもと、その講義を受講し単位を修得することができます。修得した単位については、学部、学科・課程ごとに定める範囲で卒業に必要な単位として認定することができます。

他学部の学生が受講可能な授業科目や受講の条件等については、別途お知らせしますので、掲示に注意してください。

1 2 他大学の授業科目履修における単位認定

本学では、多様な授業を受けられるよう他大学と単位互換に関する協定を結びました。講義を受講し単位を修得すれば、卒業に必要な単位として認定されます。

受講には手続が必要ですので、その都度、掲示でお知らせします。

区分	いわて高等教育コンソーシアム	
協定校	岩手大学，岩手県立大学，岩手医科大学，富士大学，盛岡大学，岩手保健医療大学，一関工業高等専門学校	
身分	特別聴講学生	
授業料等	入学料，授業料，検定料は無料 ただし，追・再試験の検定料は受講大学によっては必要な場合があります。	
開講科目	開講校が許可した科目を受講することができます。詳細は、いわて高等教育コンソーシアムの「単位互換」ページで確認してください。	
出願期間	前期：4月上旬 後期：7月上旬～8月下旬	
卒業単位上限	教養教育科目	<p>教養教育科目の選択の単位として認定します。 (農学部共同獣医学科の共通教育科目は該当しません。)</p> <p>人文社会科学部：4単位まで 教育学部：2単位まで 理工学部：5単位まで 農学部：4単位まで</p>
	専門教育科目	学部によって自由選択科目または選択科目の単位として認められます。詳細は、Ⅲ～Ⅶの各学部専門教育のページを参照してください。

※ 上記の出願期間は予定の期間となりますので、詳細は掲示でお知らせします。

1 3 放送大学の授業科目履修における単位認定

本学と放送大学は単位互換に関する協定を結び、放送大学の科目を受講し単位を修得すれば、卒業に必要な単位として認定されます。

受講には手続が必要ですので、その都度、掲示でお知らせします。

身分	特別聴講学生	
授業料等	1科目(2単位) 12,000円 ※授業料は改定される場合があります。	
開講科目	出願期間前に「開講科目一覧表」を掲示または配付します。	
出願期間	第1学期：1月中旬 第2学期：7月中旬	
卒業単位上限	教養教育科目	単位互換できる科目は出願期間時にお知らせします。 ただし、単位互換科目は、教養教育科目及び専門教育科目両方合わせて30単位までです。
	専門教育科目	

※ この単位認定制度を利用するには、岩手大学を通して放送大学に特別聴講学生として入学する必要があります。

※ 上記の出願期間は予定の期間となりますので、詳細は掲示でお知らせします。

※ 放送大学の特別聴講学生は、テレビ(BS放送)やインターネットで配信される映像・音声の視聴または、本学の附属図書館内にある「放送大学岩手学習センター」において、DVDを視聴しての受講となります。

また、単位互換制度とは別に、放送大学の教材を利用して授業を開講する場合があります。この科目を受講するための授業料は無料ですが、受講する場合には、履修科目登録単位の上限に含まれます。開講については、掲示でお知らせします。

1 4 資格試験等による単位認定

本学では、資格試験で取得した資格又は本学が関わる研修において合格点を取得した場合は、申請に基づき単位の認定を行います。単位が認定される資格等の種類、単位数は、下記の表のとおりです。

申請は、学生センターA棟①番窓口で年2回（1月，7月）受け付けます。
詳しくは掲示でお知らせします。

(1) 資格試験によるもの

資格試験	資格	認定科目・単位数		認定単位数の上限	備考
		授業科目	単位		
英検 S-CBT	準1級	英語総合Ⅰ・Ⅱ，英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ	4	4	
実用英語技能検定試験	準1級		4	4	
	1級		8	8	
TOEFL (マークシート式677点満点)	500～539点	英語総合Ⅰ・Ⅱ，英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ	2	2	
	540点以上		4	4	
TOEFL iBT (インターネット式120点満点)	61～75点		2	2	
	76点以上		4	4	
TOEIC	600～699点	英語総合Ⅰ・Ⅱ，英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ	2	2	
	700点以上		4	4	
ドイツ語技能検定試験	4級	初級ドイツ語（入門・発展）	4	4	
	3級以上	初級ドイツ語（入門・発展）	4	6	
		中級ドイツ語	2		
実用フランス語技能検定試験	5級	初級フランス語（入門・発展）	2	2	
	4級	初級フランス語（入門・発展）	4	4	
	3級以上	初級フランス語（入門・発展）	4	6	
		中級フランス語	2		
ロシア語能力検定試験	4級	初級ロシア語（入門・発展）	4	4	
	3級以上	初級ロシア語（入門・発展）	4	6	
		中級ロシア語	2		
HSK (漢語水平考査)	2級	初級中国語（入門・発展）	4	4	
	3級以上	初級中国語（入門・発展）	4	6	
		中級中国語	2		
韓国語能力試験	TOPIKⅠ (1級～2級140点以上)	初級韓国語（入門・発展）	4	4	
		TOPIKⅡ (3級～6級120点以上)	初級韓国語（入門・発展）	4	6
	中級韓国語		2		
ハングル能力検定試験	5級	初級韓国語（入門・発展）	4	4	
	4級以上	初級韓国語（入門・発展）	4	6	
		中級韓国語	2		

《備考》

- 1 認定した単位の評価は、「○合」とする。
- 2 申請できる資格試験は、入学後に取得したもので、取得した日から1年以内のものに限る。
- 3 一の資格試験において、複数の資格を取得している場合は、上級の資格で認定する。また、先に下級の資格で認定を受けた者が、後に上級の資格を取得し願ひ出た場合は、先に認定を受けた単位数を差し引いて単位を認定する。
- 4 英語科目への認定について、複数の資格試験を取得している場合は、その中で最も上級の資格により認定する。また、先に下級の資格で認定を受けた者が、後に上級の資格を取得し願ひ出た場合は、先に認定を受けた単位数を差し引いて単位を認定する。
- 5 「再履修学生」とは、一度でも初級（入門）あるいは初級（発展）を履修した学生をいう。
- 6 TOEFLとTOEICに関しては、TOEFL-ITPとTOEIC-IPも資格試験の対象とする。

(2) 外国語研修によるもの

該 当 条 件	認定科目・単位数		認定 単位	備 考
	授 業 科 目	単 位		
外国の大学が主催する外国語研修または異文化研修で、60時間を超える研修を終え合格点（60点以上又は評価C以上）を取得（岩手大学教務委員会が承認したものに限る。）	英語総合Ⅰ・Ⅱ，英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ，コミュニケーションの現在	2	2	認定した単位の評価は、「○合」とする。
	初級韓国語（入門・発展），コミュニケーションの現在	2	2	

※資格試験等による単位認定は、履修申告し受講している（した）授業の代わりになるものではありません。よって資格試験等による単位認定により、履修申告した科目が自動的に取り消されたり、既に受講した授業の評価が更新されることはありません。

1.5 ボランティア活動による単位認定

本学の学内ボランティア活動として実施している「ピアサポート」，「ボランティア・チューター」，「次世代育成サポーター」または「災害ボランティア」として、それぞれ一定時間数以上の研修、活動参加後、レポートを提出し、その活動が認定された場合は、「コミュニティーサポート実習」1単位が認定されます。（年度1単位までとし、最大2単位まで認定されます。）ただし、卒業要件単位には含まれません。

1.6 試 験

試験時における不正行為

試験において不正行為をすることは、真摯な態度で勉学に励むべき学生として許されない行為といえます。したがって、不正行為を行った者は、訓告処分を受けるだけでなく、不正行為が教養教育科目において行われたか専門教育科目において行われたかを問わず、当該学期の教養教育科目と専門教育科目の**全ての単位が認められません。**

また、通年科目については、不正行為が行われた学期・科目を問わず、当該年度の全ての単位が認められません。

不正行為を行った場合は、留年につながる厳しい処分が科せられます。

1. 教養教育

試験期間は特に設けませんので、試験については担当教員の指示に従ってください。

(1) 試験についての注意事項

- ① 受験に際しては学生証を必ず持参し、机の上に置くこと。
万一学生証を忘れたときには、仮受験証での受験が認められるが、その場合には試験終了後3日以内に学生センターA棟②番窓口以学生証を持参して確認を受けること。これを怠った場合には、その答案は、無効となる。
- ② 原則として、遅刻は認められない。ただし、特別の事情があった場合には、10分程度の遅刻は考慮されることがある。
- ③ 試験開始後20分間、退室は認められない。

- ④ 答案用紙の姓名は、インク又はボールペン書きとする。
- ⑤ 試験中、机の中には一切持ち物を置かないこと。不正行為の材料となり得る物を持っていたり、机の中に入れていた場合には、それを使用したか否かにかかわらず、不正行為と見なされる。
- ⑥ 試験中、不正行為を行った者は、厳しい処分を受ける。
- ⑦ 試験中、監督者の指示に従わない者は、退室を命じられる。
- ⑧ 申告しない又は正しい申告をしていない科目を受験しても、その答案は無効である。

(2) 追試験について

下記事項に該当する者で追試験を希望する者は、試験終了後、1週間以内に必要書類を添えて学生センターA棟②番窓口に願出することができます。

- ① 負傷又は疾病 (必要添付書類…医師の診断書等)
 - ② 天災その他突発事故 (必要書類…その事由を証明する物)
 - ③ 忌引き (必要書類…死亡診断書の写し等)
 - ④ 列車等の遅延 (必要書類…遅延証明書)
 - ⑤ その他特別に事情があると認められる場合 (必要書類…その事由を証明する物)
- 願出のあった者に対しては追試験受験願の理由が正当であり、かつ平素の出席状況が良好であって受験の資格があると認められた者に限り受験を許可します。

2. 専門教育

専門教育科目の試験についても、教養教育科目と同様に試験が実施されます。詳細は、担当教員の指示に従ってください。

17 成績評価に異議がある場合の問い合わせ

学期末(成績発表時)にアイフォリオで確認した成績評価が、シラバス(講義要目)の成績評価基準と照らし合わせた結果、成績評価に不明な点がある場合は、学務課経由で授業担当教員に問い合わせを行うことができます。問い合わせは、成績発表後一定の期間を設けますが、詳細は掲示でお知らせします。

18 成績優秀者

成績優秀者とは、その学期において卒業要件科目を18単位以上修得し、かつ、卒業要件科目の総修得単位数のうち、「秀」および「優」の評語を10分の9以上得、成績優秀者と認定された者をいいます。

成績優秀者に認定されると、次の学期の履修は、履修科目の登録の上限(1学期24単位)の例外として、28単位まで登録することができます。

なお、編入生の履修科目の登録の上限は、28単位ですので優秀者判定は行いません。

また、2年次後期までの全学期に成績優秀者として認定されると、早期卒業の申請をすることができます。(「20 3年以上4年未満での卒業(早期卒業)」を参照)

19 卒業時に授与される学位

本学に4年以上（農学部共同獣医学科は6年以上）在学し、かつ所定の科目の単位を修得した者に対し教授会の議を経て卒業を認定します。

卒業を認定された者には、次の学士の学位が授与されます。

人文社会科学部卒業生		学士（総合科学）
教育学部卒業生		学士（教育）
理工学部卒業生	化学・生命理工学科 物理・材料理工学科	学士（理工学）
	システム創成工学科	学士（工学）
農学部卒業生	植物生命科学科 応用生物化学科 森林科学科 食料生産環境学科 動物科学科	学士（農学）
	共同獣医学科	学士（獣医学）

20 3年以上4年未満での卒業（早期卒業）

2年次後期までの全学期に成績優秀者（「18 成績優秀者」を参照）として認定された者で、4年未満の在学で卒業を希望する者は早期卒業を申請することができます。

申請が認められ、早期卒業候補者となった後も成績優秀であり、卒業要件の全単位を満たし、卒業研究（最終試験を含む。）の成績が秀または優であるときは、3年次終了時又は4年次前期終了時に卒業することができます。（X 関係法規等「岩手大学における在学期間の特例に関する規則」を参照）

この制度で卒業が認められると、学士の学位が授与され、大学卒業の資格が得られます。

21 長期履修学生制度 ※共同獣医学科の学生は対象になりません

職業を有している等の事情により修業年限の4年間での卒業が困難な場合は、この制度に基づき申請し、許可された者に限り、一定の期間（最長6年まで）にわたり履修して卒業することができます。授業料は、修業年限の4年間分を許可された長期履修の期間に合わせて支払うことになります。

希望する場合は学生センターA棟①番窓口に申し出てください。

（申請時期：2月末日又は8月末日まで 対象：1～3年次まで）

22 転学部制度

入学後に他学部に移る積極的理由を見いだした際に、新たな勉学意識を引き出すため、各学部の選考により転学部が認められる（許可される）場合があります。

申請の時期、方法については、掲示でお知らせします。

2 3 転学科・転課程制度

入学後に他学科又は他課程に移る積極的理由を見いだした際に、新たな勉学意識を引き出すため、各学部の選考により転学科又は転課程が認められる（許可される）場合があります。

申請の時期、方法については、掲示でお知らせします。

2 4 学部3年次修了者の本学大学院への入学

大学に3年以上在学し所定の単位を優れた成績をもって修得する見込みのある者で、本学の大学院の研究科で受験資格を有すると認められた者は、出願し受験することができます。

これは、研究者として優れた資質を有する者に対して、早期から大学院教育を実施することを目的としているための制度です。

出願に当たっては、指導教員あるいは関係教員と十分相談のうえ決定するのが望ましいことです。

（注意事項）

本出願資格により入学する場合は、学部学生の子分を有することはできず、退学して大学院に入学することとなります。したがって、大学学部卒業を要件としている各種の国家試験等の資格試験は、受験できなくなります。

2 5 その他

（1）大学からの連絡・案内

大学から学生に対する連絡（例えば公示・通知・呼び出し・授業時間割・休講・試験日程あるいは奨学金・授業料免除の申請期日など）は、アイアシスタントや大学構内に設置している掲示板でお知らせします。

そのため、毎日一度はアイアシスタントと掲示板を見るように心がけ、見なかったり、見落としたために、不利益を受けないよう注意してください。掲示板の場所は、『学生生活の手引き』で確認してください。

（2）気象警報等の発令時における授業等の取扱い

気象警報（暴風警報及び暴風雪警報に限ります。）又は特別警報が発令された場合、本学学生の安全確保のために、授業の休講及び課外活動等が休止となることがあります。詳細については、X 関係法規等「気象警報等の発令時における授業等の取扱いに関する申合せ」を確認してください。

<参考>

* 学生の修得すべき単位数（詳細は、教養教育（共通教育）、各専門教育のページを参照） (単位)

学 部	学科・課程	コ ー ス	教養教育 科目	共通教育 科目	専門教育 科目	合 計
人文社会科学部	人間文化課程		43		82	125
	地域政策課程					
教育学部	学校教育教員養成課程	小学校教育コース	27		110～ 119	137～ 146
		中学校教育コース			107～ 116	134～ 143
		理数教育コース			110	137
		特別支援教育コース			108	135
理工学部	化学・生命理工学科		31		96	127
	物理・材料理工学科					
	システム創成工学科					
農学部	植物生命科学科		35		91	126
	応用生物化学科					
	森林科学科					
	食料生産環境学科					
	動物科学科					
	共同獣医学科					

* 学籍番号

学籍番号は在学中のすべての提出書類に記載する8桁の番号であり、次表によって定められています。学籍番号を記入する際には、必ず学生証で確認してください。

*学部学科等 (3桁)	*入学年度 (2桁)	*通番 (3桁)
人文社会科学部 H01 人間文化課程 H02 地域政策課程 教育学部 E01 学校教育教員養成課程小学校教育コース E02 学校教育教員養成課程中学校教育コース E03 学校教育教員養成課程理数教育コース E04 学校教育教員養成課程特別支援教育コース 理工学部 S01 化学・生命理工学科化学コース S02 化学・生命理工学科生命コース S03 物理・材料理工学科数理・物理コース S04 物理・材料理工学科マテリアルコース S05 システム創成工学科電気電子通信コース S06 システム創成工学科知能・メディア情報コース S07 システム創成工学科機械科学コース S08 システム創成工学科社会基盤・環境コース 農学部 A01 植物生命科学科 A02 応用生物化学科 A03 森林科学科 A04 食料生産環境学科 A05 食料生産環境学科水産システム学コース A06 動物科学科 186 共同獣医学科	入学年度の西暦下2桁となります。 例：2024年入学＝24 編入学生は、編入した学年の入学年度の西暦下2桁となります。 例：3年次編入生＝22	個人を特定する番号で、3桁となります。 例： 1番＝001 10番＝010

(例)

「2024年度入学 植物生命科学科99番」の学生の場合は、「A0124099」であり、分解すると、「A01＝学部学科等・24＝入学年度・099＝通番」となります。

科目を履修する際によく出てくる用語です。覚えておきましょう。

アイアシスタント

インターネットを利用した岩手大学の学修支援システムのことです。シラバスの検索・閲覧、履修申告の登録、休講・補講・教室変更の確認などできます。

ESD (イー・エス・ディー : Education for Sustainable Development)

日本では「持続可能な開発(発展)のための教育」と訳されています。今の社会を「持続可能な社会」へ発展させていくために、必要な知識、価値観、行動、生活様式などを学ぶことです。

インターンシップ

職場の監督下での一定期間の職業経験のことです。学生の専攻分野に関連した業務に関わるものか否か、フルタイムかパートタイムか、有給か無給か、短時間か長期間かなど形態は様々ですが、キャリア意識の涵養、職業的スキル・態度・知識の獲得を目的に実施されています。

CAP制(キャップ制)

履修登録科目数上限制度のことです。授業外学修時間の確保のため、各学生が一学期に履修を登録できる総単位数に上限を設定しています。優秀な学生に対しては、より多くの科目の履修が認められます。(詳しくはI-6ページを参照)

いわて高等教育コンソーシアム

いわて高等教育コンソーシアムは、岩手県内の大学等高等教育機関が連携して、県内の高等教育・学術研究の振興と地域社会の発展に寄与することを目的とした組織体であり、岩手大学、岩手県立大学、岩手医科大学、富士大学、盛岡大学、放送大学岩手学習センター、一関工業高等専門学校、及び岩手保健医療大学で構成し、学生は他校の授業を受講し単位を取得したり、図書館を利用することができます。

集中講義

通常の授業とは別に、特定の日時に集中して行う授業です。土曜日や夏季・冬季休業中に行うこともあります。履修申告の方法は、その都度掲示でお知らせします。

シラバス

各授業科目の概要のことです。授業の目的や各回の授業内容、成績評価の基準や方法、教科書・参考書、教員への相談方法等が記載されています。シラバスは岩手大学ホームページから見ることができます。

GPA (ジー・ピー・エー : Grade Point Average)

個々の学生の学力を数値化したもので、学業成績点とも呼ばれています。成績を数値で表す最も共通な方法は、秀=4、優=3、良=2、可=1、不可=0としています。その合計点を履修した単位数で割り算した、いわゆる1単位あたりの平均点のことを言います。

JABEE (ジャビー : Japan Accreditation Board for Engineering Education)

大学など高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが、社会の要求水準を満たしているかどうかを、日本技術者教育認定機構が公平に評価し、要求水準を満たしている教育プログラムを認定する専門認定制度のことです。

ポートフォリオ

学生の学修成果を集め、ファイル等にまとめたもののことです。テストやレポートのみならず、学生が書いた図画や、活動中の写真なども含まれます。eポートフォリオと呼ばれるWEB上でのポートフォリオも使われることもあります。

履修取消制度

履修登録期間を過ぎた後に、学修上の理由で履修登録を取消したい場合、指定された履修取消期間にアイアシスタントより取消す制度のことです。取消ができない科目もありますので、掲示等によく確認してください。

履修取消の手続きをせずに、履修登録した科目を受講しなかった場合は、その科目の評価が「不可」となり、「GPA算定」や「成績優秀者」判定に影響します。

Iⁿ Assistant2.0 & WebClass & Iⁿ Folio (アイアシスタント 2.0&ウェブクラス&アイフォリオ)

1. Iⁿ Assistant2.0 (アイアシスタント 2.0)

Iⁿ Assistant2.0 (以下「アイアシスタント」という。)は、皆さんの学修を支援するためのシステムです。授業に関するお知らせや大学からの重要なお知らせ、シラバスの確認、履修申告等の様々な機能を有しています。また、WebClass (LMS) や Iⁿ Folio を利用するための入り口となります。

大学生活に必要なシステムですので、毎日 (遂次) 利用するようにしてください。

<システムのインストール>

スマートフォン等に「アイアシスタント」アプリをインストールしてください。

iphone 等版 (App Store)



Android 版 (Google Play)



アプリを利用できない場合は、Web ブラウザ版 (<https://ia2.iwate-u.ac.jp>) を利用してください。ただし、Web ブラウザ版にはプッシュ通知で各種お知らせを受け取る機能はありません。

<ログイン>

ログイン画面で「ログイン名」, 「パスワード」を入力し、ログインボタンをタップ (初回のみ) してください。

ログイン名は、大学のメールアドレスになります。入学時に、メールアドレスとパスワードが配布されます。

これは、大学の端末室 (パソコン教室) のパソコンを使う時のユーザ名、パスワードと同じになります。

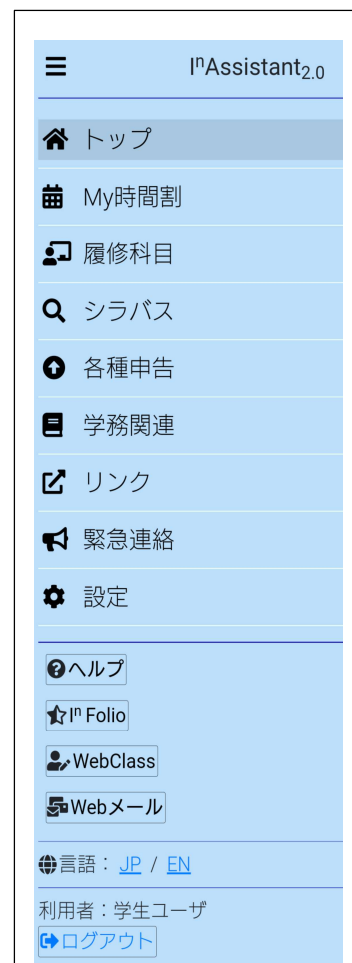
万が一パスワードを忘れてしまった場合は、情報基盤センターに相談してください。

<トップ>

ログインすると、個人専用のトップページが表示されます。

学務関連新着情報には、履修関係 (休講, 補講, 教室変更, その他), 学務部からの各種お知らせ, 呼び出しの情報が届きます。また、重要なお知らせや緊急時のお知らせ等もここに届くことになります。

その他の新着情報には、学生生活, 学生支援 (授業料免除や奨学金等含む), 就職, 留学に関することや図書館からのお知らせが届きます。



< My 時間割 >

My 時間割には、履修している科目の時間割が表示されます。また、授業時間表や1年間の大学のスケジュール等が、学年暦や行事予定表として表示されています。

My 時間割の科目名をタップすると、該当科目の WebClass が表示されます。

< 履修科目 >

履修科目の一覧が表示されます。履修科目のシラバスや LMS ボタンから該当科目の WebClass が表示されます。

< シラバス >

シラバスを検索、閲覧することができます。科目履修に必要な情報が掲載されていますので、履修申告する際は必ず確認するようにしてください。また、当該科目の担当教員に連絡を取りたい場合に必要な連絡先等もシラバスで確認することができます。

< 各種申告 >

各種申告では、履修に必須となる履修申告や、学生本人、保護者の連絡先を登録する住所変更・登録が行えます。また、取得を希望する資格（等）の種類を登録することができます。

< 学務関連 >

履修の手引きや学生生活の手引きをダウンロードすることができます。

< リンク >

関連の機関等のホームページへのリンクになります。

< 緊急連絡 >

災害時等の安否確認等を行うための機能になります。

< 設定 >


各種お知らせのプッシュ通知を受け取る設定や、My 時間割の表示場所を設定することができます。

2. WebClass (ウェブクラス)

WebClass (以下「ウェブクラス」という。)は、教材の配布やテスト等、出席確認に利用されます。

その他、各種アンケート等にも利用されます。

< 利用 >

ウェブクラスは、アイアシスタントの MY 時間割にある科目名か  をタップして、利用します。

時限(校時)	月	火
1	初級フランス語(入門)	
2		経済のしくみ

ウェブクラスでは、授業を「コース」と呼びます。
授業でウェブクラスを利用するかは、授業担当の教員によります。

<教材>

教材には、教材の一覧が表示され、タイムラインに教材が時系列で通知されます。

<マイレポート>

マイレポートには、提出したレポートのコメントや成績、提出日が表示されます。

<成績>

成績では、実施されたテストやレポートの採点結果を確認することができます。

<出席>

出席では授業の始めに出席データを送信したり、今までの出席状況を確認することができます。

<マニュアル>

マニュアルは、アカウントメニューからダウンロードすることができます。



3. Iⁿ Folio (アイフォリオ)

Iⁿ Folio（以下「アイフォリオ」という。）は、学位授与の方針（ディプロマポリシー）の達成状況に関する自己評価や取得単位から算出される達成量、さらに学士力（学士課程共通の DP）、学修時間、学修体験に関する自己評価を見える化したシステムです。

<利用>

アイフォリオは、アイアシスタントの  をタップして利用します。

<学生情報>

学生情報には、所属している学部、学科等のプログラム概要や学位授与方針が表示されます。

<ポリシー>

自己評価：各年度・学期ごとに「学位授与の方針」（以下「DP」という。）の達成状況についての自己評価を入力します。

入力しなければ、成績を見ることはできません。

DP グラフ：累積の達成量のグラフが表示されます。

累積達成量：各学期までの取得単位数×DP に対する重みづけから算出された達成量です。



<履修科目>

履修した科目について、学修状況を評価入力します。
入力しなければ、成績を見ることはできません。

<レポート>

ウェブクラスの学習記録ビューアが表示されます。

<学修状況>

学士力自己評価、学修時間自己評価、学修体験自己評価別の学期ごとの自己評価とそれらのレーダーチャートです。

<活動内容>

委員会活動やサークル・部活、インターンシップ、資格・検定等に関して、自身の活動を記録（入力）しておくことができます。

<目標・教員からのコメント>

学部によっては、学修ポートフォリオの一環として、年度ごとに学生が将来の希望や年間の目標、その成果等を記入し、それに対して教員がコメントを記入する取り組みが行われています。

<教職ポートフォリオ>

教員免許状を取得するのに必要な資質能力の向上のために利用します。

<成績を見る>

自身の取得単位、成績の状況を確認することができます。

また、取得した単位の集計表、GPAの値、履修中を含めた科目の一覧が表示されるほか、卒業に向けての単位の充足率（卒業要件をどのくらい満たしているのかを判定した結果）を見ることができます。なお、この充足率は参考の情報となりますので、履修の手引きを参照の上、各自で必ず確認してください（取得した単位すべてが卒業要件の単位となるわけではないので、注意すること）。

なお、学期ごとに新たな成績を見るには、上記の各種自己評価を入力する必要があります。

大学メール

入学時に、大学で利用する学生専用のメールアドレス（～@iwate-u.ac.jp）が付与されます。

これは個人へのお知らせ等に利用されるもので、緊急時等にもこのメールのお知らせが届きます。アイアシスタントだけではなく、大学メールも毎日（随時）確認するようにしてください。

Ⅱ

教養教育について

(農学部共同獣医学科を除く)

Ⅱ 教養教育について (農学部共同獣医学科を除く)

1 教養教育の理念

岩手大学は、各学部が行う専門教育とならんで、所属する学部にかかわらず全学生が共通に受けるべき教育として教養教育を設け、「世界や地域で活躍できる人材を育成する上で必要となる多様な学問領域の基礎的知識及び基本的思考力、幅広く深い教養と総合的な判断力、地域の発展に貢献できる豊かな人間性と高い倫理観並びにコミュニケーション能力を涵養する」ことをその理念としています。

この理念を実現するために、教養教育は岩手大学の全ての教員の関心・責任・協力のもとに実施されています。教養教育科目は、「実践知科目」、「技法知科目」及び「学問知科目」によって構成されています。

2 教養教育の教育目的と修得すべき能力

教養教育における人材養成像を以下のとおり明示します。

教養教育の教育目的及び修得すべき能力

<教育目的>

岩手大学は、すべての学生が共通に学ぶべき教養教育を提供し、それぞれの学生が所属する学部にかかわらず、多様な学問領域の基礎的知識と基本的思考方法を修得するとともに、幅広く深い教養と総合的な判断力を身につけ、社会や文化の持続的発展に貢献できる豊かな人間性と高い倫理観、並びに多様な人びとと協働するためのコミュニケーション能力を培うことを目的とする。

<修得すべき能力>

教養教育では、その教育プログラムを通して、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 自らの意欲や関心にに基づき主体的に学び続ける能力
- (2) 自ら問題を発見し、それを探究し解決する思考力と判断力
- (3) 複雑化する社会に適応するために必要な情報を収集し処理する基本的能力
- (4) 幅広い学問領域の知識を身につけ、専門分野に対する複合的視点を獲得するための総合的能力
- (5) 多様な人びとと協働するために必要な母語と外国語による基本的コミュニケーション能力
- (6) 心と体の健康を保つ手段や方法を獲得するために必要な基礎的人間力

各科目区分等の教育目的及び修得すべき能力

A 実践知科目

<教育目的>

「実践知科目」は、技法知・学問知で培った知識や情報、技能を活用する能力を基礎に、さまざまな客体に対する理解と働きかけについて実践的に学修し、身につけた知識を主体的に実践化することを目的とする。

<修得すべき能力>

「実践知科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 技法知・学問知科目で得た知識や情報を利用して課題を発見し解決する能力
- (2) 社会における自らの役割を認識し、責任感をもって主体的に行動する能力
- (3) 他者と協働して多様な意見を調整し、解決策を見出す能力

1. 転換教育科目

<教育目的>

「転換教育科目」は、初年次教育のイントロダクションとなる教育プログラムであり、新入生が高等学校までの受動的な学習態度や生活のあり方を転換し、大学における能動的な学習スタイルや大学での新しい生活環境に支障なく速やかに適合し、自ら主体的に学ぶ力を身につけることや社会的規範・倫理を学ぶことを目的とする。

<修得すべき能力>

「転換教育科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 基本的なアカデミックスキル
- (2) 学習計画を立案する能力と教育資源を有効に活用する能力
- (3) コミュニケーション能力と社会的倫理観

・基礎ゼミナール

<教育目的>

「基礎ゼミナール」は、オリエンテーション、ゼミナール及び教室外活動を通じて、高校時代の教育環境とは質的に異なる大学における学習スタイルや生活環境に新入生が支障なく適合でき、大学における学びに必要なアカデミックスキルを修得することを目的とする。加えて、地域について現状を知り理解を深めることを目的とする。

<修得すべき能力>

「基礎ゼミナール」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 自己の表現力やプレゼンテーション能力
- (2) 自主的な学習態度や学習への積極的な意欲
- (3) 論理的に思考し、自ら課題を探求するために必要な基礎的能力
- (4) 図書館や情報検索等の学習資源を有効に活用する能力
- (5) 地域の現状を積極的に知り理解しようとする意欲

2. 地域関連科目

<教育目的>

「地域関連科目」は、異分野の専門家と協働し、自らの専門性を地域の課題解決へ実践することができる能力を養うことを目的とする。

<修得すべき能力>

「地域関連科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 異なる専門分野の者と協働して課題の発見・解決に取り組むことができる能力
- (2) 地域社会の現実に応じて地域の課題解決に取り組む実践能力

・地域課題演習科目

<教育目的>

「地域課題演習科目」は、学生が地域社会にある具体的課題の解決に向けて、身につけた知識を実践活動と結びつけるための考え方や方法を学部の枠を越えて学び、課題解決に必要な思考力・判断力を養うことを目的とする。

<修得すべき能力>

「地域課題演習科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 自らの専門分野と異なる知識を修得し、他者の異なる意見も理解したうえで考察する能力
- (2) 異なる分野の人びとと協働して地域にある現実問題を積極的に解決しようとする意欲
- (3) 多様な人びとと共に課題解決に向けた協力体制を組織できるコミュニケーション能力
- (4) 学習で得た知識を社会での実践活動に活かす意欲と行動力
- (5) 学習で得た知識を課題の発見と解決に活かす能力

B 技法知科目

<教育目的>

「技法知科目」は、①外国語科目と情報科目の学習を通じて、学問知科目ならびに専門教育科目の学業を進めるうえで、さらに卒業後に社会生活を営むうえで必要となる基本的技能やその基礎となる知識を身につけるとともに、②健康・スポーツ科目の学習を通じて、社会生活を営む基盤となる健康・体力の増進を図ることを目的とする。

<修得すべき能力>

「技法知科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 外国語を用いて基本的なコミュニケーションを行うことができる能力
- (2) 情報の収集・加工を適切に行うことができる能力
- (3) 自ら健康・体力の保持増進を図ることができる能力

1. 外国語科目

・英語

<教育目的>

「英語」は、学生が英語を通して他国及び自国の文化や社会に関する理解を深め、英語を用いて積極的にコミュニケーションをとる姿勢を養成することを目的とする。

また、英語を自律的に学習する習慣を身に付けさせ、修得した英語力を利用して、情報を効率的に収集したり、情報発信する能力を向上させることを目的とする。

さらに、英語による異文化コミュニケーションの在り方について認識を深めさせることも目的とする。

<修得すべき能力>

「英語」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 十分な英語力を身に付けていない習熟度が初級の学生にとっては、英文法や基礎的語彙・表現などの復習を通して、英語の基礎的な読み書き能力を修得し、それらを応用して簡単な日常会話ができるコミュニケーション能力
- (2) ある程度の基礎力を既に身に付けている習熟度が中級の学生にとっては、様々なテーマについて書かれた入門レベルの英文を読みこなせる読解力、平易な英語を使って英文が書ける作文力、身近な話題について説明したり、簡単な意見を述べたりすることができるコミュニケーション能力
- (3) 高度な英語力を有する習熟度が上級の学生にとっては、各自の専門領域に関する複雑なテキストを正確に理解できる読解力、多様なトピックについて適切な英語表現を用いて英文が書ける作文力、相手に自分の意思を的確に伝えたり、論理的に意見を述べたりできるコミュニケーション能力
- (4) 上記、いずれの習熟度の授業においても、異文化に対する理解を深め、促進する

・英語以外の外国語

<教育目的>

「英語以外の外国語（ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・韓国語）」は、外国語の文法を習得した上で、①日常生活に必要な基本的な会話ができるようにすること、②外国語で書かれた文章を読むことができるようにすること、③日常生活で使う文章を外国語で書けるようにすること、④外国語学習を通して、異文化理解の基礎的知識を獲得すること、の4点を身につけることを目的とする。

<修得すべき能力>

「英語以外の外国語（ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・韓国語）」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

初級外国語（入門・発展）では、

- (1) 下記語学検定試験の級をマスターしたと認められる程度の文法知識と会話能力
 - ・ドイツ語技能検定試験 4級
 - ・実用フランス語技能検定試験 4級
 - ・ロシア語能力検定試験 4級
 - ・中国語検定試験 4級
 - ・漢語水平考試 (HSK) 3級
 - ・韓国語能力試験 TOPIK I (1~2級 140点以上)
 - ・ハングル能力検定試験 5級
- (2) 外国語を用いて、基本的なコミュニケーションを行うことができる能力
- (3) 易しい文章を読んだり書いたりできる能力
- (4) 国際化社会に対応できる、異文化を理解するための基礎的知識

中級外国語では、

- (1) 下記語学検定試験の級をマスターしたと認められる程度の文法知識と会話能力
 - ・ドイツ語技能検定試験 3級
 - ・実用フランス語技能検定試験 3級
 - ・ロシア語能力検定試験 3級
 - ・中国語検定試験 3級
 - ・漢語水平考試 (HSK) 4級
 - ・韓国語能力試験 TOPIK II (3~6級 120点以上)
 - ・ハングル能力検定試験 4級
- (2) 外国語を用いて、より高度なコミュニケーションを行うことができる能力
- (3) やや難解な文章を読んだり書いたりできる能力
- (4) 国際化社会に対応できる、異文化を理解するための知識

・日本語

<教育目的>

「日本語」は、外国人留学生を対象とし、上級レベルの四技能（読む・書く・聞く・話す）の指導を通じ、日本語による情報収集、口頭発表、論文作成、討論など大学の授業や研究活動に日本語を使用して参加する力の養成を目的とする。

<修得すべき能力>

「日本語」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 文法力、読解力、聴解力については日本語能力試験N1レベル以上の能力
- (2) レポート、小論文等の文章作成力、および、討論、口頭発表等の口頭表現力等、日本語教育の参照枠のC1レベル以上の日本語能力

2. 健康・スポーツ科目

<教育目的>

「健康・スポーツ科目」は、スポーツを行うことによって健康と体力の保持増進を図り、コミュニケーション能力を高めるとともに、スポーツ科学やスポーツ文化についても理解を深めながら、生涯にわたりスポーツを実践する力を養うことを目的とする。

<修得すべき能力>

「健康・スポーツ科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) スポーツ活動を通じて健康と体力の保持増進を図る能力
- (2) スポーツ活動を通して他者とコミュニケーションを図る能力
- (3) スポーツを科学的・文化的に理解するとともに生涯にわたってスポーツを実践する能力

3. 情報科目

<教育目的>

「情報科目」は、高度情報化社会において社会生活を営む上で必要となるコンピュータと情報処理に関する基礎的な知識と技能を習得することを目的とする。

<修得すべき能力>

「情報科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) コンピュータの基本的な仕組みを理解し、目的に応じて使うことができる基礎的な能力
- (2) 多種多様な情報から必要な情報を獲得し、目的に向けた適切な処理を行う基礎的な能力
- (3) 情報を適切に受発信するための基礎的な能力
- (4) 情報化社会におけるモラルや社会的な問題を理解し、適切な行動をとることができる能力

C 学問知科目

<教育目的>

「学問知科目」は、在学生在が諸学問分野の「ものの見方・考え方」を幅広く学ぶことによって、自分自身の専門分野が全体の中でどのような位置にあり、どのような意味・役割を持っているかを理解するとともに、専門を深める上で必要な幅広い教養を身につけることを目的とする。

<修得すべき能力>

「学問知科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 物事を多面的な角度から考察できる能力
- (2) 多様な価値観を受け入れることができる能力
- (3) 自然・人間・社会との関係において、各種の常識・通念を根底的に捉え直せるような「ものの見方・考え方」ができる能力
- (4) 激動する現代社会の複雑な諸問題に柔軟に対応できる、総合的判断を行える能力

1. 文化科目

<教育目的>

「文化」は、人文科学における各学問分野の観点から、多様な文化がそれぞれどのように形成され、人間にとってどのような意味や機能（はたらき）をこれまでもってきたか、そして現在もっているかを理解し、また人間の心に関する諸問題を理解することを目的とする。

<修得すべき能力>

「文化」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 各種の文化や人間の心について多角的に分析・把握できる能力
- (2) 各種の文化や人間の心についての諸見解を批判的に検討し、自分なりの見解を打ち出すことができる能力

2. 社会科目

<教育目的>

「社会」は、社会で生じている様々な問題を社会科学の各学問分野の視点から取り上げることによって、問題の背後にある諸要因やそこに働いている論理を理解するとともに、それら問題が私たち一人ひとりにとって持つ意味

を理解することを目的とする。

<修得すべき能力>

「社会」では、学生が以下の能力を修得することを旨す。

- (1) 社会問題が生じている基本的背景を多面的・総合的に分析・把握できる能力
- (2) 社会問題に対する諸見解を批判的に検討し、自分なりの見解を打ち出すことができる能力

3. 自然&科学技術科目

<教育目的>

「自然&科学技術」は、身の回りの自然科学や、暮らしと関係する科学技術における各分野の視点から、人間と自然とのかかわりをめぐるさまざまな問題を取り上げることによって、専門を深めるうえで必要な幅広い教養を身につけることを目的とする。

<修得すべき能力>

「自然&科学技術」では、学生が以下の能力を修得することを旨す。

- (1) 人間と自然とのかかわりを多面的な角度から考察できる能力
- (2) 自然科学や科学技術に関する初歩的な専門的知識に基づく考え方ができる能力

4. 環境科目

<教育目的>

「環境科目」は、本学における環境教育の出発点として位置づけられていることから、環境に対する幅広い関心と深い認識を促し、環境についての多角的な「考え方」を養うことを目的とする。

<修得すべき能力>

「環境科目」では、学生が以下の能力を修得することを旨す。

- (1) 環境を、自らの主観によるのではなくデータなどに基づき客観的に理解する能力
- (2) 環境を、文系、理系などの自らの学ぶ専門領域を超えて、広い視野から理解する能力
- (3) 環境に関する問題を、人間や生物の生存と深くかかわるものと理解し、自らの問題として思考する能力

5. 地域科目

<教育目的>

「地域科目」は、岩手の地域に関することを様々な分野・視点から学び、岩手の歴史・文化・特色を理解し、地域社会の複雑な諸問題に柔軟に対応できるような総合的判断力を培うことを目的とする。

<修得すべき能力>

「地域科目」では、学生が以下の能力を修得することを旨す。

- (1) 多角的・複眼的な視点によって、岩手の地域社会を全体的に把握できる能力
- (2) 総合的な判断に基づいて、岩手の地域社会の諸問題に対して柔軟に対応できる能力

3 履修方法及び開設授業科目

履修については、本冊子及び授業時間割を参考にし、間違いのないよう注意してください。

同一授業科目は重複して履修できません。ただし、日本語以外の外国語科目は重複して履修できます。

なお、授業科目には、必修科目と選択科目の2種類があり、各学部、学科、課程ごとにそれぞれ範囲及び修得すべき単位数等が定められていますので、各学部の説明の項を熟読してください。また、履修にあたっては前期のみ又は後期のみの開設授業科目や年度により開設しない授業科目があるので注意してください。

A 実践知科目

(1) 転換教育科目の開設授業科目及び履修方法等

表 I a

授 業 科 目	単位数	週時限数	備 考
基礎ゼミナール	1	1	1年次対象

－履修年次－

1年次に履修すること。

また、学部毎にガイダンス、クラス分け等を行っているの、注意すること（掲示により確認すること）。

(注) 1. 全学部とも基礎ゼミナール（1単位）は、1年次前期に必ず修得すること。

(2) 地域課題演習科目（地域関連科目）の開設授業科目及び履修方法等

表 I b

授 業 科 目	単位数	週時限数
地域マネジメント課題演習	2	1
地域防災課題演習	2	1
地域グローバル課題演習	2	1
地域クリエイト課題演習	2	1

(注) 1. 地域課題演習科目（2単位）は、人数制限があるので注意すること。

B 技法知科目

(1) 「外国語科目」の開設授業科目及び履修方法等

表 I c-1

授 業 科 目	単位数	週時限数	授 業 科 目	単位数	週時限数
英語総合Ⅰ（上級）	1	1	初級ロシア語（入門）	1	1
英語総合Ⅱ（上級）	1	1	初級ロシア語（発展）	1	1
英語総合Ⅰ（中級）	1	1	中級ロシア語	1	1
英語総合Ⅱ（中級）	1	1	初級中国語（入門）	1	1
英語総合Ⅰ（初級）	1	1	初級中国語（発展）	1	1
英語総合Ⅱ（初級）	1	1	中級中国語	1	1
英語コミュニケーションⅠ（上級）	1	1	初級韓国語（入門）	1	1
英語コミュニケーションⅡ（上級）	1	1	初級韓国語（発展）	1	1
英語コミュニケーションⅠ（中級）	1	1	中級韓国語	1	1
英語コミュニケーションⅡ（中級）	1	1	上級日本語A	1	1
英語コミュニケーションⅠ（初級）	1	1	上級日本語B	1	1
英語コミュニケーションⅡ（初級）	1	1	上級日本語C	1	1
初級ドイツ語（入門）	1	1	上級日本語D	1	1
初級ドイツ語（発展）	1	1	上級日本語E	1	1
中級ドイツ語	1	1	上級日本語F	1	1
初級フランス語（入門）	1	1	上級日本語G	1	1
初級フランス語（発展）	1	1	上級日本語H	1	1
中級フランス語	1	1			

—履修年次—

1年次に履修すること。履修方式は学部ごとに異なるので、注意すること。
また、クラス分けを行っているので、注意すること（掲示により確認すること）。

- (注) 1. 外国語は週1時限で1単位。
2. 「英語」と「英語以外の外国語」を合わせて、計8単位履修すること。
3. 英語総合Ⅰ・Ⅱは「読むことと書くこと」を中心とする授業であり、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱは「聞くことと話すこと」を中心とする授業である。
4. 英語以外の外国語は、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、韓国語から1つの言語を履修する。中級外国語は、初級外国語と同一言語を履修する。
5. 英語以外の外国語は、初級（入門）、初級（発展）の順に履修すること。
ただし、集中型（入門と発展を併せて週4回行う。）の授業の場合は、同時に履修すること。
6. 外国人留学生は、外国語科目として日本語を履修することができる。
7. 外国人留学生は、第一言語（母語）を履修できない。
8. 英語以外の外国語で1科目当たり60時間以上を高校等で履修してきた学生は、別に指示するので申し出ること。
9. 「英語」については、上記のほか表I c-2のとおり開設授業科目がある。

表I c-2

授 業 科 目	単位数	週時限数	備考
英語発展A (TOEIC 初級)	1	1	2年次以上対象
英語発展B (TOEIC 初級)	1	1	2年次以上対象
英語発展C (TOEIC 中級)	1	1	2年次以上対象
英語発展D (TOEIC 中級)	1	1	2年次以上対象
英語発展E (実践英語)	1	1	2年次以上対象
英語発展F (実践英語)	1	1	2年次以上対象
英語発展G (科学英語)	1	1	2年次以上対象
英語発展H (科学英語)	1	1	2年次以上対象

—履修年次—

「英語発展」は2年次以上に履修すること。
なお、「英語発展」で修得した単位は選択となる。

- (注) 1. 外国語は週1時限で1単位。
2. 英語発展A～Hに履修の順番はない。ただし、英語発展C・D (TOEIC 中級) の単位を修得した場合、英語発展A・B (TOEIC 初級) を履修することはできない。(1学期で英語発展C・D (TOEIC 中級) と英語発展A・B (TOEIC 初級) を同時に履修することはできない。)
3. 英語発展A (TOEIC 初級) 及び英語発展B (TOEIC 初級) は、TOEIC スコア 500 点を到達目標とした授業である。
英語発展C (TOEIC 中級) 及び英語発展D (TOEIC 中級) は、TOEIC スコア 600 点を到達目標とした授業である。
英語発展E (実践英語) 及び英語発展F (実践英語) は、日常生活で使用する実践的な英語力を養うことを目的とした授業である。
英語発展G (科学英語) 及び英語発展H (科学英語) は、「科学」をテーマにした文献の読解力の養成と英語によるプレゼンテーション能力を高めることを目的とした授業である。

(2) 「健康・スポーツ科目」の開設授業科目及び履修方法等

表 I d

授 業 科 目	単位数	週時限数	備 考
健康・スポーツA	1	1	通常実技(理論含む)
健康・スポーツB	1	1	通常実技(理論含む)
健康・スポーツC (シーズン)	1	集中	集中実技(理論含む)

—履修年次—

全学部とも健康・スポーツAは1年次前期に、健康・スポーツBは1年次後期に履修すること。健康・スポーツC (シーズン) は集中して行う。

- (注) 1. 全学部とも健康・スポーツA (1単位) は必ず修得すること。健康・スポーツ科目が2単位必修の学部 (人文社会科学部, 教育学部, 農学部) は、健康・スポーツAに加えて健康・スポーツBを修得することが望ましい。
2. 健康・スポーツC (シーズン) は、「雪上のスポーツ」, 「氷上のスポーツ」から1つ修得できる。
3. 健康・スポーツB (理工学部対象) と健康・スポーツC (シーズン) は人数制限があるので注意すること。

(3) 「情報科目」の開設授業科目及び履修方法等

表 I e (1年次対象)

授 業 科 目	単位数	週時限数	備 考
情報基礎	2	1	機器の操作含む

—履修年次—

1年次前期に履修すること。

また、端末台数の関係上、学部毎に学科等の単位でのクラス編成または学籍番号によるクラス編成を行っているので、注意すること (時間割及び掲示により確認すること) 。

- (注) 高校で情報科目を履修し、所定のレベルを有するものは早期に単位を修得できる場合があります。

C 学問知科目

(1) 「文化科目」の開設授業科目等
表 I f

授 業 科 目	単位数	週時限数	授 業 科 目	単位数	週時限数
哲学の世界	2	1	アジアの歴史と文化	2	1
倫理学の世界	2	1	欧米の歴史と文化	2	1
日本の思想と文化	2	1	ジェンダーの歴史と文化	2	1
アジアの思想と文化	2	1	女性と科学の関係史	2	1
欧米の思想と文化	2	1	大学の歴史と現在	2	1
心の理解	2	1	岩手大学ミュージアム学	2	1
日本の文学	2	1	日本語表現技術入門	2	1
言葉の世界	2	1	図書館への招待	2	1
中国の文学	2	1	コミュニケーションの現在	2	1
欧米の文学	2	1	英語で学ぶ日本の文化	2	1
欧米の言語論	2	1	日本事情A	2	1
芸術の世界	2	1	日本事情B	2	1
日本の歴史と文化	2	1	心と表象	2	1

(2) 「社会科目」の開設授業科目等
表 I g

授 業 科 目	単位数	週時限数	授 業 科 目	単位数	週時限数
市民生活と法	2	1	対人関係の心理学	2	1
憲法	2	1	知的財産入門	2	集中
経済のしくみ	2	1	知財ワークショップ	2	集中
現代社会と経済	2	1	キャリアを考える	2	1
市民と政治	2	1	多文化コミュニケーションA	2	1
現代政治を見る眼	2	1	多文化コミュニケーションB	2	1
社会的人間論	2	1	ボランティアとリーダーシップ	2	集中
現代社会の社会学	2	1	公共社会	2	1
地域と生活	2	1	現代の諸問題	2	1
地域と社会	2	1	キャリアデザイン実践	2	集中

(3) 「自然&科学技術科目」の開設授業科目等
表 I h

授 業 科 目	単位数	週時限数	授 業 科 目	単位数	週時限数
科学と技術の歴史	2	1	物質の世界	2	1
自然のしくみ	2	1	自然と法則	2	1
自然と数理	2	1	くらしと科学技術	2	1
数理のひろがり	2	1	自然と数理の世界	2	1
生命のしくみ	2	1	自然の科学	2	1
宇宙のしくみ	2	1	科学技術	2	1

(4) 「環境科目」の開設授業科目等

表 I i

授 業 科 目	単位数	週時限数
「環境」を考える	2	1
生活と環境	2	1
都市と環境	2	1
地球環境と社会	2	1
水と環境	2	1
廃棄物と環境	2	1
植物栽培と環境テクノロジー	2	1
森林と環境	2	1
動物と環境	2	1
人の暮らしと生物環境	2	1
環境の科学	2	1

—履修年次—

環境科目は全学部とも1年次後期に履修すること。

また、クラス分けを行っているので、注意すること（前期末の掲示により確認すること）。

(注) 農学部生が必修のほか選択として履修する場合は、2年次後期以降に履修すること。

(5) 「地域科目（地域関連科目）」の開設授業科目等

表 I j

授 業 科 目	単位数	週時限数	授 業 科 目	単位数	週時限数
現代社会をみる視角	2	1	地域協創入門	2	1
岩手の研究	2	1	社会連携学A	2	1
環境マネジメント実践学	2	1	社会連携学B	2	1
宮沢賢治の世界	2	1	地域協創A	1	1
危機管理と復興	2	集中	地域協創B	1	1
持続可能なコミュニティづくり実践学	2	1	地域協創C	1	集中
地元の企業に学ぶESD	2	1	地域協創D	1	集中
地場産業・企業論	2	集中	地域協創E	1	1
三陸の研究	2	1	地域協創F	1	1
自然災害と社会	2	1			
東北の歴史	2	1			
地域を考える	2	1			
地域と国際社会	2	1			
海外研修—世界から地域を考える—	2	集中			

4 選択について

必修単位数を超えた健康・スポーツ科目、外国語科目（英語発展）、文化、社会、自然&科学技術、地域関連科目（地域科目、地域課題演習科目）（農学部のみ「環境科目」を含む）を選択に充てることができます。

また、いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換協定に基づき、他大学で修得した科目については選択のなかに取り入れることができます。

なお、選択の範囲及び修得すべき単位数等については、学部、学科、課程により異なるので各学部の説明の項を参照してください。

参考:開設授業科目要件区分/標準履修学年・時期早見表

履修区分		科目名 (※印は集中講義形式で開講)	単位数	要件区分	標準履修 学年・時期	備考
実践知 科目	転換教育科目	基礎ゼミナール	1	必修	1 前	学部毎にクラス分けを行う。 (掲示により確認すること)
	技法知 科目	英語	英語総合 I (初級)	1	必修	1
英語総合 I (中級)			1	必修	1	
英語総合 I (上級)			1	必修	1	
英語総合 II (初級)			1	必修	1	
英語総合 II (中級)			1	必修	1	
英語総合 II (上級)			1	必修	1	
英語コミュニケーション I (初級)			1	必修	1	
英語コミュニケーション I (中級)			1	必修	1	
英語コミュニケーション I (上級)			1	必修	1	
英語コミュニケーション II (初級)			1	必修	1	
英語コミュニケーション II (中級)			1	必修	1	
英語コミュニケーション II (上級)			1	必修	1	
英語発展A (TOEIC 初級)			1	選択	2	
英語発展B (TOEIC 初級)			1	選択	2	
英語発展C (TOEIC 中級)			1	選択	2	
英語発展D (TOEIC 中級)			1	選択	2	
英語発展E (実践英語)			1	選択	2	
英語発展F (実践英語)		1	選択	2		
英語発展G (科学英語)		1	選択	2		
英語発展H (科学英語)		1	選択	2		
英語以外		初級ドイツ語(入門)	1	必修	1	履修希望調査によりクラス分けを行う。 (掲示により確認すること)
		初級ドイツ語(発展)	1	必修	1	
		中級ドイツ語	1	必修	1 後	
		初級フランス語(入門)	1	必修	1	
		初級フランス語(発展)	1	必修	1	
		中級フランス語	1	必修	1 後	
		初級ロシア語(入門)	1	必修	1	
		初級ロシア語(発展)	1	必修	1	
		中級ロシア語	1	必修	1 後	
		初級中国語(入門)	1	必修	1	
		初級中国語(発展)	1	必修	1	
		中級中国語	1	必修	1 後	
		初級韓国語(入門)	1	必修	1	
		初級韓国語(発展)	1	必修	1	
		中級韓国語	1	必修	1 後	
		上級日本語A	1	必修	1 前	
		上級日本語B	1	必修	1 前	
上級日本語C	1	必修	1 前			
上級日本語D	1	必修	1 前			
上級日本語E	1	必修	1 後			
上級日本語F	1	必修	1 後			
上級日本語G	1	必修	1 後			
上級日本語H	1	必修	1 後			
健康・スポーツ 科目	健康・スポーツA	1	必修	1 前		
	健康・スポーツB	1	必修/選択	1 後		
	健康・スポーツC(シーズン)	※ 1	必修/選択	1 後		
情報科目	情報基礎	2	必修	1 前	学部毎に学科等の単位でのクラス編成または学籍番号でのクラス編成を行う。 (時間割及び掲示により確認すること)	
学問知 科目	文化科目	哲学の世界	2	必修/選択	1・2	
		倫理学の世界	2	必修/選択	1・2	
		日本の思想と文化	2	必修/選択	1・2	
		アジアの思想と文化	2	必修/選択	1・2	
		欧米の思想と文化	2	必修/選択	1・2	
		日本の歴史と文化	2	必修/選択	1・2	
		アジアの歴史と文化	2	必修/選択	1・2	
		欧米の歴史と文化	2	必修/選択	1・2	
		ジェンダーの歴史と文化	2	必修/選択	1・2	
		女性と科学の関係史	2	必修/選択	1・2	
		大学の歴史と現在	2	必修/選択	1・2	
		岩手大学ミュージアム学	2	必修/選択	1・2	
		心の理解	2	必修/選択	1・2	
		日本の文学	2	必修/選択	1・2	
		言葉の世界	2	必修/選択	1・2	
		中国の文学	2	必修/選択	1・2	
		欧米の文学	2	必修/選択	1・2	
		欧米の言語論	2	必修/選択	1・2	
		芸術の世界	2	必修/選択	1・2	
		日本語表現技術入門	2	必修/選択	1・2	
		図書館への招待	2	必修/選択	1・2	
		コミュニケーションの現在	2	必修/選択	1・2	
		心と表象	2	必修/選択	1・2	
		日本事情A	2	必修/選択	1・2	
		日本事情B	2	必修/選択	1・2	
		英語で学ぶ日本の文化	2	必修/選択	1・2	

履修区分	科目名 (※印は集中講義形式で開講)	単位数	要件区分	標準履修 学年・時期	備考
学問知 科目	市民生活と法	2	必修/選択	1・2	教育学部生は、時間割を確認の上、「憲法」を1年前期に履修すること。
	憲法	2	必修/選択	1・2	
	経済のしくみ	2	必修/選択	1・2	
	現代社会と経済	2	必修/選択	1・2	
	市民と政治	2	必修/選択	1・2	
	現代政治を見る眼	2	必修/選択	1・2	
	社会的人間論	2	必修/選択	1・2	
	現代社会の社会学	2	必修/選択	1・2	
	地域と生活	2	必修/選択	1・2	
	地域と社会	2	必修/選択	1・2	
	対人関係の心理学	2	必修/選択	1・2	
	知的財産入門 ※	2	必修/選択	1・2	
	知財ワークショップ ※	2	必修/選択	1・2	
	キャリアを考える	2	必修/選択	1・2	
	ボランティアとリーダーシップ ※	2	必修/選択	1・2	
	現代の諸問題	2	必修/選択	1・2	
公共社会	2	必修/選択	1・2		
多文化コミュニケーションA	2	必修/選択	1・2		
多文化コミュニケーションB	2	必修/選択	1・2		
キャリアデザイン実践	2	必修/選択	1・2		
学問知 科目	生命のしくみ	2	必修/選択	1・2	前期末に行う履修希望調査によりクラス分けを行う。 (掲示により確認すること)
	自然のしくみ	2	必修/選択	1・2	
	自然と数理	2	必修/選択	1・2	
	数理のひろがり	2	必修/選択	1・2	
	宇宙のしくみ	2	必修/選択	1・2	
	物質の世界	2	必修/選択	1・2	
	自然と法則	2	必修/選択	1・2	
	自然と数理の世界	2	必修/選択	1・2	
	自然の科学	2	必修/選択	1・2	
	科学と技術の歴史	2	必修/選択	1・2	
	くらしと科学技術	2	必修/選択	1・2	
	科学技術	2	必修/選択	1・2	
	「環境」を考える	2	必修/選択	1後・2後	
	生活と環境	2	必修/選択	1後・2後	
	都市と環境	2	必修/選択	1後・2後	
	地球環境と社会	2	必修/選択	1後・2後	
	水と環境	2	必修/選択	1後・2後	
	廃棄物と環境	2	必修/選択	1後・2後	
	植物栽培と環境テクノロジー	2	必修/選択	1後・2後	
	森林と環境	2	必修/選択	1後・2後	
動物と環境	2	必修/選択	1後・2後		
人の暮らしと生物環境	2	必修/選択	1後・2後		
環境の科学	2	必修/選択	1後・2後		
学問知 科目	現代社会をみる視角	2	必修/選択	1・2	
	岩手の研究	2	必修/選択	1・2	
	環境マネジメント実践学	2	必修/選択	1・2	
	宮沢賢治の世界	2	必修/選択	1・2	
	危機管理と復興 ※	2	必修/選択	1・2	
	持続可能なコミュニティづくり実践学	2	必修/選択	1・2	
	地元の企業に学ぶESD	2	必修/選択	1・2	
	地場産業、企業論 ※	2	必修/選択	1・2	
	三陸の研究	2	必修/選択	1・2	
	自然災害と社会	2	必修/選択	1・2	
	東北の歴史	2	必修/選択	1・2	
	地域を考える	2	必修/選択	1・2	
	地域と国際社会	2	必修/選択	1・2	
	海外研修－世界から地域を考える－ ※	2	必修/選択	1・2	
	地域協創入門	2	必修/選択	1・2	
	社会連携学A	2	必修/選択	1・2	
	社会連携学B	2	必修/選択	1・2	
	地域協創A	1	必修/選択	1・2	
	地域協創B	1	必修/選択	1・2	
	地域協創C	1	必修/選択	1・2	
地域協創D ※	1	必修/選択	1・2		
地域協創E	1	必修/選択	1・2		
地域協創F	1	必修/選択	1・2		
実践知 科目	地域マネジメント課題演習	2	必修/選択	1・2	
	地域防災課題演習	2	必修/選択	1・2	
	演習科目 地域グローバル課題演習	2	必修/選択	1・2	
	地域クリエイト課題演習	2	必修/選択	1・2	

注1:各学部の履修単位数及び履修方法を確認すること。

注2:履修にあたっては前期のみまたは後期のみ開設授業科目や年度により開設しない科目があるので、時間割を確認すること。

なお、時間割には、学年・学部・学科等の単位で履修できる枠(時間割枠)があるので、注意すること。

注3:科目名の※印は集中講義形式での開講を示しているが、これ以外でも集中講義形式で開講する場合がある。

5 各学部の履修単位数及び履修方法

人文社会科学部

教養教育科目の授業科目区分及び単位数等は前述のとおりですが、修得すべき単位数及び履修方法については、以下のようになりますので、熟読のうえ履修してください。

表Ⅱ a 教養教育科目の修得すべき単位数

区 分				人文社会科学部			
				必修 単位	選択		
		上限	単位				
教 養 教 育 科 目	実践知科目	転換教育科目	基礎ゼミナール	1		10 IV参照	
	実践知科目（転換教育科目）修得単位数計			1			
	技法知科目	外国語科目	英語	8	2		
			英語以外				
			日本語				
		健康・スポーツ科目		2	1		
	情報科目		2				
	技法知科目修得単位数計			12			
	学問知科目	文化科目		6	4		
		社会科目		6	4		
		自然&科学技術科目		4	4		
		環境科目		2			
	実践知科目	地域関連科目	地域科目	2	2		
			地域課題演習科目		4		
学問知科目・実践知科目取得単位合計数			20				
教養教育科目修得単位数計			43				

- (注) 1. 各区分から修得すべき単位数以上を履修すること。
 2. 選択の上限欄の数字は上限単位数を表す。
 3. 上記の表だけで判断せず、下の説明も確認すること。

I 実践知科目（転換教育科目）（1単位）
 必修単位（1単位）
 基礎ゼミナール（1単位）を修得すること。

II 技法知科目（12単位）
 必修単位（12単位）

① 外国語科目（英語・英語以外の外国語）

英語、英語以外の外国語を次の a～c のいずれか1つの履修形態を選択し修得すること。

a. 英語8単位

英語総合Ⅰ・Ⅱを各2単位、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱを各2単位、計8単位

b. 英語4単位、英語以外の外国語4単位、計8単位

英語総合Ⅰ・Ⅱを各1単位、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱを各1単位、計4単位及び英語以外の外国語から1外国語を選択し、初級（入門）を2単位、初級（発展）を2単位、計4単位、合計8単位

c. 英語以外の外国語8単位

1外国語を選択し、初級（入門）を2単位、初級（発展）を2単位、中級を4単位、計8単位

- ② 健康・スポーツ科目
 - i 健康・スポーツA（1単位）は必ず修得すること。
 - ii 健康・スポーツB及び健康・スポーツCから1単位を修得すること。健康・スポーツBを修得することが望ましい。
 - iii 健康・スポーツC（シーズン）は、「雪上のスポーツ」，「氷上のスポーツ」から1つ修得できるが、人数制限があるので注意すること。
- ③ 情報科目
 - 情報基礎（2単位）を修得すること。

Ⅲ 学問知科目及び実践知科目（基礎ゼミナールを除く）（20単位）

必修単位（20単位）

- ① 「文化科目」から6単位を修得すること。
- ② 「社会科目」から6単位を修得すること。
- ③ 「自然&科学技術科目」から4単位を修得すること。
- ④ 「環境科目」から2単位を修得すること。
- ⑤ 「地域科目」，「地域課題演習科目」から2単位を修得すること。

※Ⅳ 選択（10単位）

次の区分から10単位を修得すること。なお、区分ごとに修得できる上限があるので注意すること。

また、いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換制度に基づき、他大学で修得した科目を含むことができる。

- ① 「外国語科目」（「英語発展」のみ。2単位まで）
- ② 「健康・スポーツ科目」（1単位まで）
- ③ 「文化科目」（4単位まで）
- ④ 「社会科目」（4単位まで）
- ⑤ 「自然&科学技術科目」（4単位まで）
- ⑥ 「地域科目」（2単位まで）
- ⑦ 「地域課題演習科目」（4単位まで）

－履修上の注意事項－

- 1 「実践知科目（転換教育科目）」，「外国語科目」，「健康・スポーツ科目」，「情報科目」，「環境科目」は1年次に、それぞれ決められた時間帯に履修すること。また「外国語科目（英語発展）」は2年次以降に履修すること。
- 2 教育職員免許状取得希望者は、日本国憲法として「社会科目」で**憲法2単位修得**する必要があるので注意すること。
- 3 履修については、本冊子及び授業時間割表を参考にし、間違いのないよう注意すること。
なお、同一授業科目は重複して履修できない。ただし、日本語以外の外国語科目は重複して履修できる。
 また、履修にあたっては前期のみ又は後期のみの開設授業科目や年度により開設しない授業科目があるので注意すること。
- 4 外国語科目は、入学時に決定する決定語学のとおり履修すること（掲示により確認すること）。
 なお、人文社会科学部の学生は、前期末に行う外国語科目の変更希望調査により、後期に履修する決定語学の変更を許可される場合がある。ただし、決定語学の変更は、1年次だけに認められ、2年次以降の変更はできないので、変更の手続きについては掲示を確認すること。

教育学部

教養教育科目の授業科目区分及び単位数等は前述のとおりですが、修得すべき単位数及び履修方法については、以下のようになりますので、熟読のうえ履修してください。

表Ⅱ b 教養教育科目の修得すべき単位数

区 分				教 育 学 部		
				必修 単位	選択	
		上限	単位			
教 養 教 育 科 目	実践知科目	転換教育科目	基礎ゼミナール	1		2 IV参照
	実践知科目（転換教育科目）修得単位数計			1		
	技法知科目	外国語科目	英語	4	2	
			英語以外	4		
		日本語				
		健康・スポーツ科目		2	1	
	情報科目		2			
	技法知科目修得単位数計			1 2		
	学問知科目	文化科目		2	2	
		社会科目		4	2	
		自然&科学技術科目		2	2	
		環境科目		2		
	実践知科目	地域関連科目	地域科目	2	2	
			地域課題演習科目		2	
学問知科目・実践知科目取得単位数合計			1 2			
教養教育科目修得単位数計				2 7		

- (注) 1. 各区分から修得すべき単位数以上を履修すること。
 2. 選択の上限欄の数字は上限単位数を表す。
 3. 上記の表だけで判断せず、下の説明も確認すること。

I 実践知科目（転換教育科目）（1単位）
 必修単位（1単位）
 基礎ゼミナール（1単位）を修得すること。

II 技法知科目（1 2単位）
 必修単位（1 2単位）

① 外国語科目（英語）

英語総合Ⅰ・Ⅱを各1単位、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱを各1単位、計4単位を修得すること。

② 外国語科目（英語以外の外国語）

1外国語を選択し、初級（入門）を2単位、初級（発展）を2単位、計4単位を修得すること。

③ 健康・スポーツ科目

i 健康・スポーツA（1単位）は必ず修得すること。

ii 健康・スポーツB及び健康・スポーツCから1単位を修得すること。健康・スポーツBを修得することが望ましい。

iii 健康・スポーツC（シーズン）は、「雪上のスポーツ」、「氷上のスポーツ」から1つ修得できるが、人数制限があるので注意すること。

- ④ 情報科目
情報基礎（2単位）を修得すること。

Ⅲ 学問知科目及び実践知科目（基礎ゼミナールを除く）（12単位）

1. 必修単位（12単位）

- ① 「文化科目」から2単位を修得すること。
- ② 「社会科目」から憲法（2単位）を含む4単位を修得すること。
- ③ 「自然&科学技術科目」から2単位を修得すること。
- ④ 「環境科目」から2単位を修得すること。
- ⑤ 「地域科目」，「地域課題演習科目」から2単位を修得すること。

※Ⅳ 選択（2単位）

次の区分から2単位を修得すること。なお、区分ごとに修得できる上限があるので注意すること。

また、いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換制度に基づき、他大学で修得した科目を含むことができる。

- ① 「外国語科目」（「英語発展」のみ。2単位まで）
- ② 「健康・スポーツ科目」（1単位まで）
- ③ 「文化科目」（2単位まで）
- ④ 「社会科目」（憲法を除く）（2単位まで）
- ⑤ 「自然&科学技術」（2単位まで）
- ⑥ 「地域科目」（2単位まで）
- ⑦ 「地域課題演習科目」（2単位まで）

－履修上の注意事項－

- 1 「実践知科目（転換教育科目）」，「外国語科目」，「健康・スポーツ科目」，「情報科目」，「環境科目」は1年次に、それぞれ決められた時間帯に履修すること。また、「外国語科目（英語発展）」は2年次以降に履修すること。
- 2 履修については、本冊子及び授業時間割表を参考にし、間違いのないよう注意すること。
なお、同一授業科目は重複して履修できない。ただし、日本語以外の外国語科目は重複して履修できる。
また、履修にあたっては前期のみ又は後期のみの開設授業科目や年度により開設しない授業科目があるので注意すること。
- 3 外国語科目は、入学時に決定する決定語学のとおり履修すること（掲示により確認すること）。
決定語学は変更できない。

理 工 学 部

教養教育科目の授業科目区分及び単位数等は前述のとおりですが、修得すべき単位数及び履修方法については、以下のようになりますので、熟読のうえ履修してください。

表Ⅱc 教養教育科目の修得すべき単位数

区 分				理 工 学 部			
				必修 単位	選択		
					上限	単位	
教 養 教 育 科 目	実践知科目	転換教育科目	基礎ゼミナール	1		5 IV参照	
	実践知科目（転換教育科目）修得単位数計			1			
	技法知科目	外国語科目	英語	8	2		
			英語以外				
			日本語				
		健康・スポーツ科目		1	1		
		情報科目		2			
	技法知科目修得単位数計			11			
	学問知科目	文化科目		4	2		
		社会科目		4	2		
		自然&科学技術科目		2	2		
		環境科目		2			
		実践知科目	地域関連科目	地域科目	2		2
	地域課題演習科目			2			
	学問知科目・実践知科目取得単位数合計			14			
	教養教育科目修得単位数計			31			

- (注) 1. 各区分から修得すべき単位数以上を履修すること。
 2. 選択の上限欄の数字は上限単位数を表す。
 3. 上記の表だけで判断せず、下の説明も確認すること。

I 実践知科目（転換教育科目）（1単位）
 必修単位（1単位）
 基礎ゼミナール（1単位）を修得すること。

II 技法知科目（11単位）
 必修単位（11単位）

- ① 外国語科目（英語・英語以外の外国語）
 英語、英語以外の外国語を次のa～bのどちらか1つの履修形態を選択し修得すること。
 a. 英語8単位
 英語総合Ⅰ・Ⅱを各2単位、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱを各2単位、計8単位
 b. 英語4単位、英語以外の外国語4単位、計8単位
 英語総合Ⅰ・Ⅱを各1単位、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱを各1単位、計4単位及び英語以外の外国語から1外国語を選択し、初級（入門）を2単位、初級（発展）を2単位、計4単位、合計8単位
- ② 健康・スポーツ科目（1単位）
 健康・スポーツA（1単位）を修得すること。
- ③ 情報科目
 情報基礎（2単位）を修得すること。

Ⅲ 学問知科目及び実践知科目（基礎ゼミナールを除く）（14単位）

1. 必修単位

- ① 「文化科目」から4単位を修得すること。
- ② 「社会科目」から4単位を修得すること。
- ③ 「自然&科学技術科目」から2単位を修得すること。
- ④ 「環境科目」から2単位を修得すること。
- ⑤ 「地域科目」，「地域課題演習科目」から2単位を修得すること。

※Ⅳ 選択（5単位）

次の区分から5単位を修得すること。なお、区分ごとに修得できる上限があるので注意すること。
また、いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換制度に基づき、他大学で修得した科目を含むことができる。

- ① 「外国語科目」（「英語発展」のみ。2単位まで）
- ② 「健康・スポーツ科目」（1単位まで）
健康・スポーツB，健康・スポーツC（シーズン）は、人数制限があるので注意すること。
- ③ 「文化科目」（2単位まで）
- ④ 「社会科目」（2単位まで）
- ⑤ 「自然&科学技術科目」（2単位まで）
- ⑥ 「地域科目」（2単位まで）
- ⑦ 「地域課題演習科目」（2単位まで）

－履修上の注意事項－

- 1 「実践知科目（転換教育科目）」，「外国語科目」，「健康・スポーツ科目」，「情報科目」，「環境科目」は1年次に、それぞれ決められた時間帯に履修すること。また，「外国語科目（英語発展）」は2年次以降に履修すること。
- 2 教育職員免許状取得希望者は、日本国憲法として「社会科目」で**憲法2単位，健康・スポーツ科目2単位修得**する必要があるので注意すること。（詳細については、オリエンテーション等で説明する。）
- 3 履修については、本冊子及び授業時間割表を参考にし、間違いのないよう注意すること。
なお、同一授業科目は重複して履修できない。ただし、日本語以外の外国語科目は重複して履修できる。
また、履修にあたっては前期のみ又は後期のみの開設授業科目や年度により開設しない授業科目があるので注意すること。
- 4 外国語科目は、入学時に決定する決定語学のとおり履修すること（掲示により確認すること）。
決定語学は変更できない。

農 学 部（共同獣医学科を除く）

教養教育科目の授業科目区分及び単位数等は前述のとおりですが、修得すべき単位数及び履修方法については、以下のようになりますので、熟読のうえ履修してください。

表Ⅱ d 教養教育科目の修得すべき単位数

区 分				農 学 部			
				必修 単位	選択		
					上限	単位	
教 養 教 育 科 目	実践知科目	転換教育科目	基礎ゼミナール	1		4 IV参照	
	実践知科目（転換教育科目）修得単位数計			1			
	技法知科目	外国語科目	英語	8	2		
			英語以外				
			日本語				
		健康・スポーツ科目	2	1			
		情報科目		2			
	技法知科目修得単位数計			12			
	学問知科目	文化科目		6	2		
		社会科目		6	2		
		自然&科学技術科目		2	2		
		環境科目		2	2		
	実践知科目	地域関連科目	地域科目	2	2		
			地域課題演習科目		2		
学問知科目・実践知科目取得単位合計数			18				
教養教育科目修得単位数計				35			

- (注) 1. 各区分から修得すべき単位数以上を履修すること。
2. 選択の上限欄の数字は上限単位数を表す。
3. 上記の表だけで判断せず、下の説明も確認すること。

I 実践知科目（転換教育科目）（1単位）
必修単位（1単位）
基礎ゼミナール（1単位）を修得すること。

II 技法知科目（12単位）
必修単位（12単位）

① 外国語科目（英語・英語以外の外国語）

英語、英語以外の外国語を次の a～b のどちらか1つの履修形態を選択し修得すること。

a. 英語8単位

英語総合Ⅰ・Ⅱを各2単位、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱを各2単位、計8単位

b. 英語4単位、英語以外の外国語4単位、計8単位

英語総合Ⅰ・Ⅱを各1単位、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱを各1単位、計4単位及び英語以外の外国語から1外国語を選択し、初級（入門）を2単位、初級（発展）を2単位、計4単位、合計8単位

② 健康・スポーツ科目（2単位）

i. 健康・スポーツA（1単位）は必ず修得すること。

ii. 健康・スポーツB及び健康・スポーツCから1単位を修得すること。健康・スポーツBを修得することが望ましい。

iii. 健康・スポーツC（シーズン）は、「雪上のスポーツ」、「氷上のスポーツ」から1つ修得できるが、人数制限があるので注意すること。

- ③ 情報科目
情報基礎（2単位）を修得すること。

III 学問知科目及び実践知科目（基礎ゼミナールを除く）（18単位） 必修単位（18単位）

- ① 「文化科目」から6単位を修得すること。
- ② 「社会科目」から6単位を修得すること。
- ③ 「自然&科学技術科目」から2単位を修得すること。
- ④ 「環境科目」から2単位を修得すること。
- ⑤ 「地域科目」，「地域課題演習科目」から2単位を修得すること。

※IV 選択（4単位）

次の区分から4単位を修得すること。なお、区分ごとに修得できる上限があるので注意すること。
また、いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換制度に基づき、他大学で修得した科目を含むことができる。

- ① 「外国語科目」（「英語発展」のみ。2単位まで）
- ② 「健康・スポーツ科目」（1単位まで）
- ③ 「文化科目」（2単位まで）
- ④ 「社会科目」（2単位まで）
- ⑤ 「自然&科学技術科目」（2単位まで）
- ⑥ 「環境科目」（2単位まで）
- ⑦ 「地域科目」（2単位まで）
- ⑧ 「地域課題演習科目」（2単位まで）

—履修上の注意事項—

- 1 「実践知科目（転換教育科目）」，「外国語科目」，「情報科目」，「健康・スポーツ科目」，「環境科目（選択分の環境科目は2年次以降で履修）」は1年次に、それぞれ決められた時間帯に履修すること。また、「外国語科目（英語発展）」は2年次以降に履修すること。
- 2 教育職員免許状取得希望者は、日本国憲法として「社会科目」で**憲法2単位修得**する必要があるので注意すること。
- 3 履修については、本冊子及び授業時間割表を参考にし、間違いのないよう注意すること。
なお、同一授業科目は重複して履修できない。ただし、日本語以外の外国語科目は重複して履修できる。
また、履修にあたっては前期のみ又は後期のみの開設授業科目や年度により開設しない授業科目があるので注意すること。
- 4 外国語科目は、入学時に決定する決定語学のとおり履修すること（掲示により確認すること）。
決定語学は変更できない。

V

専門教育について

理工学部

理工学部の学生の皆さんへ

皆さんの大学における履修は、この本（「履修の手引き」）にすべて記載されていますので、関係する部分を熟読してください。記載内容に変更がある場合は、学生センター掲示板、理工学部共通掲示板及び各学科・コースの掲示板に掲示します。以下に「履修の手引き」の要点を示します。

1. 大学における履修全般については、“Ⅰ 科目履修に当たって知っておくべきこと”を熟読してください。

2. 教養教育科目については、“Ⅱ 教養教育について（農学部共同獣医学科を除く）”を熟読してください。

- ・基礎ゼミナール、情報基礎、外国語、健康・スポーツは、指定された時間帯を履修してください。
- ・選択単位には区分ごとに上限があります。

3. 各コースの専門科目については、“V-16～V-40 ページ”を熟読してください。

4. 教育職員免許状については、“Ⅷ 教育職員免許状・各種資格の取得方法”を熟読してください。

免許状取得希望者には、1年次前期に開講する「教職入門」で教育職員免許状を取得するためのガイダンスを行います。免許取得希望者は必ず「教職入門」を履修申告してください。

履修に関して分からないことがあったら、学生センターや各コースの教務委員または担任へ相談してください。

学生センター相談窓口

- | | |
|------------------|---------------|
| 教養教育科目に関すること | …学生センターA棟②番窓口 |
| 専門教育科目に関すること | …学生センターA棟④番窓口 |
| 教育職員免許状の取得に関すること | …学生センターA棟④番窓口 |

理 工 学 部

＜理念と目標＞

* 理念

岩手大学工学部は学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、理工学分野およびその周辺の専門知識を有し国際的に活躍出来る人間性豊かな人材の育成と、科学技術分野における基礎研究と応用研究を積極的に推進することによって自然界の摂理の解明と技術革新の推進に貢献します。また、これらの教育研究活動を地域社会との連携を通して実践し、地域社会とともに生きる工学部を目指します。

* 教育目標

工学部は、以下のような特徴の人材を育成することによって地域社会や国際社会の発展に貢献することを目指します。

- (1) 幅広い教養と豊かな人間性を基礎として、理工学分野における基礎学力と国際水準を満たす専門的知識・専門技術、および倫理性を有し、新しい発想で現代社会の諸課題に積極的に取り組むことのできる人材の育成
- (2) 獲得した知識や技術を様々な科学技術分野に役立てることを通して、地域や国際社会の様々な問題解決に貢献できる人材の育成
- (3) 理工学的課題探求心と理解力に基づき、自然科学の様々な現象を根源的かつ包括的に捉えながら人間社会と自然環境の共生を図り、多様な課題の解決への取り組みを通して地域社会と国際社会の持続的発展に貢献できる人材の育成

* 研究目標

工学部は近年の科学技術の飛躍的進歩に基づき環境問題、エネルギー問題、巨大災害発生への備え、および震災からの復興や地域振興などに対応するために、理工学の幅広い分野における基礎研究から商品化研究までの広範な研究を積極的に推進し、地域社会や国際社会の発展に貢献することを目指します。

- (1) 理工学分野およびその周辺分野の基礎研究による自然のしくみの探求と技術革新の推進、およびそれらの研究成果に基づく新しいシーズの発掘
- (2) 地域社会や国際社会からのニーズの発掘
- (3) 応用研究や実用化研究の推進

* 社会貢献目標

工学部は、教育・研究活動の成果を地域社会および国際社会に展開し、これらの発展に貢献することを目指します。

- (1) 産学官民の連携による産業振興への対応
- (2) 環境および福祉問題における諸課題への対応
- (3) 生涯学習社会における諸問題への対応

＜教育目的＞

工学部は、持続可能な社会づくりのための理工学の構築と実践を理念として、理工学及びその周辺の専門知識を有し地域や国際社会で活躍できる人間性豊かな人材ならびに科学技術の調和的発展に貢献できる技術者を養成することを目的とする。

＜修得すべき能力＞

工学部では、その教育プログラムを通して、学生が以下のような能力を習得することを目指す。

- (1) 持続可能な社会づくりを見据えた幅広い理工学的基礎能力
- (2) 理工学的課題を解決する専門的能力
- (3) 地域社会や国際社会と積極的に交流することができる理解力やコミュニケーション能力

＜理工学部及び各コースの学位授与の方針，教育課程編成・実施の方針＞

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）とは，学生が修得すべき学修の成果を示したものであり，学生が理工学部卒業（＝学位授与）までに身に付けるべき知識や能力等です。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）は，学位授与の方針を実現するために，教育課程（カリキュラム）をどのように編成し，実施するかを示したものです。

理工学部

＊学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- ・ 理学・工学双方の素養を有し，両学問を統合・融合した理工学の幅広い学力と論理的な思考力を持ち，地域や世界の諸課題に果敢に挑戦する研究者・技術者として主体的に活躍する能力を身に付けたと認定した場合，「学士（理工学）」の学位を授与する。
- ・ 工学系の幅広い学力，専門分野の深い知識と柔軟な思考力を持ち，社会で要求される様々な工学システムの開発，設計，製造に関する次世代の技術者・研究者として主体的に活躍する能力を身に付けたと認定した場合，「学士（工学）」の学位を授与する。

化学・生命理工学科

＊教育目的

化学・生命理工学科では，物質化学と生命科学に関する基礎知識と両分野における最先端の技術開発に必須な，基礎力，統合力，及び展開力を兼ね備え，現代社会が抱える環境やエネルギー問題等に積極的に取り組むことができ，高い倫理観をもつ人材の育成を目的とする。そのため，理学と工学を統合した理工学分野でのイノベーション創出が可能な「化学コース」と「生命コース」で構成する。

＊学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【化学コース】

化学コースの教育目的と修得能力に則り，所定の教育課程を修了し，以下の各項目を身につけた学生に「学士（理工学）」の学位を授与する。

（知識・理解）

1. 幅広い教養と理工学分野の基礎学力を身につけている。
2. 化学に関する専門知識を有し，それらを応用できる。

（思考・判断）

3. 地域における諸問題を分析し，その解決法を論理的に提案できる。
4. 化学に関する専門知識に基づいて，直面する課題に対する解決法を思考することができる。

（技能・表現）

5. 化学技術者として必要な基本的実験技能を有する。
6. 実験や調査結果を論理的に表現する文章作成能力を有し，国際的に通用するプレゼンテーション能力を身につけている。

（関心・意欲・態度）

7. 地域における課題，化学に関する研究動向に関心を持っている。
8. 化学に関する知識や技能を活かして，社会に貢献する意欲と態度を持っている。

【生命コース】

生命コースの教育目的と修得能力に則り，所定の教育課程を修了し，以下の各項目を身につけた学生に「学士（理工学）」の学位を授与する。

（知識・理解）

1. 一般教養を身につけている。
2. 自然科学に関する幅広い基礎知識と，生命理工学に関する専門知識を有しそれらを応用できる。

（思考・判断）

3. 多様な社会性や地域性を考慮しつつ，生命理工学の見地から健康や福祉等の諸問題解決のための論理的な判断や提案ができる。

(技能・表現)

4. 生命理工学分野の基本的な研究・実験技能を身につけている。
5. 日本語と英語による論理的な表現力とコミュニケーション能力を修得している。

(関心・意欲・態度)

6. 生命理工学及び関連分野の進展に関心を持ち、主体的に学ぶことができる。
7. 生命理工学に関する知識や技能を活かして、社会に貢献する意欲と態度を持っている。

* 教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)

【化学コース】

化学コースでは、基礎化学と応用化学に関する国際水準の高度な専門知識・専門技術を有し、さらに幅広い一般教養と語学力を基にして、地域社会と国際社会の持続的発展を実現するうえで解決すべき諸問題に積極的に取り組むことができる人材の育成を目的として定めている。本コースでは、その教育プログラムを通して、学生が以下の能力を修得することを目指している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 文化・社会・自然・環境・地域に関する幅広い知識を身につけさせるために、教養教育科目の履修を必修としている。
2. 理工学部卒業生として備えるべき、自然科学に関する国際水準の基礎知識や技能を修得させるために共通科目として専門基礎科目を配置している。

(思考・判断)

3. 地域における課題を見出し、それを解決する方法を提案する能力を開発するために、「ソフトパス理工学概論」等の地域学習科目を配置している。
4. 基礎化学と応用化学に関わる幅広く深い知識を修得し、問題解決能力を養うための専門性を高めるために、無機化学、有機化学、物理化学、高分子化学、化学工学、分析化学の科目を体系的に配置している。

(技能・表現)

5. 専門科目で学んだ知識を活用する実践力養成のために、化学実験を実施する。
6. プロジェクトベースラーニング (PBL)科目 (「化学生命研修Ⅰ・Ⅱ」)を通じて、自ら調べた結果を、論理的に発表する能力を養う。また、英語で発表する能力を養うために、「科学英語」を配置している。

(関心・意欲・態度)

7. 科学技術による地域貢献、最新の化学トピックスに興味を持たせるための科目を専門科目に配置している。
8. 実社会において化学の専門家として活動する際に必要となる素養を身につけさせるために、「技術者倫理」、「社会体験学習」等の科目を配置している。

【生命コース】

学位授与方針に基づき、入学から2年次までは教養教育科目と専門基礎科目を、2年次以降は専門科目を受講させ、幅広い基礎知識と応用力を修得させる。3年次後期には研究室に配属し、4年次に卒業研究を行うための準備を行わせる。学位授与方針の各項目と対応する科目を以下に示す。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 一般教養に関連した教養科目や分野横断型科目を教養教育科目として配置する。
2. 自然科学に関する幅広い基礎知識の修得に必要な専門基礎科目、生命理工学に関する専門知識の修得に必要な学科内共通科目や生命コース科目を配置する。

(思考・判断)

3. 多様な社会性や地域性を考慮し、生命理工学の見地から健康や福祉等の諸問題と向き合えるように、「基礎ゼミ」と「化学生命研修Ⅰ」を必修科目とし、「化学生命研修Ⅱ」、「社会体験学習」、「化

「学生命概論」を選択科目とする。

(技能・表現)

4. 生命理工学分野の基本的な研究・実験技能を修得させるため、「化学実験」「生命理工学実験Ⅰ,Ⅱ」「生命理工学演習Ⅰ,Ⅱ」を必修科目とする。
5. 日本語と英語による論理的な表現力とコミュニケーション能力を修得させるため、「情報基礎」,「教養教育の英語科目」,「科学英語Ⅰ,Ⅱ」を必修科目とし,「国際研修」を選択科目とする。
(関心・意欲・態度)
6. 生命理工学及び関連分野の進展に関心を持たせ,主体的に学ばせるため,「英語論文購読Ⅰ,Ⅱ」,「生命理工学情報」を必修科目とする。また,3年次後期から研究室に配属させ,卒業研究に主体的に取り組ませる。
7. 生命理工学に関する知識や技能を活かして,社会に貢献する意欲と態度を持たせるため,「技術者倫理」,「ソフトパス理工学概論」を必修科目とし,「工業経営管理論」,「知的財産権概論」,「特許法特講」,「原子力工学」を選択科目とする。

物理・材料理工学科

＊教育目的

物理・材料理工学科は物理・数学・物質科学・材料工学の分野に関して広い知識と深い専門性をもち,実践的な問題解決能力を備え,豊かな人間性と国際感覚に満ちあふれた人材を育成し,もって社会の発展と平和に貢献することを使命とする。

＊学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

【数理・物理コース】

数理・物理コースの教育目的と修得能力に則り,所定の教育課程を修了し,以下の各項目を身につけた学生に「学士(理工学)」の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 教養教育,数学,物理,化学の各分野の幅広い基礎知識,基礎学力を有している。
2. 数理科学および物理学に関する幅広い専門知識を有している。
(思考・判断)
3. 数理科学および物理学の観点から諸問題を分析し,問題解決のための論理的な判断や提案ができる。
(興味・関心)
4. 科学技術の創成や人の暮らしや産業の発展を担う新現象の解明,研究手法の開発,および,数理科学,物理学に大いなる意欲を有している。
(技能・表現)
5. 教育者,研究者あるいは技術者として必要な基本的な実験や演習,計算の技能を有するとともに,自らの考えを論理的に説明できる。
6. 科学英語の読解力と文章力を有するとともに,英語により自らの成果をプレゼンテーションすることができる。
(態度)
7. 社会における科学技術の役割を理解し,高い倫理性を持って,獲得した知識や技術を地域や国際社会の様々な問題解決に積極的に生かそうとすることができる。

【マテリアルコース】

マテリアルコースの教育目的と修得能力に則り,所定の教育課程を修了し,以下の各項目を身につけた学生に「学士(理工学)」の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 教養教育,数学,物理,化学の各分野の幅広い基礎知識,基礎学力を有している。
2. マテリアル工学および材料科学に関する幅広い専門知識を有している。
(思考・判断)

3. マテリアル工学および材料科学の観点から諸問題を分析し、問題解決のための論理的な判断や提案ができる。
(興味・関心)
4. 科学技術の創成や人の暮らしや産業の発展を担う材料開発や評価技術開発に大いなる意欲を有している。
(技能・表現)
5. 教育者、研究者あるいは技術者として必要な基本的な実験や計算の技能を有するとともに、自らの考えを論理的に説明できる。
6. 研究者あるいは技術者として必要な科学技術英語の基礎知識と技能を有している。
(態度)
7. 社会におけるマテリアル工学および材料科学の役割を理解し、高い倫理性を持って、獲得した知識や技術をエネルギーや地球環境などの問題解決に積極的に生かそうとすることができる。

*教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【数理・物理コース】

数理・物理コースでは、数学及び物理に関する幅広い知識・教養を身につけると同時に自然界の真理探究を通じて自然科学と人類社会との関係を総合的に判断出来る知性、品格さらには国際感覚を身につけた人材の育成を目標としている。そのため、教育研究分野として、物理科学分野と数理科学分野を設置し、幅広い基礎知識の修得と数理科学の専門性深化を目指した教育課程を以下の様に編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

- (知識・理解)
1. 1, 2年次に、理工学全般の基礎的な知識と実験・分析方法を修得出来るように、教養教育、主として数学、物理、化学の講義と基礎実験科目からなる専門基礎科目を配置している。
2. 数理科学、物理科学に関する幅広い基礎知識および高度な専門性を体系的に習得出来るように、学科内専門科目、さらにより高い専門性を学ぶためのコース内専門科目を2年次以降に配置している。
3. 数理科学分野の専門性を深化できるように、微分方程式、線形代数学、複素解析学を基礎に、応用解析学、ゲーム理論、複雑系科学などを体系的に履修することを徹底している。
4. 物理科学分野の専門性を深化できるように、電磁気学、量子力学、統計力学、などを基礎に、固体物理学、磁性物理学、光学などを体系的に履修することを徹底している。
- (思考・判断)
5. 数理科学、物理科学の課題に対する実践的解決法を習得できるように「物理・材料理工学実験」、「プログラミング学」、「社会体験学習」、「工場見学」、「卒業研究」などの実験・研修科目を3年次以降に配置している。
- (技能・表現)
6. 専門科目で習得した知識や技能を活かす応用力と創造力を習得するため「物理学実験」、「物理数学演習」、「物理・材料理工学実験」を配置している。
7. 科学技術英語の読解力と文章力、および、英語による表現法を習得できるように、科学英語科目を体系的に履修することを徹底している。
- (関心・意欲・態度)
8. 分野横断的な思考力および俯瞰的研究能力を身につけるため、1年次に「物理・材料理工学基礎演習」を配置するとともに、マテリアルコースのコース内専門科目を選択科目として履修可能としている。
9. 社会における数理科学および物理科学の役割ならびに技術者・研究者が負っている社会的責任について深く理解させるため、「ソフトパス理工学概論」および「技術者倫理」を配置している。

【マテリアルコース】

マテリアルコースでは、マテリアル工学および材料科学に関する幅広い知識と高い専門性のスキル

を身につけ、それを科学技術の創成や人の暮らしや産業の発展を担うことができる人材の育成を目標としている。そのため、教育研究分野として、金属生産工学分野と機能材料理工学分野を設置し、幅広い基礎知識の修得とマテリアル工学および材料科学の専門性の深化を目指した教育課程を以下の様に編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 1, 2年次に、一般教養に関する教養教育科目を配置している。
2. 理工学全般の基礎的な知識と実験・分析方法を習得できるように、1, 2年次に、主に数学、物理、化学の講義と基礎実験科目からなる専門基礎科目を配置している。
3. マテリアル工学および材料科学に関する幅広い基礎知識および高度な専門性を体系的に習得できるように、学科内共通科目、さらにより高い専門性を学ぶためのコース内専門科目を2年次以降に配置している。
4. 金属生産工学分野の専門性を深化できるように、材料物理化学、材料組織学、金属構造材料学などの金属とセラミックスの物理・化学的性質を基礎に、金属工学、材料精製、加工プロセス工学などを体系的に履修することを徹底している。
5. 機能材料理工学分野の専門性を深化できるように、電磁気学、固体物理学、半導体理工学などを基礎に、新電子材料、計測技術、材料設計・解析などを体系的に履修することを徹底している。

(思考・判断)

6. マテリアル工学および材料科学分野の課題に対する実践的解決法を習得できるように、「物理・材料理工学実験」、「社会体験学習」、「工場見学」、「卒業研究」などの実験・研修科目を3年次以降に配置している。

(興味・関心)

7. 専門科目で習得した知識や技能を材料開発や評価技術開発へ生かす応用力と創造力を育成するため、「特別研修」、「特別講義Ⅰ・Ⅱ」、「工場見学」を3年次以降に配置している。

(技能・表現)

8. 専門科目で学んだ知識を活用する実践能力や計算技能を習得できるように、「物理学実験」、「物理・材料理工学実験」、「プログラミング学」を配置している。
9. 科学技術英語の読解力と文章力、および、英語による表現法を習得できるように、科学英語科目を体系的に履修することを徹底している。

(態度)

10. 分野横断的な思考力および俯瞰的研究能力を身につけるため、1年次に「物理・材料理工学基礎演習」を配置するとともに、数理・物理コースのコース内専門科目を選択科目として履修可能としている。
11. 社会におけるマテリアル工学および材料科学の役割、および、技術者・研究者が負っている社会的責任について深く理解させるため、「ソフトパス理工学概論」、「技術者倫理」を配置している。

システム創成工学科

*教育目的

現在の工学分野は、電気、通信、情報、機械、社会基盤等を基礎としながら、各々の工学的要素や技術を複合・統合したシステムであり、より分野横断的な教育研究への取組が必要とされている。そのため本学科では、社会で要求される様々な工学システムの開発・設計・製造に関する次世代科学技術を創出できる技術者を育成することを目標に、工学に関する広範な基礎学力、及び社会貢献の基盤となる教養や人間性の習得、自主性や創造性の獲得、課題解決能力の養成、技術者としての国際性や倫理観の確立に重きを置いた教育を実施する。

*学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【電気電子通信コース】

電気電子通信コースの教育目的と修得能力に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身に

つけた学生に「学士（工学）」の学位を授与する。

（知識・理解）

1. 幅広い教養を備え、電気電子通信工学に関する基本的な原理、法則、理論を理解している。
（思考・判断）
2. 専門知識を実際の課題に結びつけて柔軟な思考ができ、創造的に応用することができる。
（技能・表現）
3. 電気・電子・通信に関する機器の動作原理を理解し、活用することができる。
4. 他人と議論や協力ができる論理的なコミュニケーション能力・語学力を身につけている。
（関心・意欲）
5. 科学技術の進展に高い関心を持ち、継続的・主体的に学習することができる。
（態度）
6. 社会における役割を理解し、環境や安全に対する倫理観を身につけている。

【知能・メディア情報コース】

知能・メディア情報コースの教育目的と修得能力に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士（工学）」の学位を授与する。

（知識・理解）

1. 幅広い教養と知能・メディア情報工学に関する基礎的な専門知識を身につけている。
（思考・判断）
2. 問題の本質を理解し、基礎的な課題に対して解決法を考える能力、および問題解決のための具体的な計画立案・遂行能力を身につけている。
3. 専門分野等の知識を活用してデータを分析ことができ、論理的な評価や考察を行える能力を身につけている。
（技能・表現）
4. 知能・メディア情報システムを構成するハードウェアやソフトウェアを開発するために必要な基礎的能力を幅広く身につけている。
5. 自らの思考・判断のプロセスや結果を論理的に表現する文章能力と、協創的課題解決のために他人に説明するコミュニケーション能力を身につけている。
6. 知能・メディア情報工学及びその関連分野に関する基礎的な英語能力を身につけている。
（興味・関心・態度）
7. 自然科学、地域課題、及び知能・メディア情報工学等の動向や進展に関心を持ち、主体的に学ぶための基礎的な能力を身につけている。
8. 社会における知能・メディア情報システムの役割を理解し、技術者として社会に貢献する基礎的な能力を身につけている。

【機械科学コース】

機械科学コースの教育目的と修得能力に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士（工学）」の学位を授与する。

（知識・理解）

1. 一般的な教養を身につけ、工学に関する幅広く基礎的な知識と、機械科学に関する専門的な知識及び技能を修得している。
（思考・判断）
2. 幅広く深い教養と総合的な判断力を身につけ、社会における科学技術者の在り方や社会への貢献について考察できる。
（技能・表現）
3. 機械科学分野の機器およびコンピュータを活用し、所望の機能を実現する基礎的な能力を身につけている。
4. 日本語と英語による論理的な表現力とコミュニケーション能力を身につけている。
（関心・意欲）
5. 機械科学の進展に関心を持ち、専門的な知識を応用しながら主体的に学習することができる。
（態度）

6. 社会における機械科学の役割を理解し、環境や安全に対する倫理観を身につけている。

【社会基盤・環境コース】

社会基盤・環境コースの教育目的と修得能力に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士（工学）」の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 数学・自然科学および情報技術に関する知識を習得し、多面的な視点から考えることのできる能力を身につけている。

2. 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけている。

(思考・判断)

3. 問題の本質を理解し、必要な情報を収集・分析して解決法を考える能力、および問題解決のための具体的なデザイン・計画を立て、遂行する能力を身につけている（デザイン能力）。

4. 自ら課題を発見・解決する能力および主体的・持続的に学習を行う能力を身につけている（課題発見能力、継続学習能力）。

(関心・意欲・態度)

5. 地球環境・地域環境を理解する能力および持続可能な循環社会構築のための技術を考える能力を身につけている。

6. 科学技術が社会や自然におよぼす影響を理解して、技術者としての社会的使命・責任を認識する能力を身につけている（倫理）。

(技能・表現)

7. 十分な語学力、および自国の文化・社会を学ぶとともに世界の多様な価値観を理解し、国際的に通用するコミュニケーション能力を身につけている。

8. 自分の意見や実験研究の内容・成果を論理的・客観的に表現する文章作成能力とプレゼンテーション能力を身につけている。

9. 他者と協力してチームで仕事をすることができる能力を身につけている（チームワーク力）。

*教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【電気電子通信コース】

電気電子通信コースでは、環境や人の暮らしに高い関心を持ちながら、効率化とクリーンエネルギー化が進む電気エネルギー技術、材料や微細化により高度化が進む電子デバイス技術、社会の隅々まで張り巡らされる通信・システム技術の基礎を修得し、これらの技術の発展に貢献できる人材を育成する教育研究を行う。

電気電子通信コースでは、コースの学位授与の方針を実現するために、以下の通り、カリキュラムを編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 科学技術が人間社会や自然環境に及ぼす影響を多面的に考えることができる素養を育み、豊かな人格形成に資するために教養教育科目の履修を義務付けている。さまざまな専門分野の根底を形成している普遍的な数理や、自然科学の基礎的知識を習得するために、低年次に数学、物理学、化学に関する専門基礎科目を配置している。

専門的となるコース科目では、電気回路、電磁気学、電子回路、計測・制御に関する科目群を基幹の必修科目としており、電気電子通信の分野を学ぶための基礎を築くことができるようにしている。また、数学と電気工学の橋渡しとして電気数学を設け、学び始めでつまづかないように配慮した構成としている。

3年次からは電子システム分野、電子デバイス分野、電気エネルギー分野の3分野において、より深く専門化した科目が用意され、難易度や前提となる予備知識に応じて、系統的に学ぶことができるように科目を配置している。

(思考・判断)

2. 講義で学んだ専門知識をベースとして、実社会と結びつけて課題を発見することができ、柔軟な思考により問題解決への道を探り創造的に応用することができる人材を育成するために、低年次には「電気電子工学ものづくり課題実習」、高年次には「電気電子工学専門研修」、「電気電子工学先端課題実習」、「卒業研究」を配置している。これらの科目ではPBLの手法が取り入れられている。
(技能・表現)
3. 電気・電子・通信に関する機器の動作原理や操作方法を理解し、活用することができるようにするため、「電気電子工学基礎実験」、「電気電子工学応用実験」、「プログラム言語及び演習」、「組込ソフトウェア実習」、「組込ハードウェア実習」、「電気設計製図」の実習科目を2～4年次に配置している。これらの実験・実習により、ハードウェアからソフトウェアまで幅広く体験的な学習をすることができるようにしている。
4. 4年次の「卒業研究」では自ら調べ、能動的に調査・実験・研究を行う。成果や結果を発表することや、レポートや論文にまとめる作業により、第三者に論理的に説明する表現能力を醸成する。また、グローバル社会で活躍するための英語能力を身につけるために、「電気電子工学英語研修Ⅰ」、「電気電子工学英語研修Ⅱ」、「国際研修」を配置している。
(関心・意欲)
5. 科学技術の進展に高い関心を持ち、継続的・主体的に学習することができるように、コース内の教員の研究を紹介する「電気電子工学特別講義」や、会社経営者や外部研究者を招聘する「電気電子工学専門研修」を開講している。さらに、インターンシップ等を行う「社会体験学習」も設置している。
(態度)
6. 社会における役割を理解し、環境や安全に対する倫理観を身につけるために、1年次の教養科目で実施する「基礎ゼミナール」で基礎的な教育を行い、学部内共通科目には「技術者倫理」を配置している。また、企業や自治体における電気電子通信工学の関わり合いを学ぶために「社会体験学習」や「工業経営管理論」等の科目も配置している。

【知能・メディア情報コース】

知能・メディア情報コースでは、安心・安全で豊かな生活環境を支えるための高度で多様な情報システムを構築できる人材の育成を目標としている。このため、コンピュータの基礎理論から知能情報工学、メディア情報工学に至るまでの広範な教育課程を以下のように編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

- (知識・理解)
1. 幅広い教養と知能・メディア情報工学に関する基礎的な専門知識を身につけるために、教養教育科目や数学・理科に関する専門基礎科目を1, 2年次に多く配置している。
(思考・判断)
2. 問題の本質を理解し、基礎的な課題に対して解決法を考える能力、および問題解決のための具体的な計画立案・遂行能力を身につけるために、コース内共通科目としてプログラミングに関する基礎的な演習科目や数理計画法などの講義科目を2, 3年次で履修できるように配置している。
3. 専門分野等の知識を活用してデータを分析することができ、論理的な評価や考察を行える能力を身につけるために、コース内共通科目としてハードウェア実験やネットワーク実験などの実験科目、データ解析やデータベースなどの講義科目を2～4年次で履修できるように配置している。
(技能・表現)
4. 知能・メディア情報システムを構成するハードウェアやソフトウェアを開発するために必要な基礎的能力を幅広く身につけるために、コース内共通科目では1年次後期から4年次前期までの全学期に渡り多くの演習科目を系統的に履修できるように配置している。また、知能情報工学・メディア情報工学に関するより高い専門性を学ぶための科目として、ロボティクス、人工知能、コンピュータグラフィックス、メディアシステムなどの講義科目を3年次で履修できるように配置している。
5. 自らの思考・判断のプロセスや結果を論理的に表現する文章能力と、協創的課題解決のために他人に説明するコミュニケーション能力を身につけるために、創造プロジェクトやシステム創成プロジェクトなどのPBL科目、キャリアセミナーなどの実習科目を配置している。
6. 知能・メディア情報工学及びその関連分野に関する基礎的な英語能力を身につけるために、教養

教育科目の外国語（英語，英語以外）やコース専門科目の実用英語セミナーなどを配置している。
（関心・意欲・態度）

7. 自然科学，地域課題，及び知能・メディア情報工学等の動向や進展に関心を持ち，主体的に学ぶための基礎的な能力を身につけるために，教養教育科目の履修を必修としている。
8. 社会における知能・メディア情報システムの役割を理解し，技術者として社会に貢献する基礎的な能力を身につけるために，学部共通科目のソフトパス理工学概論を必修とし，コース内共通科目として情報工学特別講義などの講義科目を配置している。

【機械科学コース】

機械科学コースでは，学位授与の方針に基づき，学習の系統性に配慮しながら教育課程を編成し，これに従って教育している。学位授与方針の各項目と対応する科目を以下に示す。

なお，教育課程を編成している各科目の評価に関しては，別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

（知識・理解）

1. 文化，社会，自然，環境等に関する幅広い知識を身につけ，多様な価値観等に触れさせるために，教養教育科目の履修を必修としている。

機械科学に関する基礎的な専門知識を身につけるために，専門基礎科目に数学や物理に関する基礎科目，コース内共通科目に機械科学の基礎的な講義科目や実習を低年次に配置している。

機械科学に関する応用分野の知識を身につけるために，航空宇宙とロボット分野のものづくりに関連する「航空宇宙分野」と「バイオ・ロボティクス分野」，融合的なものづくりに関連する「システムデザイン分野」の3つの教育研究分野を設置し，各分野に関する知識，ならびにその知識を応用する能力を修得できるようにコース内専門科目を配置し，基礎から応用までを系統的に履修できるようにしている。

（思考・判断）

2. 幅広く深い教養と総合的な判断力を身につけ，社会における科学技術者の在り方や社会への貢献について考察できる能力を身につけるため，低年次には「初年次機械ゼミナール」，高年次には「機械科学研修Ⅰ・Ⅱ」，「機械科学特別講義Ⅰ」，「技術者倫理」，「卒業研究」等を配置している。

（技能・表現）

3. 機械科学分野の機器およびコンピュータを活用し，所望の機能を実現する基礎的な能力を身につけるために，「機械工作実習」，「FORTRAN実習」，「C言語実習」，「機械科学実験」等の実習科目を1，2，3年次に履修できるよう配置している。3年次の「機械科学研修Ⅰ」では与えられたテーマを通して課題解決を学び，4年次の「卒業研究」では学んだ知識を応用して研究成果をまとめるというように，4年間を通してアクティブラーニングを実施する。

4. 専門分野の英語で書かれた基礎的な文献を理解できる英語能力を身につけるために，「工業英語」，「機械科学研修Ⅱ」を配置している。

（興味・関心）

5. 機械科学の進展に関心を持ち，専門的知識を応用しながら主体的に学習をするために，「機械科学特別講義Ⅰ」，「機械科学研修Ⅰ・Ⅱ」，「卒業研究」の科目を配置している。

（態度）

6. 社会における機械科学の役割を理解し，環境や安全に対する倫理観を身につけるために，学部内共通科目に「技術者倫理」を配置し，実社会での専門家のあり方を体験させるために，「社会体験学習」や「工業経営管理論」等の科目を配置している。

【社会基盤・環境コース】

社会基盤・環境コースでは「安全・安心な社会の構築」と「人と環境に優しい持続可能な社会の創出」を教育理念に，建設に関する広範な専門基礎学力と建設工学・環境工学・防災工学に関する様々な課題や問題に対する解決能力を備えた専門技術者を育成する。具体的には，建設工学，環境工学，防災工学の基礎と幅広い教養を身につけ，問題発見・解決能力を持ち，次世代の科学技術の創生と発展を担うことができる人材，および，建設工学，環境工学，防災工学の専門性を高めながら，社会基盤・環境工学分野を支え，地域復興のために貢献できる人材，より高い専門性が求められる同分野で活躍できる人材を育成することを目指している。

このような観点から、社会基盤・環境コースでは、コースの学位授与の方針を実現するために、以下の通りカリキュラムを編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 数学・自然科学および情報技術に関する知識を習得し、多面的な視点から考えることのできる能力を修得できるように「基礎数学」「微分積分学I」などの専門基礎科目を必修としている。
2. 社会基盤・環境工学の建設工学，環境工学，防災工学の各専門技術に関する知識，ならびにその知識を応用する能力を修得できるように体系的な履修を徹底する。

(思考・判断)

3. 問題の本質を理解し、必要な情報を収集・分析して解決法を考え、問題解決のための具体的なデザイン・計画を立て、遂行する能力を修得できるように地域創生課題演習 I，測量学実習 I,II，卒業研究等を必修としている。
4. 自ら課題を発見・解決しようとする問題意識をもち、主体的・持続的に学習を行う能力を修得できるように地域創生課題演習 I，測量学実習 I,II，卒業研究等を必修としている。

(関心・意欲・態度)

5. 地球環境・地域環境について深く理解し、環境と調和した持続可能な循環社会の構築のための技術を考える能力と素養を修得できるように教養科目の環境科目，および「環境工学」等の専門教育科目の体系的な履修を徹底する。
6. 科学技術が社会や自然におよぼす影響を理解して、技術者としての社会的使命・責任を認識できるように「技術者倫理」を必修としている。

(技能・表現)

7. 十分な語学力を身に付け、自国の文化・社会を学ぶとともに世界の多様な価値観を理解し、国際的に通用するコミュニケーション能力を修得できるように教養科目，語学科目，専門教育科目の科学技術英語 I,IIを必修としている。
8. 自分の意見や実験研究の内容・成果を論理的・客観的に表現する文章作成能力とプレゼンテーション能力を修得できるように地域創生課題演習 I，科学技術英語 II，卒業研究等を必修としている。
9. 他者と協力してチームで仕事をする能力を修得できるように地域創生課題演習 I，測量学実習 Iを必修としている。

＜特別プログラム＞

特別プログラムとは、通常の教育プログラムに加えて、さらに高度な専門性や国際性、課題解決能力を身につけることを目的としたプログラムであり、「先端理工学特別プログラム」「地域創生特別プログラム＜ものづくり系＞」「防災・まちづくり系」の3つがある。

先端理工学特別プログラム

* 教育目的

先端理工学特別プログラムは、所属するコースの教育課程を通じてコースとしての教養及び専門性を修得するとともに、専門分野でのより卓越した知識・技能、高い素養とリーダーシップを持って地域／日本／世界で幅広く活躍する人材の育成を目的とする。

* 修得すべき能力

先端理工学特別プログラムでは、その教育プログラムを通して学生が以下の能力を修得することを旨とする。

- (1) 専攻分野における高度な知識と技能を兼ね備えた上で、自ら課題を発見しその解決方法を自ら提案し、それを遂行できる独創性・実行力
- (2) 周囲と協力しながら課題解決にあたる協調性、多様な価値観を受け入れる寛容性、そこから最善の方策を示すことができる判断力
- (3) 十分なコミュニケーション及びインタープリテーション能力を備え、周囲のリソースが持つポテンシャルを十分に引き出せる能力
- (4) 専攻分野のみにとらわれず、グローバルな視野に立って物事の価値をとらえる柔軟性を持ち、客観的なものの見方ができる能力
- (5) 日本や地域の未来を支える中心となる国際性、リーダーシップ

地域創生特別プログラム＜ものづくり系＞

* 教育目的

地域創生特別プログラム＜ものづくり系＞は、所属するコースの教育課程を通じてコースとしての教養及び専門性を修得するとともに、地域産業の活性化に資するリーダー的専門技術者及び地域企業に独自技術の芽を吹かせる力を持った人材の育成を目的とする。

* 修得すべき能力

地域創生特別プログラム＜ものづくり系＞では、その教育プログラムを通して、学生が以下の能力を修得することを旨とする。

- (1) 地域課題を理解し、地域を活性化しようという意欲
- (2) 専門分野の知識及びものづくりに関連する幅広い実践技術を身につけ、問題を着実に解決しながら独自技術を開発していく能力
- (3) プロジェクトを推進するにあたって必要な協調性、コミュニケーション能力、プロジェクトリーダーに求められる豊かな人間性と倫理観

地域創生特別プログラム＜防災・まちづくり系＞

* 教育目的

地域創生特別プログラム＜防災・まちづくり系＞は、所属する社会基盤・環境コースの教養及び専

門性を修得するとともに、東日本大震災からの復興や今後想定される災害への備えに貢献し、地域における防災・まちづくりのリーダーとなる人材の育成を目的とする。

*** 修得すべき能力**

地域創生特別プログラム<防災・まちづくり系>では、その教育プログラムを通して、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 建設工学，環境工学，防災工学の基礎と幅広い教養を身につけ，問題発見・解決能力を持ち，次世代の科学技術の創生と発展を担うことができる能力
- (2) 地域防災・まちづくりの専門性を高めながら，地域防災・復興のために貢献できる能力
- (3) 復興からの学びをとおして，「くらしの再建」や「なりわいの再生」を含む総合的な視野と地域創生のためのマネジメント能力

1. 岩手大学理工学部教育課程規則

(趣旨)

第1条 岩手大学理工学部（以下「本学部」という。）の教育課程に関する事項は、国立大学法人岩手大学学則（以下「学則」という。）に定めるもののほか、この規則による。

2 学則及びこの規則に特別の定めのある場合を除き、教育課程に関する事項は、教授会が別に定める。

(目的)

第2条 本学部は、幅広い教養と豊かな人間性を基礎として理工学分野における基礎学力と専門的な知識と技術を有し、自然科学の様々な現象を根源的かつ包括的に捉えながら人間社会と自然環境の共生を図りつつ理工学分野の多様な課題の解決に取り組むことを通して地域社会と国際社会の持続的発展に貢献できる人材の養成を目的とする。

(学科)

第3条 本学部は別表1のとおり学科とコースを置く。

(教育課程)

第4条 本学部の教育課程は、教養教育及び専門教育からなる。

(教養教育の授業科目等)

第5条 教養教育における授業科目、単位数及び履修方法等については、岩手大学教養教育規則の定めるところによる。

(専門教育の科目)

第6条 専門教育においては、別表2に掲げる単位数以上を修得しなければならない。

2 科目は、必修科目及び選択科目からなり、講義、演習、実験、実習、製図、卒業研究等による。

3 科目の種類及び単位数は、別表3による。

4 科目の必修と選択の別は、別に定める。

(履修の方法)

第7条 履修の順序及びその他細部については、各コースにおいて定める。

(他コース、他学科、他学部、いわて5大学等の科目の履修)

第8条 学生は、他コース、他学科、他学部、いわて5大学の授業科目、国際教育科目及び海外協定大学の科目を履修することができる。ただし、設備及び収容人員等の関係で制限されることがある。

2 前項の規定により取得した単位は、10単位の範囲内で別表2の選択科目の単位として認めることができる。

(科目等の公示)

第9条 各学期に開講する科目、授業時間及び担当教員は、学期の初めに公示する。

(履修科目の届出)

第10条 学生は、各学期の所定の期日までに履修しようとする科目を学部長及び担当教員に届け出なければならない。

2 前項の届出の後、特別の場合を除き科目を変えることはできない。

3 学生は、所定の手続を経て、他コース、他学科、他学部又はいわて5大学の科目履修を願い出ることができる。

4 他コース，他学科，他学部又はいわて5大学の学生が本学部の科目の履修を願い出たときは，許可することがある。

(いわて5大学以外の他の大学又は短期大学の科目の履修等)

第11条 本学部が教育上有益と認めるときは，いわて5大学以外の他の大学又は短期大学との協議に基づき，学生に当該大学又は短期大学の科目を履修させることができる。

2 学生は，他の大学又は短期大学の科目を履修しようとするときは，学部長の許可を得なければならない。

3 第1項の規定及びいわて5大学で修得した単位は，60単位を超えない範囲で，本学部において修得したものとみなすことができる。

4 前各項に関して必要な事項は，別に定める。

(留学)

第12条 本学部が教育上有益と認めるときは，外国の大学又は短期大学に留学することを許可することができる。

2 学生は，外国の大学又は短期大学に留学しようとするときは，学部長を経て，学長の許可を得なければならない。

3 外国の大学又は短期大学における履修等については第10条を準用する。

(試験)

第13条 定期試験は，各学期末に行う。ただし，科目によっては，その他適当な時期に行うことができる。

(特別聴講学生)

第14条 他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）の学生で本学部の科目を履修しようとする者があるときは，当該大学又は短期大学との協議に基づき，特別聴講学生として受け入れることがある。

2 前項に関して必要な事項は，別に定める。

(卒業認定)

第15条 本学部 に 所定の期間在学し，所定の科目を履修し必要単位を修得した場合は，卒業を認める。

2 卒業の要件として学部の定める単位を特に優秀な成績をもって修得したと認められる場合は，岩手大学における在学期間の特例に関する規則の定めるところにより，3年以上の在学で卒業を認める。

3 前項に関して必要な事項は，別に定める。

4 第1項及び第2項の卒業の認定は，教授会の議を経て学長が行う。

附 則 (省略)

別表1 (第3条関係)

学科とコース (省略)

別表2 (第6条第1項関係)

修得すべき単位数 (省略)

別表3 (第6条第3項関係)

科目の種類及び単位数 (省略)

2. 理工学部専門教育課程

理工学部専門教育課程の履修は、次ページ以降に示す各コース課程表の順序によらなければならない。下記の表に掲げる基準の単位数以上を4ヶ年で有効適切に修得しなければならない。

3年次課程では専門の必修科目が大半を占めており、各コース専門教育課程表以外の単位数修得は困難であるから、3年次課程に入る時には2年次課程までの科目を修得していることが必要である。

4年次課程又は卒業研究に入るためには、コースごとに別に定める基準による。

コース専門教育課程表によることができない場合は、担任又は教務担当教員に相談の上、その指導を受けなければならない。

(1) 卒業要件単位数

学 科		化学・生命理工学科		物理・材料理工学科		システム創成工学科			
		化 学 コ ー ス	生 命 コ ー ス	数 理 ・ 物 理 コ ー ス	マ テ リ ア ル コ ー ス	電 気 電 子 通 信 コ ー ス	知 能 ・ メ デ イ ア 情 報 コ ー ス	機 械 科 学 コ ー ス	社 会 基 盤 ・ 環 境 コ ー ス
専門科目	必 修	67	64	60	62	65	66	67	64
	選 択	29	32	36	34	31	30	29	32
	計	96	96	96	96	96	96	96	96
教養教育科目		31	31	31	31	31	31	31	31
卒業要件単位数		127	127	127	127	127	127	127	127

(2) 各コース課程表 (V-17～V-40ページ)

化学・生命理工学科

「化学コース」

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考		
				1年次		2年次		3年次		4年次				
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期
専門 基礎科目	基礎数学	1		○										
	微分積分学Ⅰ	2		○										
	微分積分学Ⅱ	2			○									
	線形代数学	2			○									
	微分方程式		2			○								
	確率統計学		2			○								工
	物理学Ⅰ	2		○										物
	物理学Ⅱ	2			○									物
	化学Ⅰ	2		○										化
	化学Ⅱ	2		○										化
生物学	2		○										生	
化学コース 科目	無機反応化学	2				○								化
	物理化学Ⅱ	2					○							工
	有機化学Ⅱ	2				○								化
	有機化学Ⅲ	2					○							化
	基礎高分子化学	2				○								工
	高分子合成化学	2					○							工
	無機物質化学Ⅰ		2				○							化
	無機物質化学Ⅱ		2						○					化
	物性物理化学	2						○						化
	構造物理化学	2						○						化
	分析化学	2						○						工
	有機分子構築学	2							○					化
	有機分子構造学	2							○					化
	無機工業化学	2							○					工
	化学工学Ⅰ	2						○						工
	機器分析化学	2							○					工
	反応工学	2								○				工
	化学工学Ⅱ	2							○					工
	分子構造解析学	2						○						工
	高分子材料化学	2							○					工
	有機工業化学		2							○				工
	プログラミング言語入門		1							← ○ →				
	化学理工学情報Ⅰ	1									○			工
	化学理工学情報Ⅱ	1										○		
	化学理工学演習Ⅰ	1					○							工
	化学理工学演習Ⅱ	1						○						工
化学理工学実験Ⅰ	3							○					化実	
化学理工学実験Ⅱ	3								○				化実	
化学理工学研修	1									○			工	
卒業研究	6										○		[注1]	
学科内 共通科目	化学生命研修Ⅰ	1			○									工
	化学生命研修Ⅱ	1								○				工
	化学生命概論		2						○					工
	科学英語Ⅰ	1						○						
	科学英語Ⅱ	1							○					
	基礎分析化学	2				○								工
	無機構造化学	2				○								化
	基礎物理化学	2				○								工
物理化学Ⅰ	2				○								工	

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考		
				1年次		2年次		3年次		4年次				
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期
学科内 共通科目	有機化学 I	2			○								化	
	量子化学	2				○							化	
	基礎化学工学	2				○							工	
	有機分子解析学	2						○					化	
	生化学	2			○								生	
	神経科学概論	2				○							生	
	発生生物学	2					○						生	
	分子遺伝学	2			○								生	
医薬科学	2								○			生		
学部内 共通科目	ソフトパス理工学概論	1			○									
	原子力工学	2							← ○ (前期) →					
	技術者倫理	2									○			
	工業経営管理論	2							← ○ (前期) →					
	知的財産権概論	2							← ○ (前期) →					
	特許法特講	2							← ○ (前期) →					
	社会体験学習	1~2							← ★ →					
	国際研修	1~2					←		★			→		
	数理・データサイエンス基礎および演習	2					← ○ →							
AI基礎および演習	2					←		○			→			
高大 連携科目	理工学入門数学 I	* 2		○									[注2]	
	理工学入門数学 II	* 2		○									[注2]	
	理工学入門物理 I	* 2		○									[注2]	
	理工学入門物理 II	* 2		○									[注2]	
	理工学入門化学	* 2		○									[注2]	
	理工学入門生物学	* 2		○									[注2]	
卒業要件単位数		67	29											
合計必要単位数		96												

注意事項

[注1] 卒業研究に入るために取得していなければならない単位数は別の基準によります。詳細は担任教員に確認してください。

[注2] 理工学入門科目の単位 (*) は専門科目 (選択) の単位として認定されますが、卒業要件単位数ならびに卒業研究配属要件単位数には含まれません。

補足事項

- [1] このコース課程は、実施面で多少変更することがあります。
- [2] 履修年次欄の○印は通常時間割科目、★印は集中講義での実施を示します。(○印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。)
- [3] この表に記載されていない科目についても、教職科目以外の他コース、他学科、他学部、いわて高等教育コンソーシアムの授業科目、国際教育科目及び海外協定大学で取得した単位は、10単位を上限として卒業に必要な選択単位として認めることができます。ただし、その単位がコース内の専門科目として認められるかどうかの事前審査を別途行います。よって、履修申告前に教務委員に相談し所定の手続をとることを条件とします。
- [4] 工場見学を3年次の適当な時期に実施します。
- [5] 卒業生が受けられる国家試験・資格試験等には、次のようなものがあります。
 - (1) 技術士 (一次試験合格後、実務経験4年で受験資格)
 - (2) 火薬類保安責任者 (「一般教養科目」と「火薬類製造工場に必要な機械工学および電気工学大要」の試験免除)
 - (3) 危険物取扱者甲種 (甲種受験資格)
 - (4) 毒物劇物取扱責任者 (卒業証明書を添えて届出)
 - (5) 作業環境測定士1種・2種 (卒業後労働衛生の実務経験1年以上で受験資格)
 - (6) 公害防止管理者 (資格認定講習受講により取得する場合は、本学科を卒業後実務経験が必要。国家試験による場合は受験資格不問)
 - (7) 廃棄物処理施設技術管理者 (実務経験2年以上で有資格者)
 - (8) ボイラー・タービン主任技術者 (第1種は10年以上、第2種は5年以上の実務経験を積んだうえで申請・交付)
 - (9) 冷凍空調技士第一種 (卒業後2年以上の実務経験で受験資格)
 なお、詳細は、各資格試験実施機関のHPなどを参照してください。
- [6] 教員免許の取得については“Ⅷ 教育職員免許状・各種資格の取得方法”を参照してください。なお、教科に関する科目の区分は備考欄に示してあります。

化学・生命理工学科

「生命コース」

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考		
				1年次		2年次		3年次		4年次				
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期
専門 基礎科目	基礎数学	1		○										
	微分積分学Ⅰ	2		○										
	微分積分学Ⅱ	2			○									
	線形代数学	2			○									
	微分方程式		2			○								
	確率統計学	2				○								工
	物理学Ⅰ	2		○										物
	物理学Ⅱ	2			○									物
	化学Ⅰ	2		○										化
	化学Ⅱ	2		○										化
化学実験	1					○							化実	
生物学	2		○										生	
生命コース 科目	分子細胞生物学Ⅰ	2			○									生
	分子細胞生物学Ⅱ	2				○								生
	分子細胞生物学Ⅲ	2					○							生
	生理学	2				○								生
	組織形態学	2					○							生
	生命情報学	2					○							工
	ブレインサイエンス		2						○					生
	バイオテクノロジー	2							○					工
	再生医療工学		2							○				工
	微生物学概論	2								○				
	栄養化学・栄養学		2								○			
	生命理工学演習Ⅰ	1				○								工
	生命理工学演習Ⅱ	1					○							工
	英語論文講読Ⅰ	2					○							
	英語論文講読Ⅱ	2							○					
	生命理工学実験Ⅰ	2							○					生実
	生命理工学実験Ⅱ	2								○				工
生命理工学情報Ⅰ	1									○			工	
生命理工学情報Ⅱ	1										○			
卒業研究	6										○			〔注1〕
学科内 共通科目	化学生命研修Ⅰ	1			○									工
	化学生命研修Ⅱ		1						←★→					工
	化学生命概論	2							★					工
	科学英語Ⅰ	1							○					
	科学英語Ⅱ	1								○				
	基礎分析化学	2				○								工
	無機構造化学	2			○									化
	基礎物理化学	2			○									工
	物理化学Ⅰ	2				○								工
	有機化学Ⅰ	2			○									化
量子化学	2				○								化	

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考		
				1年次		2年次		3年次		4年次				
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期
学科内 共通科目	基礎化学工学		2			○								工
	有機分子解析学		2					○						化
	生化学	2			○									生
	神経科学概論	2				○								生
	発生生物学	2					○							生
	分子遺伝学		2		○									生
医薬科	2								○				生	
学部内 共通科目	ソフトパス理工学概論	1			○									
	原子力工学	2							← ○ (前期) →					
	技術者倫理	2							○					
	工業経営管理論	2							← ○ (前期) →					
	知的財産権概論	2							○					
	特許法特講	2				○								
	社会体験学習	1~2							←★→					
	国際研修	1~2					←		★		→			
	数理・データサイエンス基礎および演習	2				○								
A I 基礎および演習	2							○						
高大 連携科目	理工学入門数学Ⅰ	* 2		○										[注2]
	理工学入門数学Ⅱ	* 2		○										[注2]
	理工学入門化学	* 2		○										[注2]
	理工学入門生物学	* 2		○										[注2]
	理工学入門物理Ⅰ	* 2		○										[注2]
	理工学入門物理Ⅱ	* 2		○										[注2]
卒業要件単位数	64	32												
合計必要単位数	96													

注意事項

〔注1〕 卒業研究に入るために取得していなければならない単位数は別の基準によります。詳細は担任教員に確認してください。

〔注2〕 理工学入門科目の単位 (*) は専門科目 (選択) の単位として認定されますが、卒業要件単位数には含まれません。

補足事項

- 〔1〕 このコース課程は、実施面で多少変更することがあります。
- 〔2〕 履修年次欄の○印は通常時間割科目、★印は集中講義での実施を示します。(○印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。)
- 〔3〕 この表に記載されていない科目についても、教職科目以外の他コース、他学科、他学部、いわて高等教育コンソーシアムの授業科目、国際教育科目及び海外協定大学で取得した単位は、10単位を上限として卒業に必要な選択単位として認めることができます。ただし、その単位がコース内の専門科目として認められるかどうかの事前審査を別途行います。よって、履修申告前に、科目担当教員に履修の許可を得ると共に、コース教務委員に相談し所定の手続をとることを条件とします。
- 〔4〕 卒業生が受けられる国家試験・資格試験等には、次のようなものがあります。
危険物取扱者甲種 (甲種受験資格)
なお、詳細は、資格試験実施機関のHPなどを参照してください。
- 〔5〕 教員免許の取得については“Ⅷ 教育職員免許状・各種資格の取得方法”を参照してください。なお、教科に関する科目の区分は備考欄に示してあります。

物理・材料理工学科
「数理・物理コース」

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考			
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期	
専門 基礎科目	基礎数学	1		○											代
	微分積分学Ⅰ	2		○											解
	微分積分学Ⅱ	2			○										解
	線形代数学	2			○										代
	微分方程式	2			○										解
	ベクトル解析	2				○									幾
	複素解析	○2					○								解
	確率統計学		2				○								確
	フーリエ解析	2					○								解
	物理学	2			○										物
	物理学実験	1					○								物実
	化学Ⅰ	2			○										化
	化学Ⅱ	2				○									化
	化学実験	1						○							化実
生物		2		○										生〔注1〕	
地		2						○						地〔注1〕	
数理・物理 コース科目	量子物理学Ⅱ	○2						○							物
	物理数学演習Ⅰ	1						○							幾
	物理数学演習Ⅱ	1							○						解
	粒子線計測学		2						○						物
	現代物理学Ⅰ		2						○						物
	現代物理学Ⅱ		2							○					物
	応用確率統計学		2					○							確
	応用微分方程式	○2					○								解
	複雑系科学		2						○						確
	ゲーム理論		2							○					解
	応用解析学		2								○				解
	幾何学Ⅰ		2					○							幾
幾何学Ⅱ		2						○						幾	
卒業研究	6											○		〔注2〕	
学科内 共通科目	物理・材料理工学基礎演習	1			○										
	設計製図	1			○										
	科学技術英語Ⅰ	1					○								
	科学技術英語Ⅱ	1						○							
	数値計算法	2						○							コ
	プログラミング学	2							○						コ
	物理・材料理工学実験Ⅰ	2						○							化実
	物理・材料理工学実験Ⅱ	2							○						物実
	専門英語セミナー	1									○				
	特別研修	1											○		
	特別講義Ⅰ		2						○						
	特別講義Ⅱ		2							○					
	工場見学		1							←○→					
	熱力学	2				○									物
	材料組織学Ⅰ	2						○							工
電気回路学		2						○						工	
電磁気学Ⅰ	2							○						物	
電磁気学Ⅱ	○2								○					物	

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考		
				1年次		2年次		3年次		4年次				
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期
学科内 共通科目	量子物理学Ⅰ	2					○							物
	統計物理学	2					○							物
	光学		2				○							物
	固体物理学	2						○						物
	電子物性学		2						○					物
	材料計測学		2						○					工
	誘電体材料学		2							○				工
	半導体理工学		2						○					工
	有機材料学		2							○				工
	磁性理工学		2						○					物
超伝導理工学		2							○				物	
ナノ理工学		2								○			物	
学部内 共通科目	ソフトパス理工学概論	1			○									
	原子力工学		2							← ○ (前期) →				
	技術者倫理		2									○		
	工業経営管理論		2							← ○ (前期) →				
	知的財産権概論		2							← ○ (前期) →				
	特許法特講		2							← ○ (前期) →				
	社会体験学習		1~2							←★→				
	国際研修		1~2							← ★ →				
数理・データサイエンス基礎および演習		2							← ○ →					
A I 基礎および演習		2							← ○ →					
高大 連携科目	理工学入門数学Ⅰ		* 2	○										[注3]
	理工学入門数学Ⅱ		* 2	○										[注3]
	理工学入門物理Ⅰ		* 2	○										[注3]
	理工学入門物理Ⅱ		* 2	○										[注3]
	理工学入門化学		* 2	○										[注3]
	理工学入門生物学		* 2	○										[注3]
卒業要件単位数		60	36											
合計必要単位数			96											

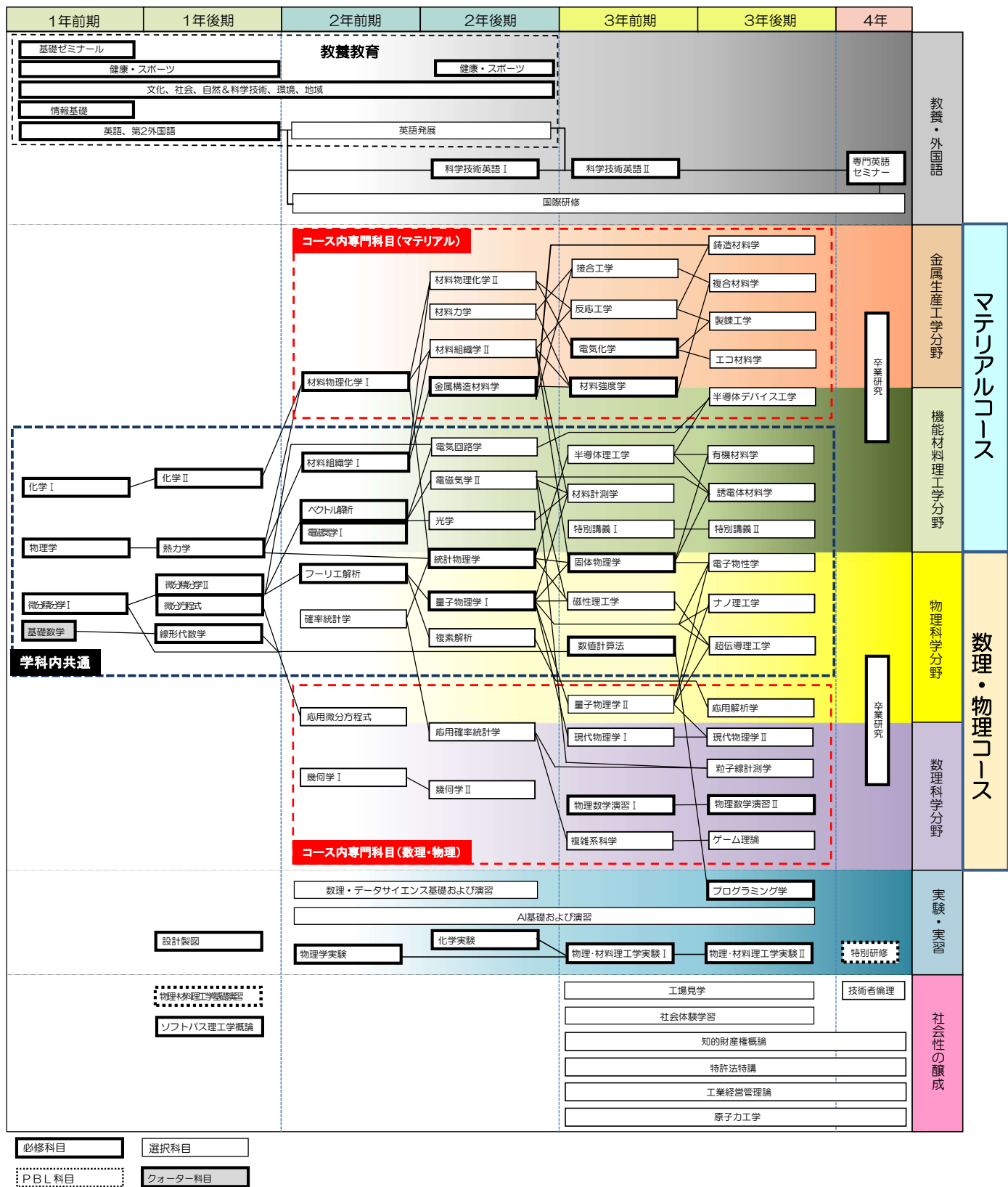
注意事項

- [注1] 教員免許（理科）取得希望者は必ず受講してください。
- [注2] 卒業研究に入るために取得していなければならない単位数は別の基準によります。詳細は担任教員に確認してください。
- [注3] 理工学入門科目の単位（*）は専門科目（選択）の単位として認定されますが、卒業要件単位数には含まれません。
- [注4] 単位数欄の（○）はコース内選択必修科目です。必ず2科目（4単位）以上修得してください。

補足事項

- [1] このコース課程は、実施面で多少変更することがあります。
- [2] 履修年次欄の○印は通常時間割科目、★印は集中講義での実施を示します。（○印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。）
- [3] この表に記載されていない科目についても、教職科目以外の他コース、他学科、他学部、いわて高等教育コンソーシアムの授業科目、国際教育科目及び海外協定大学で取得した単位は、10単位を上限として卒業に必要な選択単位として認めることができます。ただし、その単位がコース内の専門科目として認められるかどうかの事前審査を別途行います。よって、履修申告前に教務委員に相談し所定の手続をとることを条件とします。
- [4] 卒業生が受けられる国家試験・資格試験には、次のようなものがあります。
- (1)危険物取扱者甲種（受験資格）
- (2)測量士補（申請取得）
- なお、受験資格を得るには、関連科目の単位を一定基準以上取得する必要があります。詳細は担任に確認してください。
- [5] 教員免許の取得については“Ⅷ 教育職員免許状・各種資格の取得方法”を参照してください。なお、教科に関する科目の区分は備考欄に示してあります。

物理・材料理工学科 カリキュラムマップ



物理・材料理工学科
「マテリアルコース」

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考			
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期	
専門 基礎科目	基礎数学	1		○											代
	微分積分学Ⅰ	2		○											解
	微分積分学Ⅱ	2			○										解
	線形代数学	2			○										代
	微分方程式	2			○										解
	ベクトル解析	2				○									幾
	複素解析		2				○								解
	確率統計学		2				○								確
	フーリエ解析	2					○								解
	物理学	2			○										物
	物理学実験	1					○								物実
	化学Ⅰ	2			○										化
	化学Ⅱ	2				○									化
	化学実験	1						○							化実
生物		2		○										生〔注1〕	
地		2					○							地〔注1〕	
マテリアル コース科目	材料力学		2					○							工
	材料物理化学Ⅰ	2					○								化
	材料物理化学Ⅱ		2					○							工
	材料組織学Ⅱ		2					○							工
	金属構造材料学	2						○							工
	材料強度学	2							○						工
	電気化学	2							○						化
	半導体デバイス工学		2							○					工
	エコー材料学		2							○					工
	接合工学		2						○						工
	反応工学		2						○						工
	製錬工学		2							○					工
	鑄造材料学		2							○					工
複合材料学		2							○					工	
卒業研究	6										○			〔注2〕	
学科内 共通科目	物理・材料理工学基礎演習	1			○										
	設計製図	1			○										
	科学技術英語Ⅰ	1					○								
	科学技術英語Ⅱ	1						○							
	数値計算法	2						○							コ
	プログラミング学	2							○						コ
	物理・材料理工学実験Ⅰ	2						○							化実
	物理・材料理工学実験Ⅱ	2							○						物実
	専門英語セミナー	1									○				
	特別研修	1											○		
	特別講義Ⅰ		2						○						
	特別講義Ⅱ		2							○					
	工場見学		1							←○→					
	熱力学	2				○									物
材料組織学Ⅰ	2						○							工	
電気回路学		2						○						工	

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考	
				1年次		2年次		3年次		4年次			
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期
学科内 共通科目	電磁気学Ⅰ	2				○							物
	電磁気学Ⅱ		2				○						物
	量子物理学Ⅰ	2				○							物
	統計物理学	2				○							物
	光学		2			○							物
	固体物理学	2						○					物
	電子物性学		2						○				物
	材料計測学	2							○				工
	誘電体材料学	2							○				工
	半導体理工学	2							○				工
	有機材料学	2							○				工
	磁性理工学	2							○				物
超伝導理工学	2								○			物	
ナノ理工学	2								○			物	
学部内 共通科目	ソフトパス理工学概論	1			○								
	原子力工学	2							← ○ (前期) →				
	技術者倫理	2									○		
	工業経営管理論	2							← ○ (前期) →				
	知的財産権概論	2							← ○ (前期) →				
	特許法特講	2							← ○ (前期) →				
	社会体験学習	1~2							←★→				
	国際研修	1~2						←	★	→			
数理・データサイエンス基礎および演習	2					← ○ →							
A I 基礎および演習	2					← ○ →							
高大 連携科目	理工学入門数学Ⅰ	* 2		○									[注3]
	理工学入門数学Ⅱ	* 2		○									[注3]
	理工学入門物理Ⅰ	* 2		○									[注3]
	理工学入門物理Ⅱ	* 2		○									[注3]
	理工学入門化学	* 2		○									[注3]
	理工学入門生物学	* 2		○									[注3]
卒業要件単位数	62	34											
合計必要単位数	96												

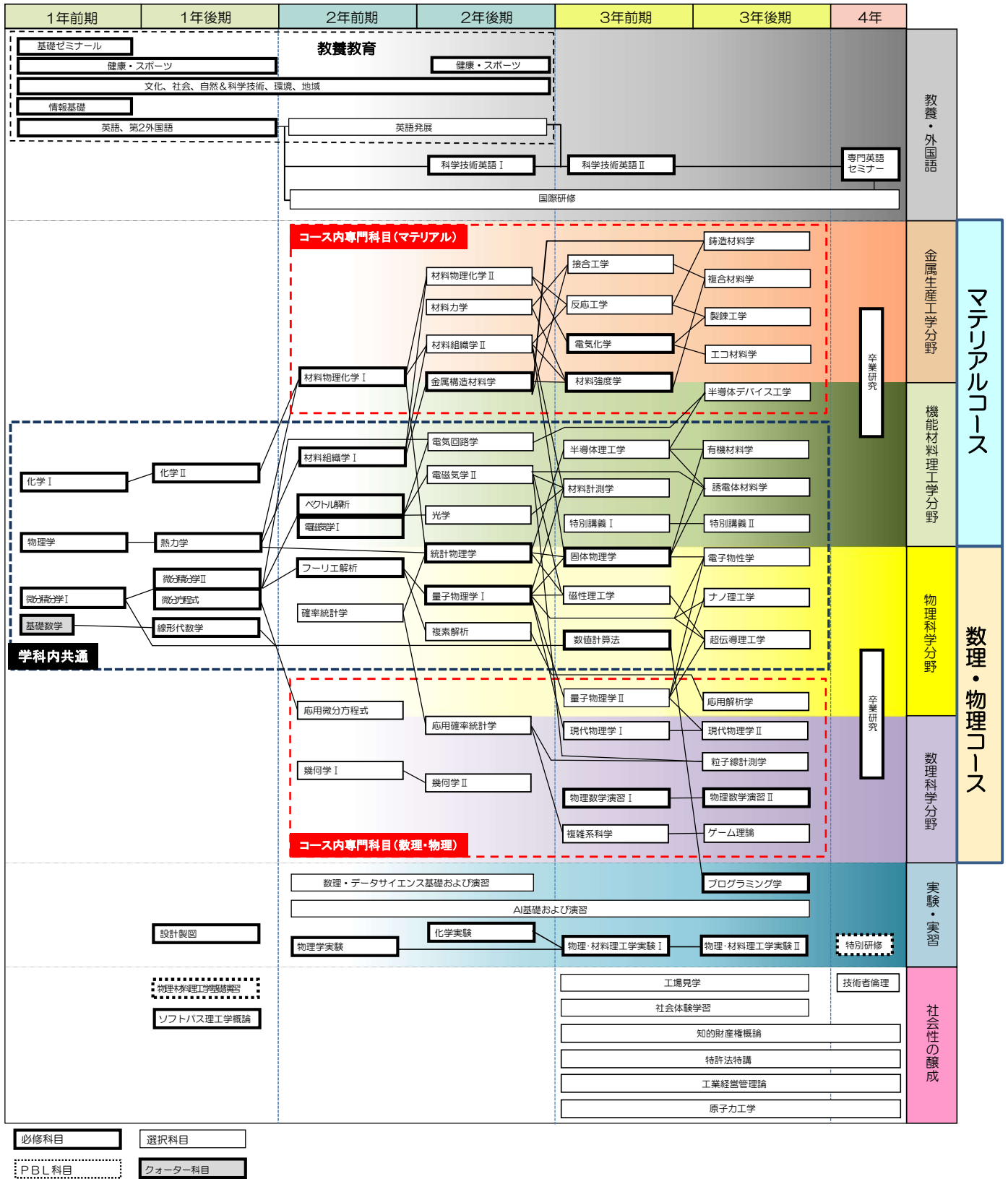
注意事項

- [注1] 教員免許（理科）取得希望者は必ず受講してください。
- [注2] 卒業研究に入るために取得していなければならない単位数は別の基準によります。詳細は担任教員に確認してください。
- [注3] 理工学入門科目の単位（*）は専門科目（選択）の単位として認定されますが、卒業要件単位数には含まれません。

補足事項

- [1] このコース課程は、実施面で多少変更することがあります。
- [2] 履修年次欄の○印は通常時間割科目、★印は集中講義での実施を示します。（○印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。）
- [3] この表に記載されていない科目についても、教職科目以外の他コース、他学科、他学部、いわて高等教育コンソーシアムの授業科目、国際教育科目及び海外協定大学で取得した単位は、10単位を上限として卒業に必要な選択単位として認めることができます。ただし、その単位がコース内の専門科目として認められるかどうかの事前審査を別途行います。よって、履修申告前に教務委員に相談し所定の手続をとることを条件とします。
- [4] 卒業生が受けられる国家試験・資格試験には、次のようなものがあります。
危険物取扱者甲種（受験資格）
なお、受験資格を得るには、関連科目の単位を一定基準以上取得する必要があります。詳細は担任に確認してください。
- [5] 教員免許の取得については“Ⅷ 教育職員免許状・各種資格の取得方法”を参照してください。なお、教科に関する科目の区分は備考欄に示してあります。

物理・材料理工学科 カリキュラムマップ



必修科目
選択科目
PBL科目
クォーター科目

システム創成工学科
「電気電子通信コース」

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考				
				1年次		2年次		3年次		4年次						
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
専門 基礎科目	基礎数学	1		○											代	
	微分積分学Ⅰ	2		○											解	
	微分積分学Ⅱ	2			○										解	
	線形代数学	2			○										代	
	微分方程式	2			○										解	
	ベクトル解析	2				○									幾	
	複素解析	2	2			○									解	
	確率統計学	2				○									確	
	フーリエ解析	2					○								解	
	物理学Ⅰ	2		○											物	
物理学Ⅱ	2	2		○										物		
化学	2	2	○													
電気電子通 信 コース科目	電気数学	1		○											代	
	電気回路論Ⅱ	2				○									工	
	電気回路論Ⅲ	2					○								工	
	電磁気学Ⅰ	2				○									工	
	電磁気学Ⅱ	2					○								工	
	電磁波工学	2							○						工	
	デジタル電子回路	2							○							
	応用電子回路	2	2							○					工	
	電気電子計測学	2								○					工	
	情報通信理論	2	2								○					
	情報通信ネットワーク	2	2								○					
	通信システム	2	2									○			工	
	コンピュータ工学	2									○					
	制御システム工学	2									○				工	
	デジタル信号処理	2	2									○				
	電子材料物性学	2			○										工	
	電子デバイス工学Ⅰ	2	2			○									工	
	電子デバイス工学Ⅱ	2	2				○								工	
	半導体LSI工学	2	2							○					工	
	光エレクトロニクス	2	2								○				工	
	エネルギー変換工学	2						○							工	
	電気機器工学	2	2							○					工	
	発電工学	2	2								○				工	
	高電圧プラズマ工学	2	2									○			工	
	送配電工学	2	2									○			工	
	電気電子工学ものづくり課題実習	1			○											
	電気電子工学基礎実験	2										○				
	電気電子工学応用実験	2										○				
	プログラム言語及び演習	2						○								
	組込ソフトウェア実習	1										○			工	
	組込ハードウェア実習	1										○			工	
	電気電子工学英語研修Ⅰ	1						○								
	電気電子工学英語研修Ⅱ	1											○			
	電気電子工学専門研修	1	1									←○→				
電気電子工学特別講義	2	2										○		工		
電気電子工学先端課題実習	1											○				
電気設計製図	2	2										○		工		
電気法規	2	2										○				
電波法規	2	2											★			
卒業研究	6												○		[注1]	

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考				
				1年次		2年次		3年次		4年次						
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期		
学科内 共通科目	電気理論の基礎	2			○										工	
	電気回路論Ⅰ	2			○										工	
	アナログ電子回路	2				○									工	
	情報工学基礎		2	○											工	
	離散数学		2				○									
	論理回路		2				○								コ	
	材料力学Ⅰ		2				○									
	機械力学		2					○								
	機械設計学		2						○							
	測量学		2	○												工
構造力学Ⅰ		2				○									物	
環境工学		2				○										
学部内 共通科目	ソフトパス理工学概論	1			○											
	原子力工学		2							← ○ (前期) →						
	技術者倫理		2										○			
	工業経営管理論		2							← ○ (前期) →						
	知的財産権概論		2							← ○ (前期) →						
	特許法特講		2							← ○ (前期) →						
	社会体験学習		1~2							←★→						
	国際研修		1~2							← ★ →						
	数理・データサイエンス基礎および演習		2							← ○ →						
AI基礎および演習		2							← ○ →							
高大 連携科目	理工学入門数学Ⅰ		* 2	○											[注2]	
	理工学入門数学Ⅱ		* 2	○											[注2]	
	理工学入門物理Ⅰ		* 2	○											[注2]	
	理工学入門物理Ⅱ		* 2	○											[注2]	
	理工学入門化学		* 2	○											[注2]	
	理工学入門生物学		* 2	○											[注2]	
卒業要件単位数		65	31													
合計必要単位数		96														

注意事項

〔注1〕 卒業研究に入るためには、コースで定める別の基準を満たさなければなりません。この基準については、コースの掲示板に掲示しますので、確認しておいてください。

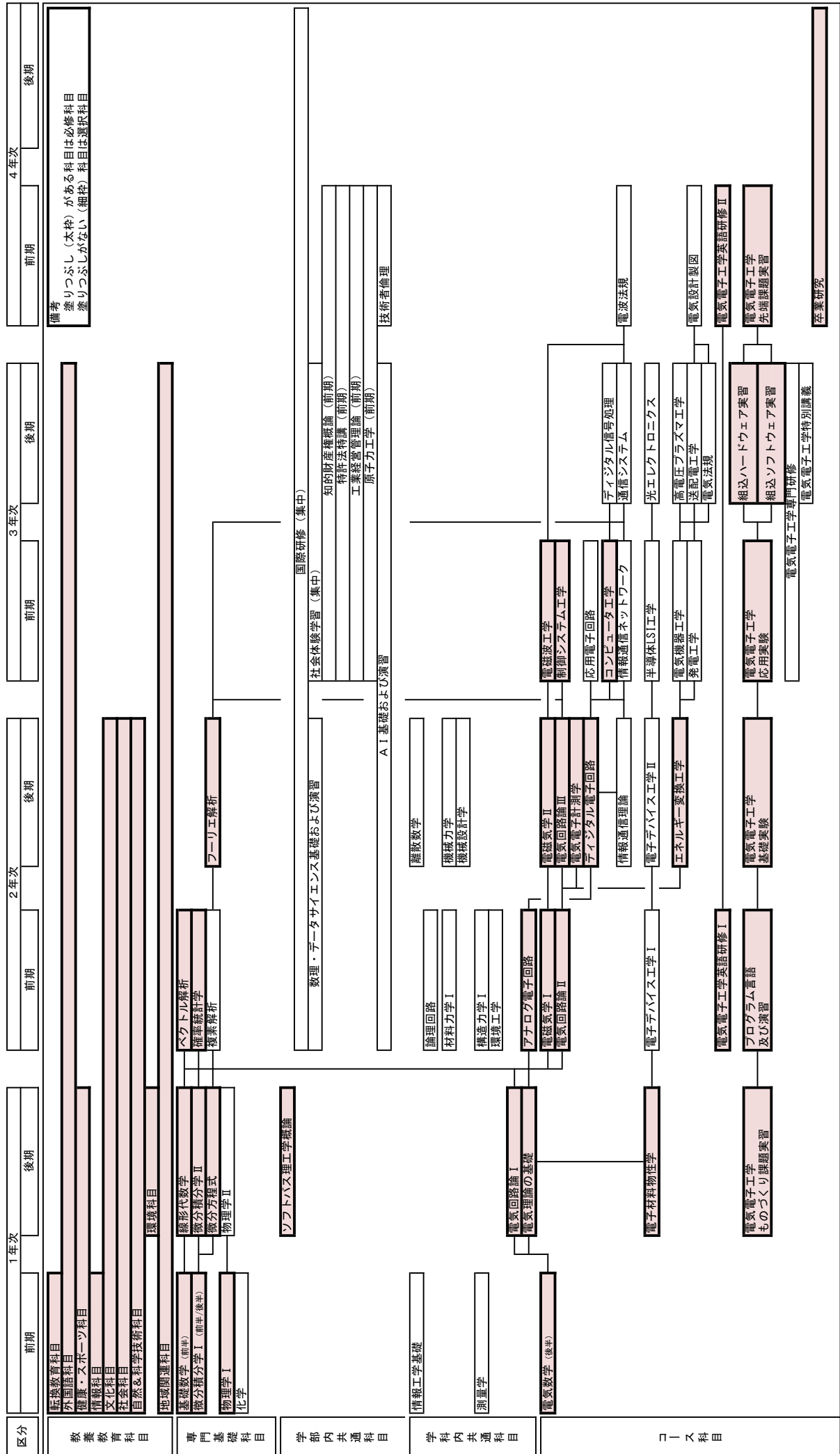
〔注2〕 理工学入門科目の単位(*)は専門科目(選択)の単位として認定されますが、卒業要件単位数には含まれません。

補足事項

- 〔1〕 このコース課程は、実施面で多少変更することがあります。
- 〔2〕 履修年次欄の○印は通常時間割科目、★印は集中講義での実施を示します。(○印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。)
- 〔3〕 この表に記載されていない科目についても、教職科目以外の他コース、他学科、他学部、いわて高等教育コンソーシアムの授業科目、国際教育科目及び海外協定大学で取得した単位は、10単位を上限として卒業に必要な選択単位として認めることができます。ただし、その科目がコースの科目と講義内容が重複する恐れがある場合、履修申告前に担任に相談してください。
- 〔4〕 工場見学を3年次の適当な時期に実施します。
- 〔5〕 本コース卒業生で申請により取得できる資格、又は受けられる国家試験・資格試験等には、次のようなものがあります。ただし、資格によって所要の単位を修得する必要があります。
 - (1) 電気主任技術者 (一定の実務経験で申請により取得)
 - (2) 電気通信主任技術者 (「電気通信システム」の試験を免除)
 - (3) 第一級陸上無線技術士 (「無線工学の基礎」の試験を免除)
 - (4) 第一級陸上特殊無線技士 (申請により取得)
 - (5) 第二級海上特殊無線技士 (申請により取得)
 - (6) 第二種電気工事士 (筆記試験を免除)

なお、詳細は、各資格試験実施機関のHPなどを参照してください。
- 〔6〕 教員免許の取得については“Ⅷ 教育職員免許状・各種資格の取得方法”を参照してください。なお、教科に関する科目の区分は備考欄に示してあります。

理工学部 システム創成学科 電気電子通信コース カリキュラムマップ



システム創成工学科
「知能・メディア情報コース」

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考			
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
専門 基礎科目	基礎数学	1		○											
	微分積分学Ⅰ	2		○											解
	微分積分学Ⅱ	2			○										解
	線形代数学Ⅰ	2			○										代
	線形代数学Ⅱ	2	2				○								代
	微分方程式	2	2		○										解
	ベクトル解析	6	2			○									幾
	複素解析	2	2			○									解
	フーリエ解析	2	2				○								解
	確率統計学	2	2			○									確
	物理学	4	2		○										
化学	4	2		○											
生物学	2	2	○											生	
知能・メ ディア情報 コース科目	信号処理	2	2					○							工
	画像処理とパターン認識	2	2						○						工
	人工知能	2	2					○							工
	ロボティクス	2	2					○							工
	コンピュータグラフィックス	2	2					○							コ
	メディアシステム	2	2					○							工
	ヒューマンインタフェース	2	2							○					工
	データ構造とアルゴリズム	2	2				○								
	数値計算	2	2				○								コ
	デジタル回路設計	2	2							○					工
	コンピュータアーキテクチャ	2	2						○						工
	コンピュータネットワーク	2	2						○						工
	オペレーティングシステム	2	2							○					工
	プログラミング言語入門	1	1		○										
	ソフトウェア構成論	2	2				○								工
	集積回路	2	2			○									
	データ解析	2	2				○								確
	デジタル通信	2	2				○								工
	形式言語とオートマトン	2	2					○							コ
	情報理論	2	2							○					工
	コンパイル	2	2							○					工
	数理計画法	2	2							○					工
	データベース	2	2								○				工
	キャリアセミナー	1	1						○						
	実用英語セミナー	1	1							○					
	情報工学特別講義	2	2						○						
	プログラミング言語及び演習Ⅰ	2	2			○									工
	プログラミング言語及び演習Ⅱ	2	2			○									工
	プログラミング言語及び演習Ⅲ	2	2							○					工
	ソフトウェア設計及び演習	2	2						○						工
	ハードウェア設計及び演習	2	2								○				工
	ハードウェア実験	1	1			○									工
	ネットワーク実験	1	1						○						工
情報工学専門実験	1	1								○					
創造プロジェクト	1	1		○											
システム創成プロジェクト	1	1							○						
卒業研究	6	6								○				[注1]	

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考			
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期	
学科内 共通科目	電気回路論 I		2		○										工
	アナログ電子回路		2				○								
	電気理論の基礎		2		○										
	情報工学基礎	2		○											工
	離散数学	2					○								
	論理回路	2					○								コ
	材料力学 I		2				○								
	機械力学		2					○							
	機械設計学		2					○							
	測量学		2	○											工
構造力学 I		2				○								物	
環境工学		2				○									
学部内 共通科目	ソフトパス理工学概論	1			○										
	原子力工学		2									○			
	技術者倫理		2									○			
	工業経営管理論		2									○			
	知的財産権概論		2							← ○ (前期) →					
	特許法特講		2							← ○ (前期) →					
	社会体験学習		1~2							←★→					
	国際研修		1~2							← ★ →					
数理・データサイエンス基礎および演習		2							← ○ →						
A I 基礎および演習		2							← ○ →						
高大 連携科目	理工学入門数学 I		* 2	○											[注2]
	理工学入門数学 II		* 2	○											[注2]
	理工学入門物理 I		* 2	○											[注2]
	理工学入門物理 II		* 2	○											[注2]
	理工学入門化学		* 2	○											[注2]
	理工学入門生物学		* 2	○											[注2]
卒業要件単位数		66	30												
合計必要単位数		96													

注意事項

〔注1〕 卒業研究に入るためには、コースで定める別の基準を満たさなければなりません。この基準については、コースの掲示板に掲示しますので、確認しておいてください。

〔注2〕 理工学入門科目の単位(*)は専門科目(選択)の単位として認定されますが、卒業要件単位数には含まれません。

補足事項

- 〔1〕 このコース課程は、実施面で多少変更することがあります。
- 〔2〕 履修年次欄の○印は通常時間割科目、★印は集中講義での実施を示します。(○印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。)
- 〔3〕 この表に記載されていない科目についても、教職科目以外の他コース、他学科、他学部、いわて高等教育コンソーシアムの授業科目、国際教育科目及び海外協定大学で取得した単位は、10単位を上限として卒業に必要な選択単位として認めることができます。ただし、その単位がコース内の専門科目として認められるかどうかの事前審査を別途行います。よって、履修申告前に担任に相談し所定の手続をとることを条件とします。
- 〔4〕 本コースに関連する国家試験・資格試験には、情報処理技術者試験(基本情報技術者、応用情報技術者等)、CG-ARTS検定(CGエンジニア、画像処理エンジニア等)などがあります。
- 〔5〕 教員免許の取得については“Ⅷ 教育職員免許状・各種資格の取得方法”を参照してください。なお、教科に関する科目の区分は備考欄に示してあります。

システム創成工学科 知能・メディア情報コース カリキュラムマップ

 必修科目
 選択必修
 選択科目

DP	ディプロマポリシーの内容	1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1	知能・メディア情報工学及びその関連分野に関する基礎的な知識を身につけている。	基礎数学 微分積分学Ⅰ	微分積分学Ⅱ 微分方程式 線形代数学Ⅰ 物理学 化学	複素解析 確率統計学 ベクトル解析	フーリエ解析 線形代数学Ⅱ 離散数学				
2	問題の本質を理解し、基礎的な課題に対して解決法を考える能力、および問題解決のための具体的な計画立案・実行能力を身につけている。			プログラミング実習Ⅰ プログラミング実習Ⅱ	データ構造とアルゴリズム		プログラミング言語及び演習Ⅲ 数理計画法		
3	専門分野等の知識を活用してデータを分析することができ、論理的な評価や考察を行える能力を身につけている。			ハードウェア実験 数値計算 データ解析	ネットワーク実験		情報工学専門実験 データベース 情報理論		
4	知能・メディア情報システムを構成するハードウェアやソフトウェアを開発するために必要な基礎的な能力を幅広く身につけている。	情報科目 情報工学基礎	プログラミング言語入門	論理回路 集積回路	ソフトウェア構成論 デジタル通信	ソフトウェア設計及び演習 コンピュータアーキテクチャ コンピュータネットワーク 形式言語とオートマトン 信号処理 人工知能 ロボティクス メディアシステム コンピュータグラフィックス	ハードウェア設計及び演習 デジタル回路設計 オペレーティングシステム コンパイラ 画像処理とパターン認識 ヒューマンインタフェース		
5	自らの思考・判断のプロセスや結果を論理的に表現する文章能力と、協力的課題解決のために他人に説明するコミュニケーション能力を身につけている。		創造プロジェクト			キャリアセミナー	システム創成プロジェクト		
6	知能・メディア情報工学及びその関連分野に関する基礎的な英語能力を身につけている。		外国語(技法知科)			国際研修	実用英語セミナー		
7	知能・メディア情報工学及びその関連分野の進展に関心を持ち、主体的に学ぶための基礎的な能力を身につけている。	基礎ゼミナール 健康・スポーツ科目		文化、社会、自然&科学技術科目			学部内共通科目		
8	社会における知能・メディア情報システムの役割を理解し、技術者として社会に貢献する基礎的な能力を身につけている。		ソフトバリエーション	環境科目(学問知科)		情報工学特別講義	社会体験学習		
上記1~8すべて								卒業研究	

システム創成工学科

「機械科学コース」

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考			
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
専門 基礎科目	基礎数学	1		○											代
	微分積分学Ⅰ	2		○											解
	微分積分学Ⅱ	2			○										解
	線形代数学	2			○										代
	微分方程式	2				○									解
	ベクトル解析	2				○									幾
	複素解析	2							○						解
	確率統計学	2								○					確
	フーリエ解析	2					○								解
	物理学Ⅰ	2		○											物
	物理学Ⅱ	2			○										物
	物理学実験	1				○									物実
化学	2		○												
機械科学 コース科目	機械工作実習	1		○											工
	初年次機械ゼミナール	1			○										
	機械基礎製図Ⅰ	1		○											工
	機械基礎製図Ⅱ	1				○									工
	CAD実習	1			○										工
	機械設計製図	1					○								工
	機械科学実験	1							○						
	材料力学演習	1				○									
	機械材料学	2				○									工
	水力学	2				○									工
	水力学演習	1				○									
	機械力学演習	1					○								
	熱力学	2					○								工
	熱力学演習	1					○								
	機械加工学	2					○								工
	制御工学	2							○						工
	FORTAN実習	1					○								
	C言語実習	1							○						
	機械科学特別講義Ⅰ	1							○						
	機械科学特別講義Ⅱ		1						○						
	工業英語	2								○					
	機械科学研修Ⅰ	1								○					
	機械科学研修Ⅱ	1									○				
	自動車工学概論	1	○												
	生産加工学	2				○									工
	材料力学Ⅱ	2					○								工
	伝熱工学	2							○						工
	燃焼工学	2							○						工
	環境とエネルギー	2								○					工
	トライボロジー	2									○				工
	ロボット工学概論	1	○												
	生体工学	2							○						工
	精密工学	2							○						工
システム制御工学	2								○					工	
計測工学	2								○					工	
ロボティクス工学	2									○				工	
航空宇宙工学概論	1		○												
粘性流体工学	2					○								工	
数値計算法	2						○							工	

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考			
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期	
機械科学 コース科目	固体力学		2									○			工
	基礎計算力学		2									○			代
	航空流体工学		2									○			工
	航空宇宙システム工学		2										○		工
	卒業研究	6											○		[注1]
学科内 共通科目	電気回路論Ⅰ		2		○										工
	アナログ電子回路		2				○								
	電気理論の基礎		2		○										
	情報工学基礎		2	○											工
	離散数学		2				○								
	論理回路		2				○								コ
	材料力学Ⅰ	2					○								工
	機械力学	2						○							工
	機械設計学	2							○						工
	測量学	2	○												工
構造力学Ⅰ	2					○								物	
環境工学	2					○									
学部内 共通科目	ソフトパス理工学概論	1			○										
	原子力工学	2							← ○ (前期) →						
	技術者倫理	2										○			
	工業経営管理論	2							← ○ (前期) →						
	知的財産権概論	2							← ○ (前期) →						
	特許法特講	2							← ○ (前期) →						
	社会体験学習	1~2							←★→						
	国際研修	1~2						←	★	→					
数理・データサイエンス基礎および演習	2					○									
A I 基礎および演習	2						○								
高大 連携科目	理工学入門数学Ⅰ	* 2	○												[注2]
	理工学入門数学Ⅱ	* 2	○												[注2]
	理工学入門物理Ⅰ	* 2	○												[注2]
	理工学入門物理Ⅱ	* 2	○												[注2]
	理工学入門化学	* 2	○												[注2]
	理工学入門生物学	* 2	○												[注2]
卒業要件単位数	67	29													
合計必要単位数		96													

注意事項

- [注1] 卒業研究に入るために取得していなければならない単位数は別の基準によります。詳細は担任教員に確認してください。
 [注2] 理工学入門科目の単位(*)は専門科目(選択)の単位として認定されますが、卒業要件単位数には含まれません。

補足事項

- [1] このコース課程は、実施面で多少変更することがあります。
 [2] 履修年次欄の○印は通常時間割科目、★印は集中講義での実施を示します。(○印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。)
 [3] この表に記載されていない科目についても、教職科目以外の他コース、他学科、他学部、いわて高等教育コンソーシアムの授業科目、国際教育科目及び海外協定大学で取得した単位は、10単位を上限として卒業に必要な選択単位として認めることができます。ただし、その単位がコース内の専門科目として認められるかどうかの事前審査を別途行います。よって、履修申告前に担任に相談し所定の手続をとることを条件とします。
 [4] 工場見学は適宜実施します。
 [5] 卒業生が受けられる国家試験・資格試験等には、次のようなものがあります。
 (1) ボイラー・タービン主任技術者(第2種) (卒業後に実務経験3年で申請資格を取得)
 (2) 自動車整備士(3級) (卒業後に実務経験6ヶ月で受験資格を取得)
 (3) 消防設備士 甲種(甲種特類を除く) (卒業で受験資格を取得)
 (4) 冷凍空調技士(第一種) (卒業後に実務経験2年で受験資格を取得)
 (5) 建設機械施工技士(2級) (卒業後に実務経験1年で受験資格を取得)
 なお、詳細は、各資格試験実施機関のHPなどを参照してください。
 [6] 教員免許の取得については「Ⅷ 教育職員免許状・各種資格の取得方法」を参照してください。なお、教科に関する科目の区分は備考欄に示してあります。

理工学部 システム創成工学科 機械科学コース カリキュラムマップ

区分	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育科目	転換教育科目							
	外国語科目							
	健康・スポーツ科目							
	情報科目							
	文化科目							
	社会科目							
	自然&科学技術科目							
	環境科目							
	地域関連科目							
	専門基礎科目	基礎数学		ベクトル解析		複素解析		確率統計学
微分積分学 I		微分方程式		フーリエ解析				
物理学 I		物理学実験						
化学								
学部内共通科目	国際研修 (集中)							
		A I 基礎および演習		社会体験学習 (集中)		技術者倫理		
		基礎および演習		知的財産権概論 (前期集中)				
				特許法特講 (前期集中)				
				原子力工学 (前期集中)				
				工業経営理論 (前期集中)				
学科内共通科目			材料力学 I		機械設計学			
			材料力学 II		機械力学			
			電気回路論 I		アナログ電子回路			
			電気理論の基礎					
	情報工学基礎				離散数学			
					論理回路			
	測量学				構造力学 I			
					環境工学			
					FORTRAN 実習			
					数値計算法			
コース科目	機械工作実習		初年次機械ゼミナール		機械設計製図		機械科学実験	
	機械基礎製図 I		CAD 実習		機械加工学		機械科学特別講義 I	
	ロボット工学概論				機械力学演習		生体工学	
					材料力学 II		制御工学	
					生産加工学		C 言語実習	
					材料力学演習		精密工学	
					生産加工学		伝熱工学	
					水力学		燃焼工学	
					水力学演習		航空宇宙工学	
					航空宇宙工学概論		航空宇宙システム工学	
				自動車工学概論		システム制御工学		
				基礎計算学		基礎計算力学		
				固体力学		環境とエネルギー		
				機械科学特別講義 II		航空宇宙システム工学		
				卒業研究		卒業研究		

塗りつぶし (本枠) がある科目は必修科目
塗りつぶしが無い (細枠) 科目は選択科目

システム創成工学科
「社会基盤・環境コース」

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考			
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期	
専門 基礎科目	基礎数学	1		○											代
	微分積分学Ⅰ	2		○											解
	微分積分学Ⅱ	2			○										解
	線形代数学	2			○										代
	微分方程式	2				○									解
	ベクトル解析		2				○								幾
	確率統計学		2				○								確
	フーリエ解析		2						○						解
	物理学Ⅰ	2		○											物
	物理学Ⅱ	2			○										物
	物理学実験	1					○								物実
	化学Ⅰ	2		○											化
	化学Ⅱ	2			○										化
化学実験	1				○									化実	
地学		2				○								地	
社会基盤・ 環境コース 科目	入門地域創生論		2	○											工
	地域創生課題演習Ⅰ	1			○										
	地域創生課題演習Ⅱ		1				○								
	地域創生課題演習Ⅲ		1					○							
	社会基盤・環境工学実験	1						○							地実
	社会基盤・環境プログラミング演習	1							○						
	数値計算法		2						○						コ
	科学技術英語Ⅰ	1						○							
	科学技術英語Ⅱ	1								○					
	測量学実習Ⅰ	1				○									工
	測量学実習Ⅱ	1					○								工
	構造力学Ⅱ	2					○								物
	構造力学演習	1							○						物
	鋼構造学		2						○						工
	コンクリート工学	2				○									工
	鉄筋コンクリート工学	2					○								工
	建設材料学		2						○						工
	施設維持管理工学		2							○					工
	水理学Ⅰ	2				○									物
	水理学Ⅱ	2					○								物
	水理学演習		1						○						物
	水工学		2							○					工
	土質力学Ⅰ	2				○									物
	土質力学Ⅱ	2					○								物
	土質力学演習		1						○						物
	地質工学		2						○						地
	地盤工学		2							○					工
	耐震工学		2								○				物
	地震・火山防災工学		2						○						地
	水・土砂防災工学		2							○					地
都市計画学	2				○									工	
交通計画学	2					○								工	
公共政策学		2						○						工	
上下水道工学	2					○								工	
水環境工学		2						○						化	
大気環境工学		2						○						化	
地盤環境工学		2							○					工	
生態環境保全学		2								○				工	

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考		
				1年次		2年次		3年次		4年次				
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期
社会基盤・環境コース科目	資源循環工学		2					○						工
	設計製図	1							○					工
	施工法	2							○					
	特別演習卒業研究		1						○					[注1]
学科内共通科目	電気回路論Ⅰ		2		○									工
	アナログ電子回路		2			○								
	電気理論の基礎		2		○									
	情報工学基礎		2	○										工
	離散数学		2				○							
	論理回路		2			○								コ
	材料力学Ⅰ		2			○								
	機械力学		2				○							
	機械設計学		2					○						
	測量学	2		○										工
学部内共通科目	構造力学Ⅰ	2				○								物
	環境工学	2				○								工
	ソフトパス理工学概論	1			○									
	原子力工学		2						← ○ (前期) →					
	技術者倫理	2							○					
	工業経営管理論		2						← ○ (前期) →					
	知的財産権概論		2						← ○ (前期) →					
	特許法特講		2						← ○ (前期) →					
社会体験学習	1~2							←★→						
国際研修	1~2							← ★ →						
数理・データサイエンス基礎および演習		2						← ○ →						
A I 基礎および演習		2						← ○ →						
高大連携科目	理工学入門数学Ⅰ		* 2	○										[注2]
	理工学入門数学Ⅱ		* 2	○										[注2]
	理工学入門物理Ⅰ		* 2	○										[注2]
	理工学入門物理Ⅱ		* 2	○										[注2]
	理工学入門化学		* 2	○										[注2]
	理工学入門生物学		* 2	○										[注2]
卒業要件単位数		64	32											
合計必要単位数		96												

注意事項

- [注1] 卒業研究に入るために取得していなければならない単位数は別の基準によります。詳細は担任教員に確認してください。
 [注2] 理工学入門科目の単位(*)は専門科目(選択)の単位として認定されますが、卒業要件単位数には含まれません。

補足事項

- [1] このコース課程は、実施面で多少変更することがあります。
 [2] 履修年次欄の○印は通常時間割科目、★印は集中講義での実施を示します。(○印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。)
 [3] この表に記載されていない科目についても、教職科目以外の他コース、他学科、他学部、いわて高等教育コンソーシアムの授業科目、国際教育科目及び海外協定大学で取得した単位は、10単位を上限として卒業に必要な選択単位として認めることができます。ただし、その単位がコース内の専門科目として認められるかどうかの事前審査を別途行います。よって、履修申告前に教務委員に相談し所定の手続をとることを条件とします。
 [4] 卒業生が申請により取得できる資格、又は受けられる国家試験・資格試験等には、次のようなものがあります。
 (1) 測量士補 (申請取得)
 (2) 測量士 (測量士補登録後、実務経験1年で申請により取得)
 (3) 2級土木施工管理技士 (実務経験1年で受験資格)
 (4) 1級土木施工管理技士 (実務経験3年で受験資格)
 (5) 技術士補 (修習技術者と認定、申請取得)
 (6) 技術士 (技術士補取得後、実務経験4年で受験資格)
 なお、詳細は、各資格試験実施機関のHPなどを参照してください。
 [5] 教員免許の取得については“Ⅷ 教育職員免許状・各種資格の取得方法”を参照してください。なお、教科に関する科目の区分は備考欄に示してあります。

理工学部 システム創成学科 社会基盤・環境コース カリキュラムマップ

区分	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育科目	転換教育科目 外国語科目 健康・スポーツ科目 情報科目 文化科目 社会科目 自然&科学技術科目							
	環境科目							
	地域関連科目							
	基礎数学 線形代数 微分積分学 I 物理学 I 化学 I							
	基礎統計学 ベクトル解析 物理学実験 フォトリソグラフィ 地学							
	ソフトウェア工学概論							
	国際研修 教理・データサイエンス基礎および演習 A I 基礎および演習							
	社会体験学習 工業経営管理論 原子力工学 技術者倫理							
	知的財産権概論 特許法特講							
	科学技術英語 I 科学技術英語 II							
学部内共通科目	入門地域創生論 測量学* 地域創生課題演習 I							
	測量学実習 I 地域創生課題演習 II 測量学実習 II							
	社会基盤・環境工学実験 科学技術英語 I 科学技術英語 II							
	特別演習 設計製図 技術者倫理							
	社会基盤・環境プログラム演習 数値計算法 構造力学演習 施設維持管理工学 水工学 地盤工学 耐震工学 水・土砂防災工学 施工法 生態環境保全学							
	地盤環境工学 資源循環工学							
	卒業研究							
	構造力学 II コンクリート工学 水理学 I 水理学 II 土質力学 I 土質力学 II							
	御構造学 建設材料学 水理学演習 土質力学演習 地質工学 地震・火山防災工学 公共政策学 水環境工学 大気環境工学 資源循環工学							
	都市計画学 環境工学* 交通計画学 上下水道工学							
コア科目	構造力学 I * コンクリート工学 水理学 I 水理学 II 土質力学 I 土質力学 II							
	測量学実習 I 地域創生課題演習 I							
	測量学実習 II 地域創生課題演習 II							
	社会基盤・環境工学実験 科学技術英語 I 科学技術英語 II							
	特別演習 設計製図 技術者倫理							
	社会基盤・環境プログラム演習 数値計算法 構造力学演習 施設維持管理工学 水工学 地盤工学 耐震工学 水・土砂防災工学 施工法 生態環境保全学							
	地盤環境工学 資源循環工学							
	卒業研究							
	構造力学 II コンクリート工学 水理学 I 水理学 II 土質力学 I 土質力学 II							
	都市計画学 環境工学* 交通計画学 上下水道工学							

(3) 教職に関する科目・教科に関する科目表

科目区分及び授業科目 (注1)		単位数	1年次		2年次		3年次		4年次		備考	
			前	後	前	後	前	後	前	後		
教職に関する科目	教職入門	2	←	→								
	教育概論	2			←	→						
	教育・学校心理学	2		←	→							
	教育法規	2			←	→						
	学校経営・制度論	2			←	→						
	特別支援教育	2			←	→						
	総合的な学習の時間の理論と実践	2			←	→						
	特別活動の理論と方法	2		←	→							
	教育課程・教育方法論	2			←	→						
	教育におけるICT活用法	1					←	→				
	生徒指導・進路指導	2		←	→							
	教育相談	2		←	→							
	教職実践演習	2								←	→	
	教育実習	3								←	→	
	教育実習事前事後指導						←	→				
教科及び教科の指導法に関する科目	数学科教育法Ⅰ	2			←	→						
	数学科教育法Ⅱ	2			←	→						
	理科教法Ⅰ	2			←	→						
	理科教法Ⅱ	2			←	→						
	工業教育法Ⅰ	2			←	→						
	工業教育法Ⅱ	2			←	→						
	職業指導	2			←	→						

(注1) 本表の科目は、卒業要件単位数に含まれません。

VIII

教育職員免許状・ 各種資格の取得方法

VIII 教育職員免許状・各種資格の取得方法

1 教育職員免許状の取得に当たって

岩手大学の学科・課程のうち、教育学部の学校教育教員養成課程以外の学科・課程は教員養成を目的としていません。これらの学科・課程の学生は、教育職員免許状を取得しようとする場合は、正規の卒業資格単位のほかに教育職員免許法施行規則でいう**教科及び教科の指導法に関する科目**（教科に関する科目のほとんどの科目は卒業単位で代替できるが、学科・課程によっては代替できない場合もある）、**教職に関する科目**（免許の種類によって異なるが25単位～37単位）及び教養教育科目として開講している**「憲法」2単位、「健康・スポーツ科目」から2単位、「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ、中級ドイツ語、中級フランス語、中級ロシア語、中級中国語、中級韓国語」から2単位、「情報基礎」2単位**を修得する必要があります。相当な決意と努力が必要です。

取得すべき科目及び単位数等は、次ページ以降（人文社会科学部、理工学部、農学部）のとおりです。教育学部の学生はⅣ－8ページ以降のとおりです。

※農学部共同獣医学科では教育職員免許状を取得することはできません。

・介護等の体験

教科に関する科目及び教職に関する科目とは別に、教育学部及び人文社会科学部の学生で**小学校及び中学校の教諭**の普通免許状を取得しようとする者は、障害者、高齢者等に対する介護・介助等の体験を**7日間**行うことが必要です。ただし、介護等に関する専門知識及び技術を有する者又は身体上の障害により介護等の体験を行うことが困難な者は免除されます。

・各学部において課程認定を受けている教育職員免許状の種類と教科・領域

学 部	学 科 等	免許状の種類	教 科 ・ 領 域
人文社会科学部	人間文化課程	中学校教諭1種免許状	国語，社会，英語
		高等学校教諭1種免許状	国語，地理歴史，公民，英語
	地域政策課程	高等学校教諭1種免許状	公民
教育学部	学校教育教員養成課程	小学校教諭1種免許状	
		中学校教諭1種免許状	国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，技術，英語
		高等学校教諭1種免許状	国語，地理歴史，公民，数学，理科，音楽，美術，保健体育，英語
		特別支援学校教諭1種免許状	知的障害者に関する教育の領域，肢体不自由者に関する教育の領域，病弱者に関する教育の領域
理工学部	化学・生命理工学科	高等学校教諭1種免許状	理科，工業
	物理・材料理工学科		数学，理科，工業
	システム創成工学科		
農学部	植物生命科学科	高等学校教諭1種免許状	理科，農業
	応用生物化学科		
	森林科学科		
	食料生産環境学科		
	動物科学科		

○人文社会科学部

本学部所属学生が教育職員免許状（以下「教員免許」という。）を取得するには、以下の条件を満たしていなければなりません。

- ①教員免許取得の基礎資格（学士の学位）を有していること。
- ②表1の単位を修得していること。
- ③教養教育で開講する以下の授業科目の単位を修得していること。

- ・憲法 2単位
- ・健康・スポーツ 2単位
- ・英語コミュニケーション※ 2単位

※中級ドイツ語，中級フランス語，中級ロシア語，中級中国語，中級韓国語でも可

- ・情報基礎 2単位

- ④中学校教員免許を取得する場合は、「介護等の体験（特別支援学校2日間，社会福祉施設等5日間の実習）」を実施していること。

詳細については1年前期に開講する「教職入門」で説明するので，教員免許取得希望者は必ず「教職入門」を申告のうえ履修してください。

なお，各課程で取得できる教員免許は，前ページの「1 教育職員免許状の取得に当たって」で確認してください。

表1 教員免許取得に必要な単位数

	教職に関する 科目	独自科目	各教科の 指導法	教科に関する 科目	計
中学校1種	30単位	3単位	8単位	20単位	61単位
高等学校1種	26単位	11単位	4単位	20単位	61単位

◆教育実習について

「教育実習事前事後指導（1単位）」の内容

1. 教育実習ガイダンス（3年次4月中～下旬）

教育実習申込に係る必要書類配付および実習実施にあたっての注意事項説明

2. 事前指導（3年次）

事前指導①（7月）

教員養成支援センター教員による教職，教育実習にあたっての心構えに関する講義

事前指導②（8月）

教育学部附属中学校教諭による教職，教育実習にあたっての心構えに関する講義

および附属中学校見学にあたっての注意事項説明

事前指導③（8月）

教育学部附属中学校における観察実習

事前指導④（12月下旬）

教育実習報告会の聴講

3. 事前指導（4年次4月中～下旬）

教育実習記録簿配付と教育実習直前での実習実施に係る心構えに関する講話

4. 事後指導（4年次後期）

事後指導①（教育実習終了後2週間以内）

教育実習レポートの提出

事後指導②（12月下旬）

教育実習報告会に参加し、他の学生の教育実習実施報告を聴講し、教育実習を振り返る

教育実習実施の要件

3年次末までに、以下に掲げる要件を満たしていること。

- ①事前指導をすべて受講している
- ②「教育実習ガイダンス」に参加している
- ③卒業に必要な単位（課外科目を除く）を96単位以上修得している
- ④教職に関する科目のうち3年次末までに修得できる単位数の半数以上を修得している
- ⑤「生徒指導・進路指導」又は「教育相談」の単位を修得している
- ⑥教育実習で実施する教科の教育法を2単位以上修得している
- ⑦教科に関する科目を10単位以上修得していること

教育実習の実施について

教育実習を行う学校は、原則、各自の出身校（母校）です。母校での実習が困難な時は、学生センター③窓口にご相談ください。中学校教員免許取得の場合は、中学校で4週間（約160時間）、高等学校教員免許取得の場合は、高等学校で2週間（約80時間）、実習を行わなければなりません。実習は、5月中旬～6月下旬に行われることが多いですが、実習校により異なりますので、申込みの際に必ず確認してください。

教育実習実施希望者は、3年次の「教育実習ガイダンス」に参加してください。教育実習申込書を配付しますので、期日までに必要事項を記入した申込書を学生センター③窓口提出してください。7月中旬頃に、実習予定校宛の依頼文書等をお渡しします。

実習予定校への申し込みは、事前に実習予定校に連絡し、訪問日時を予約した後、長期休業（夏休み）期間中に上記依頼文書持参で、実習予定校に依頼してください。近年、教育実習生の受け入れを制限する学校が増えており、実習を断られる場合もあります。2年次から実習予定校のHPの確認や実習予定校への連絡を行い、教育実習実施の意思を伝えると共に、教育実習の申込時期を問い合わせるなど、早めの行動を心がけてください。

教育実習終了後は、2週間以内にレポートを提出してください。教育実習事後指導の一部で、「教育実習事前事後指導」の単位修得に関わりますので、忘れずに提出してください。

◆教育職員免許取得に係る注意事項

教職ポートフォリオの作成

教員免許取得に関する指導の際に、その学修状況を確認するため、教職ポートフォリオ（学修記録）を作成しなければなりません。毎年度末に教職ポートフォリオを提出してもらいますので、日頃から配付された資料の整理や記録を行ってください。提出時期等は掲示板・アイアシスタントでお知らせします。

4年次後期に履修する「教職実践演習」では、教職ポートフォリオを使ってグループワーク等を行います。毎年度末の教職ポートフォリオの確認を受けていないと「教職実践演習」を履修することができませんので、十分注意してください。

「介護等の体験」の実施（中学校教員免許取得希望者のみ）

中学校教員免許を取得するには、「介護等の体験（介護等体験実習）」を行わなければなりません。

ん。この実習は個人で申し込むことはできませんので、中学校教員免許取得を希望する場合は、2年次11月中～下旬に行われるガイダンスと3年次4月に行われる事前指導に必ず出席してください。2年次のガイダンスでは介護等体験実習の申込用紙等を配付しますので、期日までに学生センター③窓口提出してください。3年次の事前指導は2回行いますが、全て出席しなければなりません。

介護等体験実習は、3年次の6～12月に行われ、期間は、社会福祉施設5日間、特別支援学校2日間の計7日間です。実習先や実習日は、申込書に基づき、岩手県社会福祉協議会（社会福祉施設等）および岩手県教育委員会（特別支援学校）が決めます。

教員免許状の授与申請

教員免許は、岩手県教育委員会に申請し、授与されますが、本学では、卒業見込者の教員免許状申請を一括して行っています。卒業と同時に免許状授与を希望する場合は、期日までに必要書類を学生センター③窓口提出してください。申請書類の配付や提出締切等は掲示板・アイアシスタントでお知らせいたします（12月中旬頃）。

◆教職に関する科目の履修について

教職に関する科目は、一部授業科目で履修する順番が下記のとおり決まっています。

- ①「教職入門」履修後でなければ、他の教職に関する科目を履修できない
- ②国語科教育法は、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの順に履修しなければならない
- ③中学校（社会）の免許取得希望者の「各教科指導法」の履修に当たって、社会科教材研究法は、少なくとも中等社会科教育法A（社会・地理）あるいは中等社会科教育法B（社会・公民）のどちらかの科目を履修した後に履修すること。
- ④高等学校（地理歴史）の免許取得希望者の「各教科の指導法」は、中等社会科教育法A（社会・地歴）、地理歴史科教育法の順に履修しなければならない
- ⑤高等学校（公民）の免許取得希望者の「各教科の指導法」は、中等社会科教育法B（社会・公民）、公民科教育法の順に履修しなければならない

上記以外にも履修の要件がある場合もありますので、シラバスや掲示板をよく確認して履修してください。

◆教科に関する科目および独自科目の履修について

「教科に関する科目」は、免許状の種類および教科により、表2のとおり科目（区分）が定められています。各科目（区分）1単位以上修得したうえで「教科に関する科目」の免許取得に必要な単位数を修得しなければなりません。「独自科目」は、教科に関する科目、各教科の指導法、および教職に関する科目のそれぞれの免許取得に必要な修得単位数を超えて修得した単位が算入されます。

表2 免許種・教科別の科目区分

免許種	教科	科目（区分）	
中学校 第1種	国語	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	
		国文学（国文学史を含む。）	
		漢文学	
		書道（書写を中心とする。）	
	社会	日本史・外国史	
		地理学（地誌を含む。）	
		「法律学、政治学」	
		「社会学、経済学」	
	英語	英語学	
		英語文学	
		英語コミュニケーション	
		異文化理解	
	高等学校 第1種	国語	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）
			国文学（国文学史を含む。）
			漢文学
		地理歴史	日本史
外国史			
人文地理学・自然地理学			
地誌			
公民		「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	
		「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	
		「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	
英語		英語学	
		英語文学	
		英語コミュニケーション	
		異文化理解	

※「 」は、鍵括弧内の科目（区分）から、1つ以上の科目（区分）の授業科目の単位を修得しなければなりません。例えば、中学校社会の「法律学、政治学」では、法律学の科目（区分）の授業科目だけを修得しても教員免許を取得できます。

教職に関する科目(中学校30単位、高校26単位)

科目	各科目に含める必要事項	授業科目名	履修年次	修得単位		備考
				中学 必 選	高校 必 選	
教育の基礎的理解に関する科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。) ※「(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)」を含む。	教職入門	1前	2	2	
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ※「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」を含む。 ※「(チーム学校運営への対応を含む。)」を含む。	教育概論	2前	2	2	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育法規	2前	2	2	教育法規, 学校経営・制度論から2単位必修
		学校経営・制度論	2後	2	2	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育・学校心理学	1後	2	2	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2前	2	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と実践	2後	2		中学のみ
	総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の理論と実践	2後	2	2	
	特別活動の指導法	特別活動の理論と方法	1後	2	2	
	教育の方法及び技術 ※「教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)」を含む。	教育課程・教育方法論	2前	2	2	
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育におけるICT活用法	3年	1	1	
	生徒指導の理論及び方法	生徒指導・進路指導	1後	2	2	
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法					
教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談	2前	2	2		
教育実践に関する科目	教育実習 中5単位、高3単位 ※事前指導含むこと	教育実習事前事後指導	3~4	1	1	
		中学校教育実習	4通	4		
		高等学校教育実習	4通		2	
	教職実践演習	教職実践演習(中・高)	4後	2	2	

各教科の指導法に関する科目(中学校8単位、高校4単位)

各科目に含める必要事項	授業科目名	履修年次	修得単位		備考
			中学 必 選	高校 必 選	
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	国語科教育法Ⅰ	2前	2	2	ⅠからⅣの順に履修 高校:Ⅲを履修した場合独自科目に算入する
	国語科教育法Ⅱ	2後	2	2	
	国語科教育法Ⅲ	3前	2	2	
	国語科教育法Ⅳ	4後	2		
	中等社会科教育法A(社会・地歴)	2後	2	2	高校地歴:中等社会科教育法Aと地理歴史科教育法を履修
	中等社会科教育法B(社会・公民)	2前	2	2	
	社会科教材研究法	3前	2		
	社会科学習内容構築論	4後	2		高校公民:中等社会科教育法Bと公民科教育法を履修
	地理歴史科教育法	3前		2	
	公民科教育法	2後		2	
	英語科教育法Ⅰ	2前	2	2	高校:Ⅲを履修した場合独自科目に算入する
	英語科教育法Ⅱ	2・3後	2	2	
	英語科教育法Ⅲ	2・3後	2	2	
	英語科教育法Ⅳ	4後	2		

教科に関する科目 科目区分別授業科目一覧

《人間文化課程》

科目	科目 (区分)	授業科目名	単位	免許種	備考
国語	国語学 (音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	必 日本語学概説	2	中学 高校	高等学校免許取得希望者が「書法基礎」を修得しても、「独自科目」の単位には算入できない。 授業科目名の「必」は必修の授業科目であることを意味している (以下同様)。
		日本語学講義A	2	中学 高校	
		日本語学講義B	2	中学 高校	
		日本語学講義C	2	中学 高校	
		日本語学講義D	2	中学 高校	
		日本語学講読A	2	中学 高校	
		日本語学講読B	2	中学 高校	
		日本語学特講A	2	中学 高校	
		日本語学特講B	2	中学 高校	
		日本語表現基礎	2	中学 高校	
		日本語読解基礎	2	中学 高校	
		中国語学講義B	2	中学 高校	
	国文学 (国文学史を含む。)	必 日本文学講義A	2	中学 高校	
		必 日本文学講義B	2	中学 高校	
		必 日本文学講義C	2	中学 高校	
		必 日本文学講義D	2	中学 高校	
		古典籍古文書講読A	2	中学 高校	
		古典籍古文書講読B	2	中学 高校	
	漢文学	必 漢文学概論	2	中学 高校	
		漢文学講義	2	中学 高校	
書道 (書写を中心とする。)	必 書法基礎	2	中学		
社会史	日本史	必 日本史講義A	2	中学 高校	中学校免許では、日本史＋外国史の授業科目＝日本史・外国史の授業科目、人文地理学・自然地理学＋地誌の授業科目＝地理学 (地誌を含む。) の授業科目。必修、選択必修の授業科目も同様である。 授業科目名の「選必」は選択必修の授業科目であることを意味している (以下同様)。
		必 日本史講義B	2	中学 高校	
		日本史特講A	2	中学 高校	
		日本史特講B	2	中学 高校	
		日本史特講C	2	中学 高校	
		日本史講読A	2	中学 高校	
		日本史講読B	2	中学 高校	
		日本史講読C	2	中学 高校	
		日本史講読D	2	中学 高校	
		考古学講義A	2	中学 高校	
	考古学講義B	2	中学 高校		
	外国史	必 西洋史講義A	2	中学 高校	選必 アジア史講義A, 同Bから2単位修得すること。
		必 西洋史講義B	2	中学 高校	
		西洋史講義C	2	中学 高校	
		選必 アジア史講義A	2	中学 高校	
		選必 アジア史講義B	2	中学 高校	
		西洋史特講A	2	中学 高校	
		西洋史特講B	2	中学 高校	
		西洋史講読A	2	中学 高校	
		西洋史講読B	2	中学 高校	
西洋史講読C		2	中学 高校		
西洋史講読D	2	中学 高校			
西洋史講読E	2	中学 高校			
アジア史特講A	2	中学 高校			
アジア史特講B	2	中学 高校			
アジア史特講C	2	中学 高校			
人文地理学・自然地理学	必 人文地理学概論A	2	中学 高校	※課外科目	
地誌	必 地誌学	2	中学 高校	※課外科目	

科目	科目（区分）	授業科目名	単位	免許種	備考
社	「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際法を含む。）」	必 政治学（政治過程）	2	中学 高校	中学校免許では、「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際法を含む。）」の授業科目＝「法律学、政治学」の授業科目。必修の授業科目も同様である。 本科目（区分）の授業科目は、全て地域政策課程の授業科目（一部専修プログラムでは専修プログラム科目になっている授業科目もある）。
		民法（総則）Ⅰ	2	中学 高校	
		民法（総則）Ⅱ	2	中学 高校	
		民法（物権）Ⅰ	2	中学 高校	
		民法（物権）Ⅱ	2	中学 高校	
		民法（家族法）Ⅰ	2	中学 高校	
		民法（家族法）Ⅱ	2	中学 高校	
		憲法（人権）Ⅰ	2	中学 高校	
憲法（人権）Ⅱ	2	中学 高校			
会	「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	必 社会学概論	2	中学 高校	中学校免許では、「社会学、経済学（国際経済を含む。）」の授業科目＝「社会学、経済学」の授業科目。必修の授業科目も同様である。
		地域社会学	2	中学 高校	
		地域社会学特講A	2	中学 高校	
		地域社会学特講B	2	中学 高校	
		家族社会学	2	中学 高校	
		家族社会学特講A	2	中学 高校	
		家族社会学特講B	2	中学 高校	
公 民	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	選必 人間学	2	中学 高校	中学校免許では、「哲学、倫理学、宗教学、心理学」の授業科目＝「哲学、倫理学、宗教学」の授業科目である。心理学は高等学校のみで、中学校免許取得のための修得単位数には算入できない。 中学社会「選必」人間学、日本思想史講義A、日本思想史講義Bから2単位修得すること。 高校公民「選必」人間学、日本思想史講義A、日本思想史講義B、心理学概論から2単位修得すること。
		選必 日本思想史講義A	2	中学 高校	
		人間学特講A	2	中学 高校	
		人間学特講B	2	中学 高校	
		選必 日本思想史講義B	2	中学 高校	
		日本思想史講義C	2	中学 高校	
		日本思想史講義D	2	中学 高校	
		日本思想史特講A	2	中学 高校	
		日本思想史特講B	2	中学 高校	
		日本思想史特講C	2	中学 高校	
		日本思想史講読Ⅰ	2	中学 高校	
		日本思想史講読Ⅱ	2	中学 高校	
		社会文化思想論Ⅱ	2	中学 高校	
		社会文化思想論Ⅳ	2	中学 高校	
		選必 心理学概論	2	高校	
		実験心理学（神経・生理心理学）	2	高校	
認知心理学（知覚・認知心理学Ⅰ）	2	高校			
社会心理学（社会・集団・家族心理学）	2	高校			
臨床心理学（臨床心理学概論）	2	高校			
認知心理学特講（知覚・認知心理学Ⅱ）	2	高校			
人格心理学特講	2	高校			

科目	科目（区分）	授業科目名	単位	免許種	備考
英語	英語学	必 英語学講義D	2	中学 高校	
		言語習得論A	2	中学 高校	
		言語習得論B	2	中学 高校	
		英語学講義A	2	中学 高校	
		英語学講義B	2	中学 高校	
		英語学講義C	2	中学 高校	
		英語学講義F	2	中学 高校	
	英語文学	必 英米文学講義D	2	中学 高校	
		英米文学講義C	2	中学 高校	
	英語コミュニケーション	選必 英語コミュニケーション基礎Ⅰ	2	中学 高校	選必 英語コミュニケーション基礎Ⅰ，スキルアップ・イングリッシュBから2単位修得すること。
		選必 スキルアップ・イングリッシュB	2	中学 高校	
		英語コミュニケーション基礎Ⅱ	2	中学 高校	
		スキルアップ・イングリッシュA	2	中学 高校	
	異文化理解	必 英米文化論講義E	2	中学 高校	
		英米文化論講義A	2	中学 高校	
		英米文化論講義B	2	中学 高校	
		英米文化論講義C	2	中学 高校	
		英米文化論講義D	2	中学 高校	
		英米文化論講義F	2	中学 高校	

《地域政策課程》

科目	科目（区分）	授業科目名	単位	免許種	備考	
公	「法学（国際法を含む。） 政治学（国際法を含む。）」	必 政治学（政治過程）	2	高校		
		民法（総則）Ⅰ	2	高校		
		民法（総則）Ⅱ	2	高校		
		民法（物権）Ⅰ	2	高校		
		民法（物権）Ⅱ	2	高校		
		民法（家族法）Ⅰ	2	高校		
		民法（家族法）Ⅱ	2	高校		
		憲法（人権）Ⅰ	2	高校		
	憲法（人権）Ⅱ	2	高校			
	民	「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	必 経済学基礎Ⅰ	2		高校
			環境社会学Ⅰ	2		高校
			環境社会学Ⅱ	2		高校
			経済学基礎Ⅱ	2		高校
			農業経済論Ⅰ	2		高校
農業経済論Ⅱ			2	高校		
理論経済学Ⅰ			2	高校		
理論経済学Ⅱ			2	高校		
財政学Ⅰ			2	高校		
財政学Ⅱ			2	高校		
環境経済論A			2	高校		
環境経済論特講	2	高校				
	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	選必 人間学	2	高校	選必：人間学，日本思想史講義A，日本思想史講義B，心理学概論から2単位修得すること。 本科目（区分）の授業科目は，全て人間文化課程の授業科目。	
		選必 日本思想史講義A	2	高校		
		選必 日本思想史講義B	2	高校		
		選必 心理学概論	2	高校		

○理工学部

本学部で取得できる教員免許状（Ⅷ-1ページ参照）を取得するためには、以下の条件を満たす必要があります。

- 1) 基礎資格（学士の学位）を有していること
- 2) Ⅷ-11ページ表1に示す、教職に関する科目を**26単位**修得していること
- 3) 表2に示す各教科の指導法に関する科目を**4単位**修得していること及びⅧ-13～Ⅷ-22ページ表3に示す教科に関する科目を**31単位**修得していること（計**35単位以上**）
- 4) 教養教育科目で開講している、下記の単位を修得していること（計**8単位**）
「憲法」2単位 「健康・スポーツA」1単位 「健康・スポーツB」又は「健康・スポーツC」1単位
「英語コミュニケーションⅠ」1単位 「英語コミュニケーションⅡ」1単位 「情報基礎」2単位

詳細については、1年次前期に開講する「教職入門」で教育職員免許状を取得するためのガイダンスを行います。免許取得希望者は必ず「教職入門」を履修してください。なお1年次前期に「教職入門」を履修できない学生は、学生センターA棟④番窓口（学務課）に相談してください。

※教員免許状に関する問い合わせ先は、学生センターA棟④番窓口（学務課）です。

表1. 教職に関する科目及び修得すべき単位数

免許法上の区分	免許法施行規則に規定される科目	授業科目名 ※注1	修得すべき単位数 (合計26単位)			履修年次	開講期
			数学	理科	工業 ※注4		
教育の基礎的理解に関する科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） ※「（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）」を含む。	教職入門	2	2	2	1	前期
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ※「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」を含む。 ※「（チーム学校運営への対応を含む。）」を含む。	教育概論	2	2	2	2～	前期
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育・学校心理学	2	2	2	1～	後期
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育法規 ※注2	2	2	2	2～	前期
		学校経営・制度論 ※注2					
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2	2	2	2～	前期
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な探究の時間の指導法	総合的な学習の時間の理論と実践	2	2	2	2～	後期
	特別活動の指導法	特別活動の理論と方法	2	2	2	1～	後期
	教育の方法及び技術 ※「教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）」を含む。	教育課程・教育方法論	2	2	2	2～	前期
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育におけるICT活用法	1	1	1	3～	後期
	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導・進路指導	2	2	2	1～	後期
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談	2	2	2	1～	後期
	教職実践演習（中・高）	教職実践演習	2	2	2	4	後期
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習（教育実習事前・事後指導1単位含む）※注3	3	3	3	3～4	

表 2. 各教科の指導法に関する科目及び修得すべき単位数

免許法上の区分	免許法施行規則に規定される科目	授業科目名 ※注 1	修得すべき単位数 (合計 4 単位)			履修 年次	開講 期
			数学	理科	工業 ※注 4		
教科の指導法 に関する科目	各教科の指導法(情報通信技 術の活用を含む。)	数学科教育法 I	2	—	—	2～	前期
		数学科教育法 II	2	—	—	2～	後期
		理科教法 I	—	2	—	2～	前期
		理科教法 II	—	2	—	2～	後期
		工業教育法 I	—	—	2	2～	前期
		工業教育法 II	—	—	2	2～	後期

注 1 ・理工学部在籍時に、理工学部で開設している科目で必要単位を取得してください。
・隔年開講又は専門科目（必修）と開講時期が重なる等で履修できない場合は、次年度以降に履修して単位を取得してください。

注 2 「教育法規」又は「学校経営・制度論」から 1 科目を選択履修してください。

注 3 教育実習については、ガイダンスを 3 年次の 5 月頃におこないますが、特に以下のことに注意してください。

(1) 教育実習ができる条件について（下記 1～5 を全て満たしている必要があります）

- 1) 卒業見込みの者（研究室に配属されていること）
- 2) 教職に関する科目の単位の 1/2 以上（13 単位）を修得していること
- 3) 教科に関する科目の単位の 1/2 以上（16 単位）を修得していること
- 4) 実習で実施する教科の教育法を 2 単位以上修得していること
- 5) 「生徒指導・進路指導」又は「教育相談」の単位を修得していること

* ただし、編入学生には適用しません。

(2) 実習校及び実習期間について

実習校は、原則として各自の出身校とします。実習期間は 2 週間で、例年 6 月～9 月の予定ですが、実習校の事情により多少の変更もあります。

3 年次の 7 月頃に、大学から実習校への依頼書を配付し、夏期休業中に実習予定者自身が持参して内諾をもらう必要がありますが、受け入れ人数に制限があり受け入れを断られる場合もあるので、2 年次の終わり頃など、早めに出身校と連絡を取って確認してください。

(3) 事前・事後指導について

教育実習は、実習の他に事前指導（3 年次・4 年次）と事後指導（4 年次）を必ず受けなければなりません。日程は掲示でお知らせしますので、注意してください。

注 4 「工業」の免許状における教職に関する科目の 2.6 単位及び教科の指導法に関する科目の 4 単位の計 3.0 単位については、全部又は一部を教科に関する科目（工業）で代替することができます。ただし、学科・コースによっては履修すべき単位（職業指導を除き 5.9 単位）に不足することもありますので、その場合は、学生センター A 棟④ 番窓口（学務課）に相談してください。

表3. 教科に関する科目の修得すべき単位数

化学・生命理工学科 【理科】

化学コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設学科・コース等	修得すべき単位数
物 理 学	○物理学Ⅰ	2	化学・生命理工学科	1以上
	○物理学Ⅱ	2	〃	
化 学	○化学Ⅰ	2	化学・生命理工学科	1以上
	○化学Ⅱ	2	〃	
	○無機構造化学	2	〃	
	○量子化学	2	〃	
	○有機化学Ⅰ	2	〃	
	有機分子解析学	2	〃	
	○有機化学Ⅱ	2	化学コース	
	○有機化学Ⅲ	2	〃	
	○無機反応化学	2	〃	
	無機物質化学Ⅰ	2	〃	
	無機物質化学Ⅱ	2	〃	
	物性物理化学	2	〃	
	構造物理化学	2	〃	
有機分子構築学	2	〃		
有機分子構造学	2	〃		
生 物 学	○生物学	2	化学・生命理工学科	1以上
	神経科学概論	2	〃	
	生化学	2	〃	
	発生生物学	2	〃	
	分子遺伝学	2	〃	
	医薬科学	2	〃	
地 学	○地学	2	システム創成工学科	1以上
化 学 実 験	○化学理工学実験Ⅰ	3	化学コース	1以上
	○化学理工学実験Ⅱ	3	化学コース	

合計
31

○印科目は、免許区分ごとの必修科目を示す。

※他学科・他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

生命コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設学科・コース等	修得すべき単位数
物 理 学	○物理学Ⅰ	2	化学・生命理工学科	1以上
	○物理学Ⅱ	2	〃	
化 学	○化学Ⅰ	2	化学・生命理工学科	1以上
	○化学Ⅱ	2	〃	
	無機構造化学	2	〃	
	量子化学	2	〃	
	有機化学Ⅰ	2	〃	
	有機分子解析学	2	〃	
生 物 学	○生物学	2	化学・生命理工学科	1以上
	○神経科学概論	2	〃	
	○生化学	2	〃	
	○発生生物学	2	〃	
	分子遺伝学	2	〃	
	医薬科学	2	〃	
	○分子細胞生物学Ⅰ	2	生命コース	
	○分子細胞生物学Ⅱ	2	〃	
	○分子細胞生物学Ⅲ	2	〃	
	○生理学	2	〃	
	○組織形態学	2	〃	
ブレインサイエンス	2	〃		
地 学	○地学	2	システム創成工学科	1以上
化 学 実 験	○化学実験	1	生命コース	1以上
生物学実験	○生命理工学実験Ⅰ	2	生命コース	

合計
31

○印科目は、免許区分ごとの必修科目を示す。

※他学科・他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

化学・生命理工学科 【工業】

化学コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設学科・コース等	修得すべき単位数	
職業指導	○職業指導	2	理工学部	2	合計 31
	確率統計学	2	化学・生命理工学科	29	
	分析化学	2	化学コース		
	無機工業化学	2	〃		
	有機工業化学	2	〃		
	○化学生命概論	2	化学・生命理工学科		
	○化学生命研修Ⅰ	1	〃		
	○化学生命研修Ⅱ	1	〃		
	○基礎分析化学	2	〃		
	○基礎物理化学	2	〃		
	○物理化学Ⅰ	2	〃		
	○基礎化学工学	2	〃		
	○物理化学Ⅱ	2	化学コース		
	○基礎高分子化学	2	〃		
	○高分子合成化学	2	〃		
	化学工学Ⅰ	2	〃		
	機器分析化学	2	〃		
	反応工学	2	〃		
	化学工学Ⅱ	2	〃		
	分子構造解析学	2	〃		
	高分子材料化学	2	〃		
	○化学理工学情報Ⅰ	1	〃		
	○化学理工学演習Ⅰ	1	〃		
	○化学理工学演習Ⅱ	1	〃		
	○化学理工学研修	1	〃		

○印科目は、免許区分ごとの必修科目を示す。

※他学科・他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

生命コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設学科・コース等	修得すべき単位数	
職業指導	○職業指導	2	理工学部	2	合計 31
	○確率統計学	2	化学・生命理工学科	29	
	分析化学	2	化学コース		
	無機工業化学	2	〃		
	有機工業化学	2	〃		
	基礎高分子化学	2	〃		
	○化学生命概論	2	化学・生命理工学科		
	○化学生命研修Ⅰ	1	〃		
	化学生命研修Ⅱ	1	〃		
	基礎分析化学	2	〃		
	基礎物理化学	2	〃		
	物理化学Ⅰ	2	〃		
	基礎化学工学	2	〃		
	○バイオテクノロジー	2	生命コース		
	再生医療工学	2	〃		
	○生命情報学	2	〃		
	○生命理工学演習Ⅰ	1	〃		
	○生命理工学演習Ⅱ	1	〃		
	○生命理工学実験Ⅱ	2	〃		
	○生命理工学情報Ⅰ	1	〃		

○印科目は、免許区分ごとの必修科目を示す。

※他学科・他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

物理・材料理工学科 【数学】
数理・物理コース，マテリアルコース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設学科・コース等	修得すべき単位数	
代 数 学	○線形代数学	2	物理・材料理工学科	1以上	合計 31
	○基礎数学	1	〃		
幾 何 学	○幾何学Ⅰ	2	数理・物理コース	1以上	
	○幾何学Ⅱ	2	〃		
	○ベクトル解析	2	物理・材料理工学科		
	物理数学演習Ⅰ	1	数理・物理コース		
解 析 学	○微分積分学Ⅰ	2	物理・材料理工学科	1以上	
	○微分積分学Ⅱ	2	〃		
	○微分方程式	2	〃		
	○複素解析	2	〃		
	○フーリエ解析	2	〃		
	○応用微分方程式	2	数理・物理コース		
	物理数学演習Ⅱ	1	〃		
	ゲーム理論	2	〃		
	応用解析学	2	〃		
確率論、統計学	○確率統計学	2	物理・材料理工学科	1以上	
	応用確率統計学	2	数理・物理コース		
	複雑系科学	2	〃		
	データ解析	2	知能・メディア情報コース		
コンピュータ	○プログラミング学	2	物理・材料理工学科	1以上	
	○数値計算法	2	物理・材料理工学科		
	論理回路	2	システム創成工学科		

○印科目は、免許区分ごとの必修科目を示す。

※他学科・他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

物理・材料理工学科 【理科】
数理・物理コース，マテリアルコース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設学科・コース等	修得すべき単位数	
物 理 学	○物理学	2	物理・材料理工学科	1以上	合計 31
	○熱力学	2	〃		
	○電磁気学Ⅰ	2	〃		
	電磁気学Ⅱ	2	〃		
	○量子物理学Ⅰ	2	〃		
	○統計物理学	2	〃		
	○固体物理学	2	〃		
	電子物性学	2	〃		
	磁性理工学	2	〃		
	超伝導理工学	2	〃		
	ナノ理工学	2	〃		
	量子物理学Ⅱ	2	数理・物理コース		
	粒子線計測学	2	〃		
	現代物理学Ⅰ	2	〃		
	現代物理学Ⅱ	2	〃		
光学	2	物理・材料理工学科			
化 学	○化学Ⅰ	2	物理・材料理工学科	1以上	
	○化学Ⅱ	2	〃		
	○材料物理化学Ⅰ	2	マテリアルコース		
	○電気化学	2	マテリアルコース		
生 物 学	○生物学	2	化学・生命理工学科	1以上	
地 学	○地学	2	システム創成工学科	1以上	
物理学実験	○物理学実験	1	物理・材料理工学科	1以上	
	○物理・材料理工学実験Ⅱ	2	〃		
化学実験	○化学実験	1	物理・材料理工学科	1以上	
	○物理・材料理工学実験Ⅰ	2	〃		

○印科目は、免許区分ごとの必修科目を示す。

※他学科・他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

物理・材料理工学科 【工業】
数理・物理コース，マテリアルコース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設学科・コース等	修得すべき単位数	
職業指導	○職業指導	2	理工学部	2	合計 31
工業	○材料組織学Ⅰ	2	物理・材料理工学科	29	
	○電気回路学	2	〃		
	○材料計測学	2	〃		
	○誘電体材料学	2	〃		
	○半導体理工学	2	〃		
	○有機材料学	2	〃		
	○材料力学	2	マテリアルコース		
	○材料組織学Ⅱ	2	〃		
	○金属構造材料学	2	〃		
	○材料強度学	2	〃		
	○材料物理化学Ⅱ	2	〃		
	○半導体デバイス工学	2	〃		
	○エコ材料学	2	〃		
	○接合工学	2	〃		
	○反応工学	2	〃		
	○製錬工学	2	〃		
○鑄造材料学	2	〃			
○複合材料学	2	〃			

○印科目は、免許区分ごとの必修科目を示す。

※他学科・他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

システム創成工学科 【数学】

電気電子通信コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設学科・コース等	修得すべき単位数	
代 数 学	○基礎数学	1	システム創成工学科	1以上	合計 31
	○線形代数学	2	システム創成工学科		
	○電気数学	1	電気電子通信コース		
	基礎計算力学	2	機械科学コース		
	線形代数学Ⅱ	2	システム創成工学科		
幾 何 学	○幾何学Ⅰ	2	数理・物理コース	1以上	
	○幾何学Ⅱ	2	〃		
	○ベクトル解析	2	システム創成工学科		
解 析 学	○微分積分学Ⅰ	2	システム創成工学科	1以上	
	○微分積分学Ⅱ	2	〃		
	○フーリエ解析	2	〃		
	○微分方程式	2	〃		
	複素解析	2	〃		
確率論、統計学	○確率統計学	2	システム創成工学科	1以上	
	データ解析	2	知能・メディア情報コース		
コンピュータ	△数値計算	2	知能・メディア情報コース	1以上	
	論理回路	2	システム創成工学科		
	形式言語とオートマトン	2	知能・メディア情報コース		
	コンピュータグラフィックス	2	〃		
	△数値計算法	2	機械科学コース		
	システム制御工学	2	〃		

○印科目は、免許区分ごとの必修科目を示す。

△印科目は、免許区分ごとの選択必修科目を示し、1科目以上を修得すること。

※他学科・他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

知能・メディア情報コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設学科・コース等	修得すべき単位数	
代 数 学	○線形代数学Ⅰ	2	知能・メディア情報コース	1以上	合計 31
	電気数学	1	電気電子通信コース		
	基礎計算力学	2	機械科学コース		
	線形代数学Ⅱ	2	システム創成工学科		
幾 何 学	○幾何学Ⅰ	2	数理・物理コース	1以上	
	○幾何学Ⅱ	2	〃		
	ベクトル解析	2	システム創成工学科		
解 析 学	○微分積分学Ⅰ	2	システム創成工学科	1以上	
	○微分積分学Ⅱ	2	〃		
	○フーリエ解析	2	〃		
	微分方程式	2	〃		
	複素解析	2	〃		
確率論、統計学	○確率統計学	2	システム創成工学科	1以上	
	データ解析	2	知能・メディア情報コース		
コンピュータ	○数値計算	2	知能・メディア情報コース	1以上	
	○論理回路	2	システム創成工学科		
	形式言語とオートマトン	2	知能・メディア情報コース		
	コンピュータグラフィックス	2	〃		
	数値計算法	2	機械科学コース		
	システム制御工学	2	〃		

○印科目は、免許区分ごとの必修科目を示す。

※他学科・他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

機械科学コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設学科・コース等	修得すべき単位数	
代 数 学	○基礎数学	1	システム創成工学科	1以上	合計 31
	○線形代数学	2	システム創成工学科		
	電気数学	1	電気電子通信コース		
	基礎計算力学	2	機械科学コース		
	線形代数学Ⅱ	2	システム創成工学科		
幾 何 学	○幾何学Ⅰ	2	数理・物理コース	1以上	
	○幾何学Ⅱ	2	〃		
	○ベクトル解析	2	システム創成工学科		
解 析 学	○微分積分学Ⅰ	2	システム創成工学科	1以上	
	○微分積分学Ⅱ	2	〃		
	○フーリエ解析	2	〃		
	○微分方程式	2	〃		
	○複素解析	2	〃		
確率論、統計学	○確率統計学	2	システム創成工学科	1以上	
	データ解析	2	知能・メディア情報コース		
コンピュータ	数値計算	2	知能・メディア情報コース	1以上	
	論理回路	2	システム創成工学科		
	形式言語とオートマトン	2	知能・メディア情報コース		
	コンピュータグラフィックス	2	〃		
	○数値計算法	2	機械科学コース		
	システム制御工学	2	〃		

○印科目は、免許区分ごとの必修科目を示す。

※他学科・他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

システム創成工学科 【理科】

社会基盤・環境コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設学科・コース等	修得すべき単位数	
物 理 学	○物理学Ⅰ	2	システム創成工学科	1以上	合計 31
	○物理学Ⅱ	2	〃		
	○構造力学Ⅰ	2	〃		
	○構造力学Ⅱ	2	社会基盤・環境コース		
	○構造力学演習	1	〃		
	○水理学Ⅰ	2	〃		
	○水理学Ⅱ	2	〃		
	水理学演習	1	〃		
	○土質力学Ⅰ	2	〃		
	○土質力学Ⅱ	2	〃		
土質力学演習	1	〃			
耐震工学	2	〃			
化 学	○化学Ⅰ	2	システム創成工学科	1以上	
	○化学Ⅱ	2	〃		
	大気環境工学	2	社会基盤・環境コース		
	水環境工学	2	〃		
生 物 学	○生物学	2	化学・生命理工学科	1以上	
地 学	○地学	2	システム創成工学科	1以上	
	地質工学	2	社会基盤・環境コース		
	地震・火山防災工学	2	〃		
	水・土砂防災工学	2	〃		
物理学実験	△物理学実験	1	システム創成工学科	1以上	
化学実験	△化学実験	1	システム創成工学科		
地学実験	社会基盤・環境工学実験	1	社会基盤・環境コース		

○印科目は、免許区分ごとの必修科目を示す。

△印科目は、免許区分ごとの選択必修科目を示し、1科目以上を修得すること。

※他学科・他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

システム創成工学科【工業】

電気電子通信コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設学科・コース等	修得すべき単位数
職業指導	○職業指導	2	理工学部	2
工業	○組込ソフトウェア実習	1	電気電子通信コース	29
	○組込ハードウェア実習	1	〃	
	○電気回路論Ⅰ	2	システム創成工学科	
	○電気回路論Ⅱ	2	電気電子通信コース	
	○電気回路論Ⅲ	2	〃	
	○電気理論の基礎	2	システム創成工学科	
	○電磁気学Ⅰ	2	電気電子通信コース	
	○電磁気学Ⅱ	2	電気電子通信コース	
	○電磁波工学	2	〃	
	○アナログ電子回路	2	システム創成工学科	
	○応用電子回路	2	電気電子通信コース	
	○電気電子計測学	2	〃	
	○制御システム工学	2	〃	
	○電子デバイス工学Ⅰ	2	〃	
	○エネルギー変換工学	2	〃	
	○電気機器工学	2	〃	
	○通信システム	2	〃	
	○電子材料物性学	2	〃	
	○半導体LSI工学	2	〃	
	○電子デバイス工学Ⅱ	2	〃	
	○光エレクトロニクス	2	〃	
	○高電圧プラズマ工学	2	〃	
	○発電工学	2	〃	
	○送配電工学	2	〃	
	○電気電子工学特別講義	2	〃	
	○電気設計製図	2	〃	
	○情報工学基礎	2	システム創成工学科	
	○コンパイラ	2	知能・メディア情報コース	
	○ネットワーク実験	1	〃	
	○デジタル通信	2	〃	
	○信号処理	2	〃	
	○情報理論	2	〃	
	○データベース	2	〃	
	○ヒューマンインタフェース	2	〃	
	○メディアシステム	2	〃	
	○画像処理とパターン認識	2	〃	
	○人工知能	2	〃	
	○ロボティクス	2	〃	
	○数理計画法	2	〃	
	○ハードウェア実験	1	〃	
	○環境とエネルギー	2	機械科学コース	
	○固体力学	2	〃	
	○精密工学	2	〃	
	○粘性流体工学	2	〃	
	○航空流体工学	2	〃	
	○燃焼工学	2	〃	
	○生産加工学	2	〃	
○生体工学	2	〃		
○トライボロジー	2	〃		
○航空宇宙システム工学	2	〃		
○材料力学Ⅱ	2	〃		
○伝熱工学	2	〃		
○計測工学	2	〃		
○ロボティクス工学	2	〃		
○測量学	2	システム創成工学科		
○資源循環工学	2	社会基盤・環境コース		
○地盤環境工学	2	〃		
○公共政策学	2	〃		
○水工学	2	〃		
○地盤工学	2	〃		
○鋼構造学	2	〃		
○生態環境保全学	2	〃		
○建設材料学	2	〃		
○施設維持管理工学	2	〃		
○化学生命概論	2	化学・生命理工学科		
				合計
				31

○印科目は、免許区分ごとの必修科目を示す。

※他学科・他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

知能・メディア情報コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設学科・コース等	修得すべき単位数
職業指導	○職業指導	2	理工学部	2
工業	○電気回路論Ⅰ	2	システム創成工学科	29
	通信システム	2	電気電子通信コース	
	電子材料物性学	2	〃	
	半導体LSI工学	2	〃	
	電子デバイス工学Ⅱ	2	〃	
	光エレクトロニクス	2	〃	
	高電圧プラズマ工学	2	〃	
	発電工学	2	〃	
	送配電工学	2	〃	
	電気電子工学特別講義	2	〃	
	電気設計製図	2	〃	
	○情報工学基礎	2	システム創成工学科	
	○コンピュータアーキテクチャ	2	知能・メディア情報コース	
	○ソフトウェア構成論	2	〃	
	○コンピュータネットワーク	2	〃	
	○デジタル回路設計	2	〃	
	○オペレーティングシステム	2	〃	
	○ハードウェア設計及び演習	2	〃	
	○プログラミング言語及び演習Ⅰ	2	〃	
	○プログラミング言語及び演習Ⅱ	2	〃	
	○プログラミング言語及び演習Ⅲ	2	〃	
	○ソフトウェア設計及び演習	2	〃	
	コンパイラ	2	〃	
	ネットワーク実験	1	〃	
	デジタル通信	2	〃	
	信号処理	2	〃	
	情報理論	2	〃	
	データベース	2	〃	
	ヒューマンインタフェース	2	〃	
	メディアシステム	2	〃	
	画像処理とパターン認識	2	〃	
	人工知能	2	〃	
	ロボティクス	2	〃	
	数理計画法	2	〃	
	ハードウェア実験	1	〃	
	○環境とエネルギー	2	機械科学コース	
	固体力学	2	〃	
	精密工学	2	〃	
	粘性流体工学	2	〃	
	航空流体工学	2	〃	
	燃焼工学	2	〃	
	生産加工学	2	〃	
	生体工学	2	〃	
	トライボロジー	2	〃	
	航空宇宙システム工学	2	〃	
	材料力学Ⅱ	2	〃	
	伝熱工学	2	〃	
	計測工学	2	〃	
	ロボティクス工学	2	〃	
	○測量学	2	システム創成工学科	
資源循環工学	2	社会基盤・環境コース		
地盤環境工学	2	〃		
公共政策学	2	〃		
水工学	2	〃		
地盤工学	2	〃		
鋼構造学	2	〃		
生態環境保全学	2	〃		
建設材料学	2	〃		
施設維持管理工学	2	〃		
○化学生命概論	2	化学・生命理工学科		
				合計
				31

○印科目は、免許区分ごとの必修科目を示す。

※他学科・他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

機械科学コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設学科・コース等	修得すべき単位数
職業指導	○職業指導	2	理工学部	2
工業	○電気回路論 I	2	システム創成工学科	29
	通信システム	2	電気電子通信コース	
	電子材料物性学	2	〃	
	半導体LSI工学	2	〃	
	電子デバイス工学Ⅱ	2	〃	
	光エレクトロニクス	2	〃	
	高電圧プラズマ工学	2	〃	
	発電工学	2	〃	
	送配電工学	2	〃	
	電気電子工学特別講義	2	〃	
	電気設計製図	2	〃	
	○情報工学基礎	2	システム創成工学科	
	コンパイラ	2	知能・メディア情報コース	
	ネットワーク実験	1	〃	
	デジタル通信	2	〃	
	信号処理	2	〃	
	情報理論	2	〃	
	データベース	2	〃	
	ヒューマンインタフェース	2	〃	
	メディアシステム	2	〃	
	画像処理とパターン認識	2	〃	
	人工知能	2	〃	
	ロボティクス	2	〃	
	数理計画法	2	〃	
	ハードウェア実験	1	〃	
	○機械材料学	2	機械科学コース	
	○機械工作実習	1	〃	
	○機械基礎製図Ⅰ	1	〃	
	○機械基礎製図Ⅱ	1	〃	
	○CAD実習	1	〃	
	○機械設計学	2	システム創成工学科	
	○機械設計製図	1	機械科学コース	
	○材料力学Ⅰ	2	システム創成工学科	
	○水力学	2	機械科学コース	
	○機械力学	2	システム創成工学科	
	○熱力学	2	機械科学コース	
	○機械加工学	2	〃	
	○制御工学	2	〃	
	○環境とエネルギー	2	〃	
	固体力学	2	〃	
	精密工学	2	〃	
	粘性流体工学	2	〃	
	航空流体工学	2	〃	
	燃焼工学	2	〃	
	生産加工学	2	〃	
	生体工学	2	〃	
	トライボロジー	2	〃	
航空宇宙システム工学	2	〃		
材料力学Ⅱ	2	〃		
伝熱工学	2	〃		
計測工学	2	〃		
ロボティクス工学	2	〃		
○測量学	2	システム創成工学科		
資源循環工学	2	社会基盤・環境コース		
地盤環境工学	2	〃		
公共政策学	2	〃		
水工学	2	〃		
地盤工学	2	〃		
鋼構造学	2	〃		
生態環境保全学	2	〃		
建設材料学	2	〃		
施設維持管理工学	2	〃		
○化学生命概論	2	化学・生命理工学科		
			合計	31

○印科目は、免許区分ごとの必修科目を示す。

※他学科・他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

社会基盤・環境コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設学科・コース等	修得すべき単位数
職業指導	○職業指導	2	理工学部	2
工業	○電気回路論Ⅰ	2	システム創成工学科	29
	通信システム	2	電気電子通信コース	
	電子材料物性学	2	〃	
	半導体LSI工学	2	〃	
	電子デバイス工学Ⅱ	2	〃	
	光エレクトロニクス	2	〃	
	高電圧プラズマ工学	2	〃	
	発電工学	2	〃	
	送配電工学	2	〃	
	電気電子工学特別講義	2	〃	
	電気設計製図	2	〃	
	○情報工学基礎	2	システム創成工学科	
	コンパイラ	2	知能・メディア情報コース	
	ネットワーク実験	1	〃	
	デジタル通信	2	〃	
	信号処理	2	〃	
	情報理論	2	〃	
	データベース	2	〃	
	ヒューマンインタフェース	2	〃	
	メディアシステム	2	〃	
	画像処理とパターン認識	2	〃	
	人工知能	2	〃	
	ロボティクス	2	〃	
	数理計画法	2	〃	
	ハードウェア実験	1	〃	
	○環境とエネルギー	2	機械科学コース	
	固体力学	2	〃	
	精密工学	2	〃	
	粘性流体工学	2	〃	
	航空流体工学	2	〃	
	燃焼工学	2	〃	
	生産加工学	2	〃	
	生体工学	2	〃	
	トライボロジー	2	〃	
	航空宇宙システム工学	2	〃	
	材料力学Ⅱ	2	〃	
	伝熱工学	2	〃	
	計測工学	2	〃	
	ロボティクス工学	2	〃	
	○入門地域創生論	2	社会基盤・環境コース	
	○設計製図	1	〃	
	○測量学	2	システム創成工学科	
	○測量学実習Ⅰ	1	社会基盤・環境コース	
	○測量学実習Ⅱ	1	〃	
	○都市計画学	2	〃	
	○交通計画学	2	〃	
	○コンクリート工学	2	〃	
○鉄筋コンクリート工学	2	〃		
○上下水道工学	2	〃		
○環境工学	2	〃		
資源循環工学	2	〃		
地盤環境工学	2	〃		
公共政策学	2	〃		
水工学	2	〃		
地盤工学	2	〃		
鋼構造学	2	〃		
生態環境保全学	2	〃		
建設材料学	2	〃		
施設維持管理工学	2	〃		
○化学生命概論	2	化学・生命理工学科		
			合計	31

○印科目は、免許区分ごとの必修科目を示す。

※他学科・他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

○農 学 部

農学部（共同獣医学科を除く）では高等学校教諭1種免許状（理科・農業）が取得可能です。そのためには下記のように修得する必要があります。

- ①基礎資格（「学士の学位」）を有している
- ②下記に示した **A表から26単位**と **B表から35単位以上**の合計61単位以上を修得している
- ③教養教育科目から決められた科目と単位数を修得している
（Ⅷ教育職員免許状・各種資格の取得方法（Ⅷ-1ページ）を参照）

詳細については、1年次前期に開講する「教職入門」で説明するので、**免許取得希望者は必ず「教職入門」を履修申告のうえ受講してください。**

A表 教職に関する科目及び修得単位数

	免許法施行規則に規定される科目	授業科目名	履修年次	履修時期	最低修得単位数		
					農業	理科	
教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） ※「（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）」を含む。	教職入門	1	前期	2	2
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ※「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」を含む。 ※「（チーム学校運営への対応を含む。）」を含む。	教育概論	2～	前期	2	2	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育法規	2～	前期	} 1科目 選択	} 1科目 選択	
		学校経営・制度論	2～	後期			2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育・学校心理学	1～	後期	2	2	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2～	前期	2	2	
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な探究の時間の指導法	総合的な学習の時間の理論と実践	2～	後期	2	2
		特別活動の指導法	特別活動の理論と方法	1～	後期	2	2
		教育の方法及び技術 ※「教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）」を含む。	教育課程・教育方法論	2～	前期	2	2
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育における ICT 活用方法	3～		1	1
生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		生徒指導・進路指導	1～	後期	2	2	
教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	1～	後期	2	2	
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習（教育実習事前事後指導含む） （注1・注2）	3～4		3	3	
	教職実践演習（中・高）	教職実践演習	4	後期集中	2	2	
A表 小 計					26	26	

B表 教科及び教科の指導法に関する科目及び修得単位数

	免許法施行規則に規定される科目	授業科目名	履修年次	履修時期	開設科目単位数による最低修得単位数			
					農業	理科		
教科及び教科の指導法に関する科目	理科に関する専門的事項 (注4)	物理学	物理学入門 ※				2	
		化学	化学入門 ※				2	
		生物学	生物学入門 ※				2	
		地学	地学入門 ※				2	
		「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」	基礎物理学実験	}				このうちから 1
			基礎化学実験					
	基礎生物学実験							
	理科の関係科目	(注3)					2 2	
	理科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		理科教育法Ⅰ	2～	前期			2
			理科教育法Ⅱ	2～	後期			2
農業に関する専門的事項	農業の関係科目	(注3)			2 9			
	職業指導	職業指導	1～	前期集中	2			
農業の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		農業教育法Ⅰ	2～	前期	2			
		農業教育法Ⅱ	2～	後期	2			
B表 小 計					3 5	3 5		
A表 B表 合 計					6 1	6 1		

(注1) 教育実習について

1) 教育実習は4年次の6～9月頃に2週間の日程で行います。実習校は原則として各自の出身高等学校とします。

3年次の4月下旬～5月上旬にガイダンスを行ったうえで、7月頃に、実習校への大学からの依頼文を配布し、希望者が実習校に持参することにしてはいますが、実習生の受入人数を制限している学校があるので、実習を希望する学生は、2年次の終わり頃に出身校に連絡を取り、受け入れ手続きの確認をしておいてください。

2) 実習のほかに事前指導(3年次・4年次)と事後指導(4年次)を必ず受ける必要があります。日程は掲示でお知らせしますので、注意してください。

(注2) 教育実習実施にあたっては、下記の条件を全て満たしていなければなりません。

- 1) 卒業見込の者(研究室配属されていること)
- 2) 教職に関する科目の単位の1/2以上(13単位以上)を取得していること
- 3) 教科に関する科目の単位の1/2以上(18単位以上)を取得していること
- 4) 実習で実施する教科の教育法を2単位以上修得していること
- 5) 「生徒指導・進路指導」又は「教育相談」の単位を修得していること
- 6) 教育実習事前指導を受講していること

(注3) 理科及び農業の関係科目に対応する授業科目については、農学部専門教育科目履修表の備考欄の教員免許法上の科目の表示を確認し、所属学科(食料生産環境学科は他のコースも含む。)の科目を修得してください。

なお、各学科で指定されている免許を取得するための必修科目(「必一」が記載された科目)を必ず履修してください。(食料生産環境学科は、所属コース以外の必修科目も必ず履修してください。)

(注4) B表の理科に関する専門的事項のうち、物理学、化学、生物学及び地学の科目として履修する科目は、※印の授業科目が必修科目(一般的包括的内容を含む科目)です。

○教員免許状授与申請について

免許状は都道府県教育委員会に必要書類を取りそろえて申請することによって授与されます。

卒業時に岩手県教育委員会に一括して申請しますので、希望者は必要書類を学生センターA棟④番窓口に提出して下さい。

必要書類や提出の日程については冬季休業前に掲示します。

2 その他各種資格の取得に当たって

所属する学部・学科・課程等によっては、特定科目の単位取得と卒業をもって、各種の資格を取得できたり、資格取得のための試験科目が一部免除される場合があります。

取得できる資格等については次の表にあげるページを参照してください。

また、この「履修の手引き」に掲載されていない資格について講習会等が開催される場合もありますので掲示にも注意してください。

所属学部	資格等の掲載ページ
人文社会科学部	Ⅲ－72ページ
教育学部	Ⅳ－42～66ページ
理工学部	各コース課程表の注釈欄
農学部	専門教育科目履修表の注釈欄

IX

国際教育科目について

IX 国際教育科目について

1. 国際教育科目の理念と教育目標

岩手大学では、次の2種類の内容の「国際教育科目」を開講しています。

① 共修科目群

概要・目的：本学の海外交流協定大学からの交換留学生や日本語・日本文化研修留学生等と本学の学生が共修し、日本や国際社会についての知識を高め、それらについての討論、体験などを通じて、主体的に行動する態度を涵養することを目的とします。授業は日本語または英語で行われます。

対象：本学の海外交流協定大学からの交換留学生、本学の各学部在籍する日本人学生及び外国人留学生在が履修できます。本学の学部生がこの科目を履修した場合、専門教育科目の自由選択科目として卒業要件の単位が認められる場合がありますので、学務課に確認のうえ履修してください。

<共修科目群リスト>

科目区分	授業科目名	単位数	対象学年	開講学期	備考
文化	Comparative Japanese History A	2	1	前期	英語
	Comparative Japanese History B	2	1	後期	英語
	Japanese History A	2	1	前期	英語
	Japanese History B	2	1	後期	英語
国際研修	海外研修	2	2	前期	集中
	海外研修事前事後指導	2	2	前期 後期	教養教育科目「海外研修—世界から地域を考える」および国際教育科目「海外研修」履修者対象
	国際合宿	2	2	前期	集中

※対象学年以上の学生が履修可能です。

※備考欄に「英語」とある科目は英語で授業を行います。

※備考欄に「集中」とある科目は集中講義で開講予定です。

※講師等の都合により、開講しないことがあります。また、この他の科目が開講される可能性があります。各学期の開講案内を確認してください。

②交換留学生専用科目群

概要・目的：本学に在籍する外国人留学生のために、初級から上級まで5レベルの日本語教育、および地域学や研究に関する国際教育を実施します。

対象：本学の海外協定大学からの交換留学生，日本語・日本文化研修留学生に単位が認められます。また，科目区分「日本語」の科目は本学に在学する全ての外国人留学生が受講することができますが，正規学部留学生には単位は認められません。総合科学研究科の正規留学生が「アカデミック日本語」*として登録した科目については単位が認められます。

<交換留学生専用科目群>

①日本語

授業科目名	単位数	開講学期	備考
初級日本語総合	10	前期・後期	月～金×2 コマ
初級日本語総合漢字	1	前期・後期	火・木×0.5 コマ
初級日本語 I 会話	1	前期・後期	
初級日本語 I 表記・読解	1	前期・後期	
初級日本語 I 文法	1	前期・後期	
初級日本語 II 文法	1	前期・後期	
初級日本語 II 漢字	1	前期・後期	
初級日本語 II 会話	1	前期・後期	
中級日本語 I 文法 1	1	前期・後期	
中級日本語 I 文法 2	1	前期・後期	
中級日本語 I 会話	1	前期・後期	
中級日本語 I 読解	1	前期・後期	
中級日本語 I 漢字	1	前期・後期	
中級日本語 I 作文	1	前期・後期	
中級日本語 II 会話	1	前期・後期	
中級日本語 II 文法	1	前期・後期	
中級日本語 II 漢字	1	前期・後期	
中級日本語 II アカデミック日本語	1	前期・後期	
中級日本語 II 読解	1	前期・後期	
中級日本語 II 作文	1	前期・後期	
上級日本語ビジネス日本語	1	前期・後期	
上級日本語アカデミック日本語	1	前期・後期	

② 国際教育

授業科目名	単位数	開講学期	備考
理系研究 A	2	前期	
理系研究 B	2	後期	
特別研究 A	3	前期	大学院科目
特別研究 B	3	後期	大学院科目
農学系研究	1	前期・後期	
農学系特別研究 1	1	前期・後期	大学院科目
農学系特別研究 2	2	前期・後期	大学院科目
農学系特別研究 3	3	前期・後期	大学院科目
岩手学 A	2	前期	
岩手学 B	2	後期	
スクールインターンシップ I	2	前期	
スクールインターンシップ II	2	後期	
個別研究	2	前期・後期	文系・芸術系科目

時間割, 単位数, 履修手続き, 試験, 成績評価等については, 「岩手大学における国際教育科目に関する要項」その他に定めます。

2. 履修方法および開設授業科目

履修については, 本冊子及び時間割を参考にし, 大学からのお知らせ, 中央掲示板および国際課前の掲示等に注意して, 間違いのないように手続きをしてください。具体的な履修方法及び開設授業科目については, 当該学期の開始までに別途掲示によりお知らせします。

各学部, 学科, 課程ごとにそれぞれ履修できる範囲及び修得すべき単位数等が定められていますので, 各学部の説明の項を熟読してください。また, 履修にあたっては前期のみまたは後期のみ開講する授業科目や, 年度により開設しない科目があるので注意してください。

X

関係法規等



国立大学法人

岩手大学

IWATE UNIVERSITY